

# 令和5年度 事業報告書

## 社会福祉法人にしあいつ福祉会

(1) 本部	1 ~ 18
(2) 特別養護老人ホームさゆりの園	19 ~ 43
(3) さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所	44 ~ 49
(4) さゆりの園デイサービスセンターⅡ	50 ~ 64
(5) 西会津町訪問介護事業所	65 ~ 70
(6) 西会津町居宅介護支援事業所	71 ~ 80
(7) にしあいつ地域包括支援センター	81 ~ 94
(8) 障がい相談事業所にしあいつ	95 ~ 100
(9) グループホームのぞみ	101 ~ 104
(10) 西会津町こゆりこども園	105 ~ 116
(11) 西会津町小規模多機能型居宅介護施設高陽の里	117 ~ 123
(12) 西会津町介護老人保健施設「憩の森」	124 ~ 146
(13) 「憩の森」短期入所療養介護事業所	147 ~ 152
(14) 「憩の森」通所リハビリテーション事業所	153 ~ 162
(15) 西会津町地域ふれあいセンター居住部門	163 ~ 166

## 令和5年度 社会福祉法人にしあいつ福社会事業報告

### 1. 基本方針の評価

理念・指針のもと、「健康経営・健全経営」「清潔で安全・安心な施設」「笑顔と質の高いサービス」の3つを重視して、5つの重点目標を達成するための具体的な実行計画を作成して実践し、信頼される「利用したい施設NO1」、「働きたい施設NO1」を目指して取り組み実践した。

### 2. 重点目標

#### (1) 地域社会への貢献

地域貢献活動は親睦会活動を中心に、実施した。SDGsも含め持続可能な地域づくりの取り組み等、具体的内容は、実行報告のとおり。

#### (2) 人材の確保と育成

外国人雇用については、先進施設の実践報告会に参加する機会程度であったが、職員の口コミやホームページ掲載、町商工観光課求人情報などにより、中途採用で常勤職員5名、パート職員3名を採用。また、令和6年度新採用職員の採用試験・面接は9回実施し、新たに介護職員5名、作業療法士1名、保育士2名、登録ヘルパー1名の計9名の雇用につながった。育成等の具体的内容は、実行報告のとおり。

#### (3) 職員の健康づくり

衛生委員会を中心に、実行計画を策定し取り組んだ。具体的内容は、実行報告のとおり。

#### (4) 環境の改善・整備

デジタル化については、デジタル化推進チームを中心に取り組み、改善提案制度による提案の増加を促すための方法など検討実施。年間の提案件数は、12件で内4件が採用となった。取り組みの具体的内容は、実行報告のとおり。

#### (5) 社会の変化への適切な対応

令和3年度介護報酬改定に係る経過措置終了に伴う対応や令和6年度介護報酬改定に向けての環境づくりに取り組んだ。具体的内容は、実行報告のとおり。

令和5年度 社会福祉法人にしあいつ福社会事業報告

重点目標における実行報告

(1) 地域社会への貢献

法人の有する資源を活用し、地域貢献活動を積極的に推進するとともに、SDGsの達成を目指し、持続可能な地域づくりに取り組む。

実行計画内容

① 地域振興への貢献のため、町主催の行事である「西会津ふるさとまつり」や「雪国まつり」へ積極的に参加して、地域の人とふれあっていく。

◇評価

・「第38回西会津の文化と産業祭」西会津ふるさとまつりでは、【健康福祉まつり部門】に参加した。高齢者作品展には各施設・事業所が日頃のレクリエーション活動の中で作成した作品を出品し、小規模多機能型居宅介護施設高陽の里の「七福神」が大賞、「憩の森」通所リハビリの「ようじdeパズル」は佳作を受賞し、まつりに花を添えた。また、「あなたの街の福祉会」コーナーでは高齢者事業所の作品展示、こゆりこども園の児童の写真、福祉会の全事業所の写真や各々の特徴を記載した大きな用紙を掲示することで、当法人を知ってもらう機会になった。

・町の「雪国まつり」では灯籠づくり等のイベントに参加は予定していたが、積雪が少なかったことで灯籠づくりは中止となった。

② 開発途上国の子どもワクチン支援のため、改善提案制度で採用された「エコキャップ回収活動」に、職員の親睦会活動として取り組む。

◇評価

・「エコキャップの回収活動」の期間を年1回で設定し、全事業所で取り組んだ。全部で重量30kgが集まり荒川産業株式会社に運び「世界の子どもにワクチンを日本委員会」の活動に協力した。(広報にしあいつ福社会65号には活動の様子の写真を載せ、荒川産業株式会社のホームページには寄付団体として法人名が掲載されている。)

③ 資源リサイクルに貢献するため、燃えるゴミとして取り扱っている「紙」を分別して出せるように、改めて指定日を設定する。

◇評価

・年度当初は、燃えるゴミとしての「紙」分別は法人の7割の施設・事業所が行っていたが、本部から資源リサイクル貢献の重要性を発信するとともに指定日(第4木曜日)を設定したことで、現在は全事業所が実施している。

④ 住民が減少している地域の生活の維持や環境保全に貢献するため、小中学生不在の小さな集落・地域へのリサイクル活動に参加協力する。

◇評価

・6月4日(日)午前7時から2時間程度、小中学校のリサイクル活動・新郷奥川地区に職員21名が参加協力した。

⑤ 施設や事業所周辺及び町内の環境保全のために、職員の親睦会活動として事業所ごとにゴミ拾いを年2回実施する。

◇評価

・5月から7月の間に、各事業所がゴミ拾いの日時や場所について年2回企画し、その内容を全事業所で共有調整することで日時・場所について重ならず、各々が年2回実施できた。場所によっては、車から投げ捨てられたと思われるゴミを大量に回収したところもあり、環境保全に貢献した。

⑥ 職員の働きがいと地域の経済成長につながるように、西会津町における介護を発展させ継続していくことを目指して、福祉産業と介護技術向上の基盤づくりのため、介護3.0理論の研修や実践に取り組む。また、ケアの質の向上のため、科学的介護情報システムを取り入れる。

◇評価

・介護3.0実践研修は、外部指導者のもとに特養さゆりの園、老健「憩の森」で実施しており、基本コンセプトである「世界に誇れる田舎ケア」をもとに、自分たちの仕事に誇りをもって取り組んでいることを外部にメッセージ発信するために、ポスター制作も行い職員の意識も高まっている。介護技術についても「入浴」や「排泄」を中心に、個浴の取入れや紙おむつから布パンツへの移行改善、薬ではなく食品活用での便秘解消方法等、今まで以上に利用者個別のケア方法の検討と実践に取り組みが行われている。科学的介護情報システムについては、特養さゆりの園、老健「憩の森」で実行しており、ケアの質向上に必要な視点は標準化されつつある。次年度以降は他の事業も取り組みについて検討していきたい。

⑦ 介護が重い状態の利用者へ、健康的な爪の維持と改善のためにネイルケアに取り組む。

◇評価

・小規模多機能型居宅介護施設高陽の里と「憩の森」通所リハビリ以外は、定期的実施している。(別紙実績)事業所によっては、担当職員が介護業務優先の状況が続き、実績は少ない事業所もあるが、ネイルケアの実践を広報誌に掲載したことがきっかけで、特養では職員OBのボランティアによるフットケアマッサージがほぼ毎週実施され、ネイルケアの前に行われることで、むくみの改善など足全体のケアの相乗効果が確認された。次年度のネイルケアは、健康的な爪の維持と改善のために、全事業所で実施できるように担当者を増やしていく。

⑧ 自然災害や感染症が発生しても利用者への介護サービス提供が継続できるように、事業継続計画を作成する。

◇評価

・法人内で各々の事業所の事業継続計画の作成進捗状況について、令和6年1月にサービス内容別に4グループ（施設・通所・訪問・居宅介護）に分け、お互いに確認し合った。その時点で未完成が3事業所あったが、年度末で全事業所の素案は完成した。そのなかで、法人の合同防災委員会が作成した「職場における防災マニュアル」が令和4年4月以降更新されていないことや、今回作成した各事業所の自然災害に関する事業継続計画との整合性に課題がある事が分かった。そのため、来年度は合同防災委員会の他に「自然災害BCP作成プロジェクト」を立ち上げ、有事の際にも法人としての機能を継続していくために法人版の自然災害事業継続計画を作成することとなった。

(2) 人材の確保と育成

外国人雇用を視野に入れ、優秀な人材確保を積極的に進め、キャリアパスを推進し、研修体系を整え、内外の研修の充実を図り、資格取得など全職員の資質向上に積極的に取り組む。

実行計画内容

① キャリアパス制度の運営を推進していくために、キャリアパス職位別研修、人事考課者研修等を開催する。また、制度への理解促進のみならず求人（人材の確保）にも用いることが出来るように、キャリアパス制度の概要を分かりやすく記載したキャリアパスブックを新たに作成し活用していく。

◇評価

・キャリアパス職位別研修会および人事考課者研修会については、7～8月に「係長」「副係長」「リーダー」の職位職員を対象に実施した。しかし、「新人」「初任者」「一人前」「ベテラン」職位等の職員研修については実施出来なかったため、継続して取り組んでいく。また、キャリアパスブックについては、第1稿を作成し新採用職員のオリエンテーションに活用できた。さらに次年度は、職員の求人活動にも用いることが出来る内容としていくため、改訂を実施していく。

② 人材の確保を進めるために、「介護3.0実践研修」と連携しSNS（Instagram）を活用した発信および求人対策に取り組んでいく。また、リクルーター養成講座へ職員を派遣し、介護施設における地元の中学校、高校生の職場見学・体験等の受け入れを通して、職場の仕事と魅力を伝える担当職員を養成していく。

◇評価

・「介護 3.0 実践研修」と連携し SNS (Instagram) を活用した発信および求人対策については、10 月から老健「憩の森」を中心に試行を開始し、フォロワー300 人を超える状況に至った。次年度は、広報委員会に SNS (Instagram) 班が設置される予定であり本格運用に向け取り組んでいく。また、リクルーター養成講座を受講した職員 1 名を担当職員とし、西会津高校で開催された未来の西会津をテーマにした「総合的な探求の時間」の授業に講師として派遣し、にしあいつ福祉会の介護サービス等についての説明を行った。加えて、西会津中学校へアントレプレナーシップ教育支援として職員 1 名を派遣し、後日、老健「憩の森」における学生 8 名の職場見学と体験の受け入れに繋がった。

③ ネイルケアによる利用者の満足度向上を図るため、新規にネイルケア養成講座にてネイリストを養成していく。

◇評価

・新規ネイリスト養成については、1 名が養成講座を受講しネイリストとして活動できた。その他の取り組みとして、ネイリストがネイルコンサルタントから定期的に指導を受け技術研鑽できる機会を設けてきた。また、特養さゆりの園においてはフットケアボランティアと連携したネイルケアの実践により、利用者の満足度向上に取り組んだ。次年度においては、さらに 4 名の新規ネイリストの養成を行っていく予定である。

(3) 職員の健康づくり

ふくしま健康経営優良事業所に認定されたことを新たなスタート地点とし、健康診断の結果を生かし、健康づくりメニューを作成し、職員一人一人も目標をもって取り組み、心身の健康維持に努める。

実行計画内容

① 職員一人一人の健康目標を支援するために、職員本人が健康診断の結果を受けて、自身の健康目標を設定し、衛生委員会に提出してもらう。衛生委員会は、組織全体の健康診断の結果で要精検や要指導等の数が多い項目について、職員に向けた研修プログラム（健康メニュー）を作成し、研修会を企画する。衛生委員会は、企画した研修会プログラム（健康メニュー）を職員に配布して、参加を促す。職員は、自分の目標達成に向けて研修会に参加し、健康課題に取り組み、解決に向ける。衛生委員会では、期間を定めて目標達成状況について、把握する。（ただし、特定保健指導該当者は、特定保健指導を受けることにする）

◇評価

・健康診断の対象職員の受診は、人間ドック受診含めて100%の受診率。受診結果が届いた職員には、「元気に働くための私の健康目標」という自身の目標とその目標に向けた取り組み内容を記載した健康計画書を作成してもらい、提出してもらった。組織全体の健康診断結果は、糖、脂質、肝臓、血圧の項目に要精検や要指導等が多いことが把握された。衛生委員会では町保健師に相談し、その背景に生活習慣が大きく関係していることの助言を受けて、多くの職員に共通するため、町保健師を講師に迎えて全職員を対象に同じ内容での研修を3回に分けて、12月と1月に実施。パート職員含む全職員の72%が受講した。自身の健康課題への取り組み結果は、評価期間3ヶ月とした目標達成率は、一番達成率の高い事業所は75%で法人全体では48.3%だったが、目標設定が高すぎたことも原因であった。(特定保健指導該当者は14名だった)

② 職員の健康の悪化を予防するため、衛生委員会は2次検診対象者が受診することを積極的に啓発し、受診状況については保健衛生協会に確認する。

◇評価

・2次検診対象者は、速やかに受診するように、事務局会議及び衛生委員会で事業所ごとに呼びかけをするように周知した。毎月の衛生委員会では、保健衛生協会に確認した前月末の受診率を共有。また、気になる職員には上司が個別に声かけして気づかい、受診のために休みが取りやすい環境を整えてもらうように、各事業所の管理者には委員から働きかけた。3月31日時点の2次検診の受診率は、がん検診で87.5%、その他の2次検診受診率は44.2%。高血圧や脂質異常等の直接症状が現れない段階の精密検査の受診率は低い。次年度は、全ての2次検診対象者への働きかけ必要。

③ 健診結果に問題がない職員等については、健康づくりのために西会津町が推進している「健康ポイント手帳」を活用して、健康づくりを行う。衛生委員会は、職員の健康づくりへの関心度を高めるために、毎月事業所ごとに「西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳」への職員の参加率を把握して、公表する。

◇評価

・7月分から事業所別参加率を事務局会議の場で、実績表を配布し公表している。法人全体の参加率は統計開始当初の7月は30%だったが、8月は49%、9月は53%、10月は60%、11月66%、12月79%、1月81%、2月86%、年度末は89%と、新しい職員が増えても参加率は向上している。今後も健診結果で問題がない若い世代の職員も「こゆりちゃん健康ポイント手帳」を実施することで、口腔ケアや野菜を摂取する食生活を実践し、この先も現在の健康が維持できることを確認してもらうようにしたい。

(4) 環境の改善・整備

施設設備の充実と仕事のデジタル化を図り、職員の福利厚生の実現に取り組み、改善提案制度等を活用し、利用したい・働きやすい環境の一層の改善・整備に努める。

実行計画内容	
① 事務の効率化による福利厚生の実現を図るため、デジタル化推進チームと協働し、電子ファイルに加工した法人共通の規則規程・マニュアル・手続き書類等をパソコンの端末で閲覧し取り込みができるように、ペーパーレス化に対応した事務環境を整備する。	
◇評価	
・デジタル化推進チームと協働して、法人共通の規則規程・マニュアル・手続き書類等を電子ファイルに加工し、各事業所のパソコン端末で閲覧し取り込みができる環境を整備し事務業務の効率化につなげた。しかし、その他のペーパーレス化に対応した環境整備については、各事業所にて各々取り組んできたところではあるが、進捗に差異もあり全体的な整備には至らなかった。そのため、次年度も継続して取り組んでいく。	
② オンラインによる研修や会議が円滑に実施できるように、各事業所のオンライン環境の改善及び周辺機器の導入を行う。	
◇評価	
・各事業所のオンライン環境の改善及び周辺機器の導入を行い、オンラインを活用した研修や会議が実施出来る環境を整備した。11月に実施した「介護3.0実践研修及びコレック会議報告会」においても、各事業所間の双方向通信が安定化したため、円滑に実施できた。	
③ 改善提案制度による提案の増加を促すため、未来戦略チームと協働し、既存の紙面による提案方法に加え、デジタル化による提案しやすい方法を検討実施する。	
◇評価	
・未来戦略チームと協働し、Google Forms（グーグルフォーム：オンラインでアンケート等を実施できる様式）を用いた改善提案様式案は作成できたが、実際の運用までは至らなかった。運用方法として「マチコミアプリ」と連動し活用していくことを想定しており、その環境整備に次年度も継続して取り組んでいく。	

(5) 社会の変化への適切な対応

社会の変化や、それに伴う制度改正等を確実に把握して、研究と研修を推進し、改革に積極的に取り組み、利用者と職員の満足度を一層高める。



## 実行計画内容

### ① 令和3年度介護報酬改定に係る経過措置の終了に対して計画的に準備

下記の事項について、努力義務だったが経過措置が終了するので、それぞれの事業所が計画的に進め、中間期に策定の進捗状況を、年度末に完成形を法人内で確認していく。

1. 感染症の発生又はまん延の防止に関する取り組みの措置  
(感染症委員会の開催、指針の整備、研修・訓練の実施)
2. 業務継続に向けた取組の強化  
(BCPの策定、研修・訓練の実施)
3. 高齢者虐待防止の推進  
(虐待の防止のための対策を検討する委員会の開催、指針の整備、研修の実施、担当者の選任)

#### ◇評価

・令和5年度の法人内部監査内容は上記事項についての整備状況を、各事業所担当者（入所系、通所系、訪問介護系、居宅支援系の事業所グループに分かれて実施）が互いに確認する内容で実施した。特に業務継続計画（BCP）については、各事業所ごとの作成進捗状況の把握だけでなく、未完成だった事業所においても以降の作成や改訂作業の参考に繋がった。また、法人事業所内で共有できるような備品等は、一括購入したほうが経費削減に繋がることや、法人本部として業務継続計画（BCP）が必要であることなど、課題把握ができたことで次年度の新たな取り組みへ繋げることができた。

### ② 令和6年度介護報酬改定について

法人各事業所が次年度の法改正において速やか且つ適正に対応するため、現時点での方向性など常にアップデートされた情報を共有できるよう厚生労働省介護給付費分科会等から定期的に収集し、随時データ転送で各事業所へ発信する。

#### ◇評価

・特養さゆりの園、老健「憩の森」、地域包括支援センターは所属する各協議会等から、介護保険最新情報について情報が定期送信されるので入手しやすい。しかし、グループホームのぞみ、小規模多機能型居宅介護施設高陽の里については難しいため、担当より最新情報内容についてプリントアウトし情報提供したり、Q&Aを確認するよう周知してきた。最新情報を収集しづらい事業所でも、意識的に情報を得ようとする姿勢に繋がり、法人各事業所が最新情報のもと遅滞なく法改正に適切に対応できる環境づくりを整えた。

理事会開催状況

開催通知施行 年月日	開催年月日	出席者数 定数	出席者の 書面決議書	議案等の名称	欠席者 氏名	監事出席 者の氏名
令和5年4月24日	令和5年5月29日	6/6	なし	有価証券の資金運用報告について 令和4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会事業報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会苦情解決第三者委員の選任について 社会福祉法人にしあいづ福祉会給与規程の一部改正(案)について 令和4年度社会福祉事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和4年度公益事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会各拠点区分決算について 平成4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会決算について 令和5年度社会福祉事業区分補正予算(第1次)(案)について 令和5年度公益事業区分補正予算(第1次)(案)について 理事候補者の推薦の提案について 監事候補者の推薦の提案について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について		薄定雄 岩原稔
令和5年5月29日	令和5年6月13日	6/6	なし	理事長の選定について 業務執行理事の選定について 施設長の選任について		薄定雄 高橋謙一
令和5年11月1日	令和5年12月21日	6/6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会パート職員就業規則の制定について 社会福祉法人にしあいづ福祉会就業規則の一部改正について 社会福祉法人にしあいづ福祉会役員等報酬規程の一部改正について 社会福祉法人にしあいづ福祉会給与規程の一部改正について にしあいづ福祉会職員育児休業等に関する細則の一部改正について 令和5年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第2次)について 令和5年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分補正予算(第2次)について		薄定雄 高橋謙一
令和6年2月5日	令和6年3月5日	6/6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会登録ホームヘルパー就業規則の一部改正について 令和5年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第3次)について 令和5年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分補正予算(第3次)について 令和6年度社会福祉法人にしあいづ福祉会事業計画(案)について 令和6年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分予算(案)について 令和6年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分予算(案)について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について		薄定雄 高橋謙一

本年度

評議員会開催状況

	開催通知施行 年月日	開催年月日	出席者数 定数	議案等の名称	欠席者 氏名	監事出席 者の氏名
本年度	令和5年5月15日	令和5年6月13日	7/8	有価証券の資金運用報告について 令和4年度社会福祉法人にしあいつ福祉会事業報告について 令和4年度社会福祉事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和4年度公益事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和4年度社会福祉法人にしあいつ福祉会各拠点区分決算について 平成4年度社会福祉法人にしあいつ福祉会決算について 令和5年度社会福祉事業区分補正予算(第1次)(案)について 令和5年度公益事業区分補正予算(第1次)(案)について 理事の選任について 監事の選任について	山口政信	薄定雄 岩原稔
	令和6年3月8日	令和6年3月27日	7/8	役員等報酬規程の一部改正について 資金運用規程に係る運用責任者の任命について 令和5年度福祉事業区分補正予算(第3次)について 令和5年度公益事業区分補正予算(第3次)について 令和6年度事業計画について 令和6年度社会福祉事業区分予算について 令和6年度公益事業区分予算について	荒海孝子	

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	令和5年度リクルーター養成研修(前期)	1. 新しい採用手法の概要説明～伝達ゲームで学ぼう～ 2. モチベーションリソース 講師 株式会社トリムタブ 岸守明彦氏	介護員	青津泰平	R5. 7. 25	福島県社会福祉協議会 郡山商工会議所
2	令和5年度特定給食施設等講習会	1. 衛生管理について 講師 会津保健所 衛生推進課 職員衛生監視員 2. 栄養管理について 県の取り組みについて 講師 会津保健所 健康増進課 栄養指導員 3. 栄養ケアの質を高めよう!～あなたならどう考える?～ 講師 NPO法人 布沙管理栄養士 公益社団法人日本栄養士会 理事 加藤すみ子氏	管理栄養士 管理栄養士 栄養士 調理員 調理員 調理員 調理員 調理員	石川美智子 佐藤明日香 三瓶知美 渡部まゆみ 清田菜緒 清野恵子 大石由紀 物江文江 佐藤孝哉	R5. 9. 16	福島県会津保健所 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
3	令和5年度社会福祉法人監事研修	社会福祉法人の監事が実施する会計監査のポイント 講師 渡辺公認会計士事務所 公認会計士・税理士 渡辺和栄氏	監事 監事	薄定雄 高橋謙一	R5. 9. 19	福島県社会福祉協議会 ビッグパレットふくしま
4	令和5年度リクルーター養成研修(後期)	1. 前期課題の振り返り 2. 採用プロセスコミュニケーションの概要説明 3. 100本ノック 4. リフレーミングについて 講師 株式会社トリムタブ 岸守明彦氏	介護員	青津泰平	R5. 9. 20	福島県社会福祉協議会 郡山商工会議所
5	令和5年度社会福祉法人理事研修	財務諸表を読み解き経営に活かす 講師 ラッセルズ株式会社代表取締役 平野健一郎氏	業務執行理事 理事 理事 理事	伊勢亀久美子 物江正俊 新田新也 矢部哲也	R5. 10. 3	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
6	介護3. 0実践研修・先進地視察研修	介護3. 0理論を実践している先進地の視察研修	理事長 業務執行理事 課長 介護係長 介護副係長 介護副係長 介護リーダー 介護リーダー 介護リーダー 介護リーダー	大竹享 伊勢亀久美子 伊藤健治 大田真紀 須藤正子 鈴木由紀 三留江利子 石川修 佐藤康弘 尾形亮太	R5. 10. 5	にしあいづ福祉会 介護付有料老人ホーム新 特別養護老人ホーム栗林荘

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
7	西会津町事業所の健康づくり連絡会	1. 情報提供 (1) 西会津町における地域・職域連携推進事業のイメージ (2) 事業所の健康づくり支援(町事業・県事業) 2. 学習会「町内・会津地域の事業所の健康づくりについて」 (1) 医療から見た西会津町の健康課題と取組み (2) 会津地域の事業所の健康づくりの取組み (3) 「RAIZAP×西会津健康セミナー」について 3. グループ討論 (1) 印象に残った内容・興味を持った内容 (2) 職員への健康管理・健康増進の支援について	業務執行理事 事務員	伊勢亀久美子 田崎美香	R5.10.17	西会津町 西会津町役場大会議室
8	安全運転管理者講習	安全運転について	業務執行理事 事務課長	伊勢亀久美子 津川修二	R5.11.7	喜多方地区 安全運転管理者協会 喜多方プラザ
9	安全衛生推進者養成講習	1. 安全管理、安全衛生教育、危険性または有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置等 講師 労働安全衛生コンサルタント 湯田亨氏 2. 安全衛生関係法令、健康の保持増進対策、作業環境管理及び作業管理 講師 労働衛生コンサルタント 中村寿雄氏	業務執行理事	伊勢亀久美子	R6.1.15～ 1.16	一般社団法人 会津労働基準協会 会津アピオスペース
10	令和5年度メンタルヘルスセミナー	メンタルヘルスとストレスケア 講師 一般社団法人竹田健康財団 竹田綜合病院 診療部長 こころの医療センター長 小藪江浩一氏	業務執行理事 事務員	伊勢亀久美子 田崎美香	R6.1.22	全国保険協会福島支部・ 福島産業保健総合 支援センター
11	令和5年度社会福祉法人会計実務者決算講座	正しい会計処理、決算実務のポイント 講師 公認会計士・税理士・岩波一泰氏	業務執行理事	伊勢亀久美子	R6.1.30	AOZ (アオウゼ) 全国社会福祉法人 経営者協議会 さゆりの園相談室 (オンライン研修)

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
12	令和5年度精神障害者・発達障害者雇用促進セミナー	<p>1. 障害者雇用促進法と会津地域の障害者雇用の状況について 講師 会津若松公共職業安定所 雇用指導官 小椋雄大氏 職業指導官 櫻井優太氏</p> <p>2. 精神障害の障害特性と雇用上の留意事項について 講師 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構福島支部 福島障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 中野智子氏</p> <p>3. 障害者雇用の実例について 講師 有限会社利通 代表取締役 眞鍋利光氏</p>	事務員	田崎美香	R6.2.2	会津若松公共職業安定所 会津アピオスペース
13	高年齢労働者が安心して働ける職場づくり	<p>高年齢労働者が安心して働ける職場づくり 講師 福島県産業保健総合支援センター 労働衛生専門職 五十嵐健一氏</p>	<p>業務執行理事</p> <p>衛生管理者</p>	<p>伊勢亀久美子</p> <p>須藤歩美</p>	R6.2.9	<p>福島県産業保健総合支援センター</p> <p>福島テレサ</p>

2. 施設内研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加人数	開催日	場所
1	介護3.0実践研修	老健「憩の森」現場アドバイス 講師 地域包括ケア研究所 カタリスト 介護クリエイター 横木淳平氏	憩の森 介護員		R5. 4. 25 R5. 5. 25 R5. 6. 8 R5. 7. 12 R5. 8. 9 R5. 9. 6 R5. 10. 11 R5. 11. 23 R5. 12. 6 R6. 1. 10 R6. 2. 7 R6. 3. 13	憩の森
2	介護3.0実践研修	特養「さゆりの園」現場アドバイス 講師 地域包括ケア研究所 カタリスト 介護クリエイター 横木淳平氏	さゆりの園 介護員		R5. 4. 26 R5. 5. 26 R5. 6. 9 R5. 7. 13 R5. 8. 10 R5. 9. 7 R5. 10. 12 R5. 11. 24 R5. 12. 7 R6. 1. 11 R6. 2. 8 R6. 3. 14	さゆりの園
3	令和5年度介護技術指導者 向け研修会	事例検討による介護術指導の実践について 講師 一般社団法人ふくしまをリハビリで元気にする会 理事長 岡本宏二氏	各事業所介護 リーダー、リハ ビリ専門職、介 護技術OJT担 当者	13名 11名 8名 11名 10名 9名 11名 9名 12名 9名	R5. 5. 30 R5. 6. 27 R5. 7. 25 R5. 8. 22 R5. 9. 26 R5. 11. 28 R5. 12. 26 R6. 1. 23 R6. 2. 27 R6. 3. 26	憩の森デイケア室

4	衛生委員会事業の実施理由について	<ol style="list-style-type: none"> <li>腰痛検診</li> <li>肝炎検査・ワクチン接種</li> <li>健康診断</li> <li>インフルエンザワクチン接種</li> <li>ストレスチェック</li> <li>職場巡視</li> <li>照度測定</li> <li>衛生ニュース</li> </ol>	衛生委員	9名	R5.7.19	さゆりの園会議室
5	合同夜間避難訓練	通報訓練・避難訓練	全職員		R5.7.21	さゆりの園
6	令和5年度にしあいづ福祉会キャリアパス「係長」「副係長」「リーダー」職位職員研修	「リーダー」職位用研修（第1部） 人事考課者研修（第2部）	リーダー	10名	R5.7.12 R5.8.1 R5.8.2	さゆりの園会議室 憩の森デイケア室
		「係長」および「副係長」職位用研修（第1部） 人事考課者研修（第2部）	係長・副係長	26名	R5.8.1 R5.8.2	さゆりの園会議室
7	照度測定について	<ol style="list-style-type: none"> <li>照度測定とは</li> <li>照度測定方法</li> </ol>	衛生委員	11名	R5.8.16	さゆりの園会議室
8	腰痛予防研修会	全国健康保険協会 福島支部 健康づくりサポート事業 出前講座「肩こり・腰痛予防ストレッチ」	全職員	89名	R5.9.1～ 9.30	各事業所
9	職場におけるハラスメント対策セミナー	<ol style="list-style-type: none"> <li>職場におけるパワーハラスメント</li> <li>職場におけるセクシャルハラスメント</li> <li>職場における妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント</li> <li>職場におけるハラスメントを考える</li> <li>ハラスメント防止のための事業主が雇用管理上講ずべき措置等</li> <li>ハラスメント防止のための関係者の責務</li> <li>事業者が自らの雇用する労働者以外の者に対する言動に監視行うことが望ましい取組みの内容</li> <li>事業主がほかの事業主の雇用する労働者等からのパワーハラスメントや顧客等からの迷惑行為に関し行うことが望ましい取組み</li> </ol>	副係長以上	42名	R5.10.6 R5.10.12 R5.10.18	さゆりの園会議室 (オンライン研修)



10	介護3.0現場実践研修&コレック進捗報告会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場実践1年の変化・現地の共有。今後に向けての意識合わせ（現場実践）</li> <li>2. 新たに作られたこれから目指していく介護コンセプトの共有（コレック）</li> <li>3. 医療介護連携推進基本構造PJ</li> </ol>	正規職員 (保育士以外)	92名	R5.11.10 R5.11.24	さゆりの園会議室 憩の森デイケア室
11	健康づくり研修会	健診結果から自分の健康を見直そう 講師 西会津町健康増進課 健康支援係 保健師係長 二木美津子氏 保健師 佐藤美菜氏、内山豊夏美氏	全職員	144名	R5.12.21 R5.12.22 R6.1.12	さゆりの園 デイサービスセンターⅡ
12	夜間合同避難訓練	通報訓練	老健職員		R5.12.25	憩の森

にしあいづ福祉会ネイリスト 令和5年度ネイルケア実施人数報告書

【さゆりの園】

	男性	女性	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	1	4	5
8月	3	14	17
9月	5	18	23
10月	5	26	31
11月	2	26	28
12月	8	23	31
1月	8	2	10
2月	4	18	22
3月	4	32	36
合計	40	163	203

【憩の森】

	男性	女性	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	1	3	4
7月	2	4	6
8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	1	3	4
11月	9	15	24
12月	0	0	0
1月	3	13	16
2月	1	8	9
3月	2	7	9
合計	19	53	72

【デイケア】

	男性	女性	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	3	4	7
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	3	4	7

令和5年度ネイルケアコンサル  
(講師同行研修)

日付	場所	受講人数
8月11日	さゆりの園	4名
10月9日	憩の森	5名
12月9日	デイⅡ・のぞみ	5名
2月17日	さゆりの園	5名
3月2日	支援ハウス	5名

※現在5名のネイリストが在籍しています。研修の参加人数はネイリストの参加人数になります。

【デイⅡ】

	男性	女性	合計
4月	7	21	28
5月	3	12	15
6月	2	26	28
7月	7	22	29
8月	5	20	25
9月	3	10	13
10月	4	12	16
11月	2	7	9
12月	4	21	25
1月	0	15	15
2月	6	14	20
3月	5	16	21
合計	48	196	244

【のぞみ】

	男性	女性	合計
4月	0	4	4
5月	0	3	3
6月	0	3	3
7月	0	3	3
8月	0	3	3
9月	0	3	3
10月	0	3	3
11月	0	3	3
12月	0	3	3
1月	0	3	3
2月	0	3	3
3月	0	0	0
合計	0	34	34

【全事業所合計】

	男性	女性	合計
4月	7	25	32
5月	3	15	18
6月	6	36	42
7月	10	33	43
8月	8	37	45
9月	8	31	39
10月	10	44	54
11月	13	51	64
12月	12	47	59
1月	11	33	44
2月	11	43	54
3月	11	55	66
合計	110	450	560

令和5年度 苦情受付・解決状況

事業所名：法人全体

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	3	0	0	0	0	0	3
	家族	5	1	2	0	0	0	0	8
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		5	4	2	0	0	0	0	11

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	5	0	0	0	0	0	5
職員の態度 (接遇)	4	0	0	0	0	0	4
サービスの質 (内容)	2	0	0	0	0	0	2
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	11	0	0	0	0	0	11

令和5年度

特別養護老人ホームさゆりの園事業報告

## 1. 基本方針の評価

にしあいづ福祉会における理念・指針及び特別養護老人ホームさゆりの園運営方針・基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を展開した。その中において、施設サービス計画に基づき入所者が有する能力に応じ、自立した日常生活及び満足感のある生活を営むことができるように、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。また、新型コロナウイルスが感染症法上第5類に移行したことで、感染予防対策を講じながらも、利用者にとって大切な方と交流できる面会等の取り組みについて、工夫しながら行ってきた。そして、令和5年度は外部コンサルタントによる施設内実践研修も本格化し、さゆりの園の目指すビジョン「利用者の生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事ができるケア」の実現に向け、質の高い個別ケア実践に取り組んできた。

## 2. 重点目標

- (1) さゆりの園の目指すビジョン「利用者の生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事ができるケア」の実現

外部コンサルタントによる介護3.0（お世話をする介護から「その人らしさ、その人らしい生活を取り戻すキッカケづくりの介護へ」「その人らしく輝いていられる本質的な介護を実践すること」）の施設実践研修を毎月実施し、令和5年度は特にスタッフのマインドセット（今までの固定された先入観にとらわれず、業務改善をするためのスタッフ一人ひとりの意識改革）に重点を置き、質の高い個別ケア提供のための知識と技術を少しずつ実践に移しているところである。具体的な取り組みとしては、各係のスタッフそれぞれが3つのプロジェクト（排泄・入浴・日中の過ごし方）に参画することで、責任感と協調性を培いながら個別ケアの実践をしている。排泄プロジェクトではおむつ交換からトイレ誘導へ、テープ式おむつから紙パンツや布パンツへと、利用者のプライドや尊厳を守るケアを中心に実践し、実際に車いすの方が介添えで歩けるようになるなどADL向上に繋がった事例もあった。入浴プロジェクトでは個室を導入し、保清のための入浴目的だけでなく、リラクゼーション効果向上の入浴ケアを目指し実践し始めたところである。日中の過ごし方プロジェクトでは、「夏祭り」や「脳トレカフェ」など様々な催し物の企画や、季節に合わせた施設内の装飾の工夫、利用者の作品展示などの環境づくり、また移動売店で買い物を月1回企画し社会参加の機会をつくるなど、施設生活における利用者の楽しみづくりに力を入れている。以上のような成功事例を少しずつ積み上げながら、スタッフも喜びややりがいを持って取り組めるケアを目指し、次年度も引き続き個別ケアの中身を充実させていく。

- (2) 「健康経営・健全経営」を重視した、心身の健康増進と質の高いケアの実現

健康経営の取り組みとして、さゆりの園では1日2回のラジオ体操が習慣化し、業務の合間にできる限り時間を確保しながら、スタッフだけでなく利用者と一緒にいき、運動不足解消及び利用者と共に心身のリフレッシュ効果をもたらしている。町のこゆりちゃん健康ポイ

ント手帳を活用した取り組みにおいても、全スタッフの活用率 100%を維持しているため、今後も健康意識を高めるツールとして継続していきたい。また、健康診断結果に基づいたスタッフ各々の健康目標達成に向けての取り組みについては、その達成率に個人差はあるものの、健康改善・維持の意識は着実に向上している。

健全経営の取り組みとして、看護係においては診療所の医師との情報共有等の連携においてタブレットを積極的に活用し、利用者の体調変化等への迅速な対応に役立てている。また、LIFE（科学的介護情報システム）については令和 5 年 5 月より運用を開始し、科学的介護推進体制加算の取得に至ったところである。そして、昨今の物価高騰に伴う対策として、再生紙の活用、消耗品等の購入の工夫、節電、適温を意識した燃料費の節約、資源ごみのリサイクルなど、経費削減と共に SDGs も意識した事業運営に取り組んできた。

令和5年度 特別養護老人ホームさゆりの園  
 重点目標に対する各係における実行計画年間評価

(1) さゆりの園の目指すビジョン「利用者も生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事出来るケア」の実現

職種・係	実行計画内容
相談	<p>① さゆりの園における個別ケア（尊厳を大事にするケア）の取り組みを強化する為に、モニタリング及びアセスメントをより丁寧に行う。視点としては、特に三大介護の個別化とケアに反映させるリスクマネジメントを意識し、利用者一人ひとりに合わせたケアの統一に力を入れていく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントにおいてモニタリング及びアセスメントは、各居室担当職員から聞き取りをしたり、各プロジェクトの取り組みにおいての個別ケアを、施設サービス計画書に反映させることができた。例えば、排泄プロジェクトであれば、今までおむつ交換だった方について、立位状況を確認しながらトイレ誘導したり、おむつに便が付着していたらポータブルトイレ誘導をすることで自然排便を促すなど、排泄間隔を取り戻す取り組みを施設サービス計画に立案・実施し、1日の中で何回かポータブルトイレで排泄できるようになった等成果が見られている。また、リスクマネジメントでは、本人の現在の状況において今後考えられるリスク（誤嚥、怪我等）についても施設サービス計画書に立案し、日々のケアに反映させるとともに、家族等へリスクの説明、共有をすることで現状の理解を促すことができた。</li> <li>・短期入所介護計画の様式を変更し、居宅サービス計画書における本人、家族の意向や短期目標を記載し共有しやすくすることで、短期目標が達成できているか等評価がわかりやすくなった。</li> </ul> <p>② 今年度も、本人にとってのより良い暮らしへの支援の追求として、「センター方式シート」や「ひもときシート」等の認知症理解の為のツールを活用し、利用者がどのような状態や状況にあり、何を望んでいるのかを常に考える支援を定着させる取り組みを行う。具体的には各居室担当者を主として年に2～3事例の取り組みとグループワークを企画する。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃のケアを振り返り利用者を深く知る機会づくりとして、事例検討会を企画した。6月に対象者を決め、居室担当者を主に事例の手直しを共にしながら作成を進めていたが、具体的な事例検討会まで進むことができなかった。事例検討を予定していた利用者は、ほぼすべての日常生活において全介助であった。だが、介護3.0の取り組みにより、トイレ誘導の立位をきっかけに自分で車イスへの移乗・移動等ADLが向上した経過がある。また、「バレーボール見んなんね」や「野球勝ったね」など、テレビ放送しているスポーツに関心を持ち、観戦したいなどの意思伝達・意思決定場面が増えた。</li> </ul>

	<p>③ 利用者及び家族心情に配慮し、感染対策を適切に行いながらの大切な方との交流方法等について多職種と協議し、With コロナの時代に対応していく新たな取り組みを実践していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の写真や近況を載せたメッセージカードについては今年度も3ヶ月に1度のペースで家族等に送付し、特に遠方在住の家族からは、「遠くにいるとなかなか会えないので、今こんなふうに過ごしているんだなと感ずることが出来て良かった」など好評だった。</li> <li>・「家に帰りたい」と希望する入所者の思いに沿えるよう、県外在住のご家族の支援を調整したり、感染予防対策を多職種で協議しながら外泊支援を実現することができた。本人も家族も満足され「こういう機会があつてありがたかった」と喜ばれていた。</li> <li>・現在面会は玄関先、窓ガラス越し、オンライン面会の3つの方法で実施している。コロナ禍となってから緊急やむを得ない時以外の館内への入館は見合わせていたが、次年度は面会方法を再検討し、入所者の生活の様子や雰囲気を感じていただけるような工夫を取り入れていく。</li> </ul>
看護	<p>① 利用者の生活ペースに合わせられるように、多職種と連携し業務改善に取り組む。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排泄、入浴の3大介護の中で、看護の必要な部分に携わる機会をつくる。</li> <li>・排泄の間隔やパターンを観察、分析し、利用者のペースに合わせた排泄介助に繋げられるように多職種と取り組む。</li> </ul> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事：フリー番がいる時は昼食介助にできるだけ携わった。その際利用者の表情を見ながら、美味しく食べられるように食事の順番に気をつけ、利用者のペースで食事ができるように考えて食事介助を行った。また終末期の利用者の食べる意欲・嚥下・摂取状況はその日の体調の判断基準として観察できた。経管栄養の利用者は介護3.0の取り組みで離床する時間を持つため、夕食時リクライニング車椅子に乗車しカウンター前で実施した。他の利用者の輪に入り、少し賑やかな雰囲気を感じていただき活気ある表情や目の動きなどを観察できた。</li> <li>・排泄：排泄プロジェクトより、薬以外の食品で自然な排泄を促すという介護職の相談に対して、それを医師に繋げ実践できた。効果がある利用者数名は継続している。</li> <li>・入浴：従来利用者の処置は、入浴後居室で改めて行っていた。今年度は脱衣所で入浴後に行っている。そうすることで介護職と創部の状態確認と共有ができていく。また着脱の回数が減ることで、利用者の身体の負担の軽減と生活時間に合わせた対応ができた。</li> </ul>
	<p>② 利用者の生活が豊かになるよう、看護職員もレクリエーションや行事等に携わる機会づくりをしていく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月から6月は散歩行事、12月はホットケーキ作りやクリスマス会の行事に参加した。利用者との行事に参加できない職員は、午前のラジオ体操時に大広間で利用者と一緒に実施することで、お互いが笑顔になりコミュニケーションが図れる機会が増えた。</li> </ul>
介護	<p>① 日々の「業務」をもう一度「ケア」と捉え直し実践していくことで、「個別ケア」への転換を目指す。その中で効果的なケアの見直し、改善を進める。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p>

	<p>・プロジェクトを通して、オムツ交換からポータブルトイレ誘導、機械での入浴から個浴、リクライニングから車イス、移動売店での買い物等、個別で考えられるようになり利用者のADLやQOLの向上につながった。少しずつだが「個別ケア」への転換ができています。また、プロジェクトを立ち上げる前は決められた事をやるだけであったが、自分事としてとらえられるスタッフが増えてきた。今後も各プロジェクトを中心に「個別ケア」を意識した取り組みをしていく。</p> <p>② 「入浴」「排泄」「日中の過ごし方」を見直す3つのプロジェクトを、介護係全員で担当割にすることで、責任感と協調性を培い、それぞれのプロジェクトで利用者に満足して頂けるケアと、職員が喜びややりがいを持って取り組めるケアを追求する。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴プロジェクトは、「個浴」を導入し、個浴の介助を学びながら実践している。今までの入浴介助と比べ、「個浴」を通して利用者の気持ち良さそうな表情や「気持ちいい」等の言動から、職員も喜びややりがいを感じ、目指すべきケアを実感できた。今後もADLを向上させる入浴、リラクゼーション効果向上の入浴、生活リハビリとしての入浴、その為のスタッフのスキルアップを目指す。</li> <li>・排泄プロジェクトは、「テープ式オムツから紙パンツへ、オムツ交換からポータブルトイレ誘導へ」移行し、「オムツ交換を当たり前にしなない」取り組みができた。高齢者は便秘になりやすいので、薬に頼らない自然排便を目指す取り組みとして、オリーブオイルの服用を取り入れ実施している。まだ大きな効果は見られていないが、継続していく。次のステップとして、現在定時での排泄ケアを行っているの、その方にあった個別の排泄ケアの時間を検討し実行していく。</li> <li>・日中の過ごし方プロジェクトは、「夏祭り」「脳トレカフェ」「ホットケーキパーティー」等、月に1回催しを企画し実行した。利用者からは「またやって欲しい」や「楽しかった」等喜ばれた。12月からは月に1回セブンイレブンの移動売店を依頼し、社会とのふれあいの機会を作ることができた。また、施設内に雛人形を飾ったり、利用者の作品を展示したり等、施設内の装飾にも力を入れ、利用者を楽しんで頂く取り組みができた。その他、車イス生活からの脱却ということで、日常の過ごし方の質を高める為に、イスへ移乗する「生活リハビリ」を開始した。少しずつ取り組みを増やしていく。</li> </ul> <p>③ 「介護技術指導者向け研修会」「外部コンサルタントによる施設内研修」「外部研修」等を通して、基本的な介護スキルを高める。利用者の残存機能を活かした介助等、学んだことを実践することで利用者のADLの改善や職員の腰痛予防等に繋げていく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護技術指導者向け研修会」に、弱視で不穩の訴えが強い方の事例を提示した。事例検討でアドバイスを受けたこと（具体的には想いを傾聴したり、時刻を音声で知らせる時計を取り入れたり、普段の接し方や声のかけ方等）をケアスタッフで共有し実践した。その方に合ったケア方法を実践し、利用者の満足につながることができた。「外部コンサルタントによる施設内研修」ではトランスファーや個浴介助等を学び、利用者の残存機能の活用、職員の腰への負担軽減等を図れた。現状で学んで実践している職員は一部なので、次年度はマイスターを育て、そこから他職員へ普及させていく。</li> </ul>
機能訓練	<p>① 利用者の希望や必要性に応じ、足浴や手浴等のリラクゼーションも含めた楽しめるリハビリを検討し、試行を行う。それにより、現在よりも細やかな個別リハビリの実施を目指す。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手浴や足浴を試行し、実施した利用者は手指の関節可動域が柔らかくなる等の効果が出た。</li> </ul> <p>② 入浴、排せつ、食事の三大介護において重要となる姿勢に着目し、安楽で安定した姿勢の確認を適宜行い、環境設定等をはじめとした介護技術者指導者向け研修会等で学んだ事を生かし、その都度アドバイスを実施する。また、可動域制限がもたらす日常生活への影響</p>



	<p>や骨折リスク等を適宜情報共有し、ポジショニングの目的や必要性などの説明を行う事で理解を深め、利用者に合わせたポジショニングと統一したケアの実施に繋げる。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術指導者向け研修会で学んだ内容について、事例に対する取り組み等の情報を、参加したリーダーと協力して実際の介護に活かした。ポジショニングの提案や事故検証の場にて、目的や必要性、ポジショニングに使用するストックネット等の取り扱いについても伝達できた。情報共有と、ポジショニングに使用する物品に直接使用方法を記入し、統一したケアの実施に繋げた。</li> </ul> <p>③ 感染対応下でも実施可能な、作業療法の視点を含めたレクリエーションや集団体操の内容の検討を行い、感染状況等を見極めつつ可能な範囲で試行する。利用者の身体機能等を踏まえ、可能な内容を取り入れる事で、楽しみを持ってもらうことを目指す。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中の過ごし方プロジェクトと連携し、ちぎり絵等の個別で取り組めるリハビリを実施できた。また、感染状況等を見ながら、利用者マスク着用にて、発声練習や脳トレの要素を入れた集団体操を実施した。</li> <li>・好評であった発声練習や脳トレの要素を取り入れた集団体操を実施できた。感染対応下でも可能なリハビリやレクリエーションについて作業療法士に相談したが試行、実施には至らなかった。</li> </ul>
<p>栄養</p>	<p>① 利用者の為に、想いを尊重した取り組みをする。四季折々、旬の素材を使用し、それを活かした食を栄養係一体となり提供する。（イベント（行事）食やリクエスト献立、ソフト食の充実等）</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全調理員から行事食の献立案を募り、係会議において季節を感じられる献立と調理方法について検討し提供できた。また、見た目でも楽しめるソフト食を提供できた。（1月：鮭の照り焼き 3月：ほうれん草の白和え）</li> </ul> <p>② 個々人の嗜好に応じた食事機会（外食や出前、テイクアウト）等を企画し、楽しみを持てる食を検討していく。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーメンの出前では「おいしかった。また食べたい」との声があり、その様子を家族に報告するととても喜ばれた。クリスマスには“鶏の揚げ物”年末には“刺身”などテイクアウトではあったが、利用者に喜ばれる取り組みを多職種で企画し実践できた。</li> </ul> <p>③ 各係と連携し、利用者の日々の体調変化に合わせた食事提供を臨機応変に行っていく。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送り等で多職種間で情報共有し連携する中で、体調の変化、嚥下機能の低下、主治医の指示に応じた食事提供を行えた。また、著しい体重減少や褥瘡発生者に対し栄養補助食品の提供で改善を図れた。</li> </ul>
<p>事務</p>	<p>① 直接処遇部門へのデジタル化を提案し業務改善及び軽減に繋げ、またマチコミを活用し、感染情報等の共有をタイムリーに行なう。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <p>■デジタル化による業務負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護係より「検温表」作成の相談及び依頼を受け、看護が作成している利用者一覧をファイルで受取り、検温表への入力と印刷を自動化した。これにより、毎月ゴム印を使い作成している事務的な業務を30分程度削減することができた。</li> <li>・定款や規則・規程のデータ化、パソコン上で面会予約表の共有化等を行い、直接処遇部門の業務負担軽減を図った。（面会予約</li> </ul>

	<p>をパソコンに直接入力可能にすることで、内線でのやり取り及び確認等の手間と時間を省くことが出来た。)</p> <p>■マチコミの活用等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マチコミでの情報共有については、祝祭日でも感染情報をリアルタイムで周知し、当日勤務していない職員に対しても、最新の情報を速やかに共有することができた。また、インターネットの契約（速度）を見直し変更したことで通信環境が良くなり、快適にオンライン研修等を行えるようになった。</li> </ul> <p>② 社会保険の適用範囲が拡大し、加入条件を満たすパート職員等も加入義務が生じた。育児休業、介護休業及び傷病休暇等々、社会保険の仕組みや保障等について、求められた際に説明及び必要に応じた手続き等の対応を行ない、職員が安心して業務に従事できるよう努める。また、働きやすい労働環境推進のため、労働災害の再発防止に繋げる。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <p>■求められた際の説明等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者に対しては各担当事務職員へ伝えるなどし、速やかな手続きへと繋げることができた。社会保険の適用範囲の拡大に伴う該当者及び労働条件の変更により加入要件から外れる等の場合、各届出に該当する職員に対し手続きに必要な書類提出を直接説明するなど、職員にとって不利益が生じることのないよう適宜迅速に対応することができた。書類を預かった際には、個人情報等も含まれるため、速やかに手続きをし保管まで適切に行った。特に、職員に支給されるものや徴収せざるを得ないものが発生する手続き等については、懇切丁寧に説明を行った。</li> <li>・勤務体制が変更になった際は加入条件を満たしているか確認をし、必要に応じて説明や手続きを行った。また衛生管理者の職場巡視において指摘があった事項においては、事業所間で周知し、検討・改善を行い、職員が安心して業務に従事できるよう環境づくりに努めた。</li> </ul>
--	---

(2) 「健康経営・健全経営」を重視した、心身の健康増進と質の高いケアの実現

職種・係	実行計画内容
相談	<p>① 健康増進の取り組みとしては今年度も個人の健康に関する目標設定と、「こゆりちゃん健康ポイント手帳」や関連アプリ等を活用しながらの健康維持改善の取り組みを各自実施していく。また、昨年度から実施している事業所内での毎日のラジオ体操には積極的に取り組み、引き続き運動不足やストレスの解消の一つのツールとする。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、健康維持改善の取り組みが定着した。毎日のラジオ体操もできる限り積極的に取り組んでいる。9月に実施した健康診断の結果に基づき、再度健康に関する目標を設定した。12月、1月に法人研修として実施した健康づくり研修会に参加後、日頃の野菜摂取量や栄養成分についても留意するようになった。個々の健康目標の達成までには至らなかったが、健康改善・増進の意識は着実に前進している。次年度も、目標を再設定し半年ごとに確認しながら取り組んでいく。</li> </ul> <p>② LIFE（科学的介護情報システム）を運用するにあたり、定期的なデータ提出が必要な為、提出一覧表を活用し月始めに次月分を確認することで、遅滞なく管理できるようにする。また、厚労省からのフィードバック（科学的に裏付けされた質の高いサービス提供推進</p>

	<p>の為のデータ、そのケアが必要とされる根拠)については、施設サービス計画の立案、サービス担当者会議や日々のカンファレンス等で組み入れていくことで、施設全体で LIFE が浸透するようにする。</p> <p>◇評価 (具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能訓練係にデータを作成してもらい、声を掛け合いながら管理できた。半年ごとにデータを提出したが、厚生労働省からのフィードバックの確認ができず、ケアに反映させることはできなかった。</li> </ul>
看護	<p>① 業務の忙しい中でもできる限り事業所内でのラジオ体操の時には意欲的に参加し、健康増進の取り組みを行っていく。</p> <p>◇評価 (具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操の曲が流れたら、一旦仕事の手を止めて皆で大広間の利用者のところへ移動するよう心掛けた。利用者が私たちの動きを目で追い、一緒に体操に参加していただけることで励みになりリフレッシュできた。1月頃より習慣化してきた。</li> </ul>
	<p>② タブレット (iPad) を導入したので、今年度は業務内で活用の幅を広げ、更なる業務の効率化を図る。</p> <p>◇評価 (具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの使用頻度が多くなり業務の幅が広がった。例えば、状況に応じて医師や診療所へ LINE で報告、またショートステイ利用者については、西会津診療所の看護師と情報共有ができ業務の効率化が図れた。他、休日に利用者から胸が苦しいとの訴えがあり、心電図の記録を医師に送信し指示を受けたこともあった。また、日々の処置の中で利用者の表皮剥離や帯状疱疹の発疹、身体所見や経過の比較などでも利用し多職種と共有することができた。今後もタブレットやパソコンに関して、新しい知識を取り入れて業務の効率化につなげていきたい。</li> </ul>
	<p>③ LIFE の運用にあたり、看護職としても根拠のある質の良いケアの実現に向け連携していく。</p> <p>◇評価 (具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は介護 3.0 の実践により、質の良いケアの実現に向けて多職種と連携してきた。併せて LIFE の運用で低アルブミン値が確認された方については、食事摂取量や体重増減、筋力低下などを観察した結果を医師へ報告した。医師の指示の下、栄養係と連携し栄養改善につながった。まだ LIFE の運用が活動的ではないため、どのように活かせるか不明だが、LIFE の情報を吸収し根拠のある質の良いケアにつなげていきたい。</li> </ul>
介護	<p>① 健康増進の取り組みとしては、「こゆりちゃん健康ポイント手帳」を活用したり、健康診断の結果を生かし、各自健康増進の目標を掲げ実践していく。</p> <p>◇評価 (具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こゆりちゃん健康ポイント手帳」は全員が活用し、そこから運動不足や野菜摂取不足等、各自の改善点が見えた。事業所内の毎日のラジオ体操も習慣化され実施できている。健康診断の結果から各自健康目標を定め、健康維持改善の取り組みができた。達成した者は半分程度ではあったが、また、健康に対する意識を高めることもでき、健康増進を図ることができた。</li> </ul>
	<p>② LIFE の運用に伴い、厚労省からのフィードバックを活用し、更なるケアの質向上を図る。</p> <p>◇評価 (具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚労省からのフィードバックがなかったため活用はできなかったが、LIFE を通し統一した指標の下で評価を行うことにより、利用者の具体的な観察ができ、より細かな状態把握の共有が図れた。</li> </ul>

機能訓練	<p>① 昨年度から引き続き、事業所内で実施するラジオ体操等の健康増進活動等へ意欲的に参加し、腰痛などの労災事故を防ぐ。また、業務内だけではなく私生活も含めて、心身の健康に関する目標を定め、それに向けて取り組んでいく事ができる業務環境を作る。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操には意欲的に取り組む事ができた。また、元々アプリにて健康管理を実施していたが、それに加えこゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、更に健康への意識を持ち取り組む事ができた。</li> </ul> <p>② 機能訓練係では、現在電算化可能な書類は全て電算化が終了している。そのため、科学的介護推進体制加算の取得に伴い、個別機能訓練計画書を LIFE 提出形式に切り替え、個別機能訓練加算Ⅱの取得を目指す。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別機能訓練計画書については、LIFE に提出できる書式に切り替えが終了した。個別機能訓練加算Ⅱの安定取得に必要な3か月毎の計画見直し等についても実施しており、取得可能な状態にすることが出来ている。今後同じく3ヶ月ごとに管理が必要な栄養強化マネジメント加算に関わる栄養係等と相談し、取得に向けて進めていく。</li> </ul> <p>③ LIFE の円滑な運用を行う為に、介護・看護係から収集したデータの入力・管理等を確実にを行い、相談係等の他の係と連携し科学的介護推進加算体制加算の安定取得を実施する。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月請求と11月請求で大半の利用者の LIFE のデータ入力・管理を実施した。適宜進捗等についても相談係と連携し進める事ができた。早い段階から各係に記入用の評価書類を配布する際、記入のポイントなどについても評価用紙に付属し、早い記入ができるように働きかけた。</li> <li>・評価を記入する介護職員に向けて、BI（バーセルインデックス：ADL 評価指標）や DBD13（認知症行動障害尺度）等の評価に関する資料配布と説明を行った。より統一した評価指標の下で評価ができるようになった。更に評価制度を高める為に、評価基準が分かりやすいさゆりの園独自の評価記入用紙を作成し、来年度から導入していく。</li> </ul>
栄養	<p>① 毎月の接遇目標を厨房内に掲示する。業務開始前には目標の唱和を行い、落ち着いた気持ちで業務に取り組む。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を基に課題を抽出し厨房内に接遇目標を掲示した。業務前の唱和は十分に行えなかったが、落ち着いた気持ちで業務に取り組むことに繋がった。</li> </ul> <p>② 始業前、休憩前後にストレッチ体操を継続して実践することで、労働災害防止、長時間の立ち仕事による腰痛予防と気分のリフレッシュを図る。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月にストレッチ体操ポスターを作成し厨房に掲示し意識することができた。11月からは老健の理学療法士の助言を基に、腰痛予防に効果的で気軽に取り入れやすいストレッチ体操に取り組み、腰痛予防と転倒による労災事故を予防できた。</li> </ul> <p>③ 多職種連携にて利用者毎に栄養状態の把握を行い、課題等があれば早期に適切な対処ができるマネジメントを実践する。又、LIFE の運用に伴い、栄養マネジメント強化加算取得に繋げていく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p>

	<p>・栄養スクリーニングでは情報を確認し、アセスメントで低栄養状態の課題を把握することで具体的な栄養計画を作成した。その中の事例では、低カリウム血症の利用者に対し食品（バナナ）を提供しカリウム値の改善に繋がられた。LIFE の栄養ケアマネジメントの記入項目は、機能訓練係と協力して入力してきたため、栄養マネジメント強化加算取得の準備は整った。</p>
事務	<p>① 物価高騰、資源の有効活用のため、再生紙の利用や不要な電力や燃料の節約を努めるとともに、施設内が快適に保たれるよう室温調整について声掛けをしていく。また、備品等を大切に長く使用できるように留意し、健全経営を目指す。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <p>■物価高騰、資源の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生紙を有効に活用し、両面印刷が可能な書類についてはその対応を職員へ伝えるなどし、資源の無駄を省く行動をした。紙類についても資源ごみとしてリサイクルするよう心掛け、物価高騰による消耗品を極力安価なもので対応できるよう直接処遇部門と検討した。（看護のプラスチックグローブ、N95 マスク、ガウン等の感染用品）</li> <li>・不要な電力を消費しないよう、適宜消灯等を行い節電に努めた。室温については、感染対策の観点から換気する時間が長くなるため、職員同士で互いに声掛け等を行い、夏季はエアコンの温度を 27℃前後自動設定とし、冬季は必要なければ暖房ボイラーを停止するなどし、燃料の節約を行った。</li> </ul> <p>■備品等の使用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備品を大切に使用することを呼びかけ、故障や不具合等が発生した場合には修繕可能なものは速やかに対応し、購入となった場合も入札等を行い、経費削減を図った。</li> </ul> <p>② 職員一人ひとりが健康診断結果をもとに、自らの健康状態を把握したうえで目標を設定し、改善・維持のための実践を行なう。また 1 日 2 回のラジオ体操を実施し、「こゆりちゃん健康ポイント手帳」の活用を推進することで定着を図り、デスクワークによる運動不足解消やストレス発散に繋げる。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <p>■健康目標設定と改善・維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断での結果をもとに自身の健康目標を設定し、その達成に向けて各個人が意識し、ラジオ体操の実施やポイント手帳の活用をすることにより、健康ポイント手帳の参加率 100%を達成した。そして普段から健康を意識するようになり、自身の生活を見直すと共に、改善へ繋げることができた。</li> <li>・ラジオ体操についても放送を忘れることのないよう、事務所職員を中心に声かけをしながら実施した。また、1 日 2 回ラジオ体操を実施したことで、デスクワークによる肩こり・腰痛の予防・改善に繋がり、また気分転換にもなり、集中力アップにも繋がった。</li> </ul>

令和5年度 特別養護老人ホームさゆりの園利用実績・入所者の状況

(1) 入所利用実績 (年間)

	実人数						延べ人数
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
4月	1	0	10	26	13	50	1,453
5月	1	0	10	27	12	50	1,486
6月	1	0	10	26	13	50	1,489
7月	1	1	10	26	13	51	1,545
8月	1	1	10	26	13	51	1,550
9月	1	1	10	26	13	51	1,523
10月	1	1	11	27	13	53	1,569
11月	1	1	9	27	13	51	1,530
12月	1	1	9	28	12	51	1,529
1月	1	0	11	27	12	51	1,457
2月	1	0	12	26	11	50	1,424
3月	1	0	12	26	11	50	1,550
合計	12	6	124	318	149	609	18,105

(2) 新規入所状況 (年間)

	自宅		病院		老健		有料		GH		小規模		特養等		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
4月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5月	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
6月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2月	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	3	0	1	1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	13

(3) 退所状況 (年間)

	死亡		施設看取り での死亡		在宅復帰		長期入院		他施設へ 移動		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
4月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
5月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
10月	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1月	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	5
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	3	0	4	0	0	0	0	1	0	12

※令和6年3月31日現在、入所者数50名にて

(4) 年齢別性別入所者状況

(単位：人)

	～64 歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100 歳～	合計
男性	0	2	1	0	3	4	0	0	0	10
女性	0	2	2	0	2	7	18	7	2	40
合計	0	4	3	0	5	11	18	7	2	50
比率 (%)	0	8	6	0	10	22	36	14	4	100

平均：87.5歳 (最高101歳 最低66歳)

(5) 介護度区分状況

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率 (%)
要介護1	1	0	1	2
要介護2	0	0	0	0
要介護3	4	8	12	24
要介護4	4	22	26	52
要介護5	1	10	11	22
更新申請・区変中	0	0	0	0
合計	10	40	50	100

平均介護度：3.92

## (6) 在所期間状況

(単位：人)

	1年未 満	1～3 年	3～5 年	5～ 10年	10～ 15年	15～ 20年	20～ 25年	25年 以上	合計
男性	2	4	1	2	1	0	0	0	10
女性	8	16	12	4	0	0	0	0	40
合計	10	20	13	6	1	0	0	0	50
比率 (%)	20	40	26	12	2	0	0	0	100

男性平均 4年2ヶ月      女性平均 2年8ヶ月      全体平均 2年11ヶ月

男性最高 10年2ヶ月      女性最高 7年5ヶ月

## (7) 出身市町村別

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率 (%)
西会津町	9	39	48	96
会津若松市	1	0	1	2
喜多方市	0	1	1	2
合計	10	40	50	100

## (8) 介護状況

## ① 食事摂取動作状況

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率 (%)
自立	9	19	28	56
一部介助	0	9	9	18
全介助	1	10	11	22
経管栄養	0	2	2	4
合計	10	40	50	100

## ② 行動 (移動)

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率 (%)
主にベッド上	0	2	2	4
車椅子 (自立)	6	4	10	20
車椅子 (介助)	4	31	35	70
歩行器等使用	0	1	1	2
独歩	1	1	2	4
合計	11	39	50	100



## ③ 排泄状況

(単位：人)

	性別	日中	合計	比率 (%)	夜間	合計	比率 (%)
オムツ交換	男性	3	26	52	10	39	78
	女性	23			29		
誘導(トイレ・P トイレ使用)	男性	8	22	44	3	9	18
	女性	14			6		
自立(トイレ・P トイレ使用)	男性	1	2	4	1	2	4
	女性	1			1		
合計		50	50	100	50	50	100

## ④ 入浴状況

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率 (%)
一般浴	1	4	5	10
中間浴(座位式リ フト)又は個浴	9	36	45	90
機械浴(臥床式)	0	0	0	0
合計	10	40	50	100

<令和5年度のボランティア活動実績>

※新型コロナウイルス感染症予防対策で、館内でのボランティア活動は基本的に中止中

1) 定期

ボランティア名	活動内容	活動日
長谷川スミエ様	フットケアマッサージ	毎週金曜日

2) 随時

ボランティア名	活動内容	活動日
下小島老人クラブ	畑の耕うん、花植え	令和5年6月6日 令和5年6月18日
東北電力会津ダム管理センター ー阿賀野川ダム管理所	施設内の電灯清掃・交換	令和5年11月28日

<令和5年度の実習生受け入れ実績>

実習者名や団体名	受入日時
介護職員初任者研修施設実習（成田広喜、大竹誠之）	令和5年11月15日
介護職員初任者研修施設実習（沼田美沙、三留年光）	令和5年11月17日

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	令和5年度全会津介護支援専門員協会総会・記念講演	地域包括ケアシステム構築における在宅医療・介護連携推進事業の取組みについて 講師 会津若松市在宅医療・介護連携支援センター	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員  生活相談員兼 介護支援専門員	伊藤健治  瓜生彩香	R5. 4. 17	全会津介護支援専門員協会  さゆりの園 (オンライン研修)
2	バーセルインデックス評価研修	1. バーセルインデックス評価の概要 2. 食事 3. 移乗 4. 整容 5. トイレ動作 6. 入浴 7. 移動 8. 階段昇降 9. 更衣 10. 排便コントロール 11. 排尿コントロール	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員  生活相談員兼 介護支援専門員  作業療法士  理学療法士	伊藤健治  瓜生彩香  中田菜津美  赤城夕奈	R5. 4. 21～ R5. 7. 31	全国老人福祉施設協議会  さゆりの園会議室 (オンライン研修)
3	令和5年度介護支援専門員専門研修 I	1. 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状 2. ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実践 3. ケアマネジメントの実践における倫理 4. 対人個別援助技術泳簿地域援助技術 5. 個別での学習及び介護支援専門員相互間の学習 6. リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例 7. 認知症に関する事例 8. 看取り等における看護サービスの活用に関する事例 9. 入退院時等における医療との連携に関する事例 10. 家族への支援が必要な事例 11. 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例 12. 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R5. 7. 13～ 9. 13	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会  さゆりの園相談室 (オンライン研修)
4	高齢者福祉施設・事業所における虐待の防止について	高齢者虐待とは 講師 弁護士 長野祐紀氏	看護師	原優香	R5. 4. 28	全国老人福祉施設協議会  さゆりの園相談室 (オンライン研修)

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
5	令和5年度社会福祉施設等職員初任者基礎研修	講義1 「社会福祉施設等の職員としての心構え」 講師 社会福祉法人博愛会 代表理事 大島一浩 氏 講義2 「利用者の尊厳」～苦情と権利擁護～ 講師 医療創生大学 心理学部 臨床心理学科 教授 鎌田真理子 氏	看護師	原優香	R5. 5. 19	福島県社会福祉協議会 さゆりの園相談室 (オンライン研修)
6	県内高齢者向け新型コロナウイルス感染症対策セミナー	1. 高齢者施設等におけるCOVID-19 5類への移行に伴う対応 講師 福島県立医科大学 総合内科 臨床感染症学講座教授 三藤栄一郎氏 2. 新型コロナウイルス感染症対策 これまでの振り返りと今後の感染対応について 講師 福島県県南保険福祉事務所 伊藤理氏	介護副係長	齋藤恵美	R5. 5. 30	福島県高齢福祉課 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
7	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員研修	1. 中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 2. 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める 中堅職員としてのフォローアップの醸成 3. チームケアと問題解決ー遭遇要因分析ー 講師 福島県社会福祉協議会 人材研修課 課長 高岡寿哉 氏 主幹 斉藤知道 氏 社会福祉法人愛星会 理事長 星光一郎 氏 白河学園 園長 鈴木栄一 氏 4. 啓発科目の講義と演習 5. 行動指針の策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県老人福祉施設協議会 事務局長 高木健 氏 特別養護老人ホーム聖・輝きの郷 園長 齋藤龍哉 氏 社会福祉法人誠心会 理事兼事務局長 谷平耀宗 氏 福島県社会福祉協議会 地域福祉課 主幹 大和田誠 氏	生活相談員兼 介護支援専門員 理学療法士 事務員 介護員	瓜生彩香 赤城夕奈 田崎美香 佐川寿美	R5. 6. 22～ 6. 23 R5. 6. 29～ 6. 30 R5. 7. 20～ 7. 21 R5. 7. 27～ 7. 28	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
8	令和5年度介護施設における安全対策担当者養成研修	1. 制度説明と目的 講師 社会福祉法人青山里会 小山田特別養護老人ホーム 施設長 近藤 辰比古氏 2. 介護事故の実態とリスクマネジメント・ヒヤリハット活用及び苦情窓口 講師 株式会社福祉リスクマネジメント研究所 所長 一般財団法人 鳥野財団 代表理事 びわこ学院大学 学部長 教授 鳥野猛氏 3. 介護事故の実態と対応(転倒・誤嚥事故) 講師 社会福祉法人新生福祉会 理事長 山中康平 氏 4. 介護事故が発生した場合の対応や紛争予防策について 講師 宮澤潤法律事務所 弁護士 埼玉医科大学医学部非常勤講師 長野佑紀 氏 5. 身体拘束の適正化と虐待防止 講師 社会福祉法人新生福祉会 理事長 山中康平 氏	介護係長 介護リーダー 介護リーダー 理学療法士	江川正樹 石川 修 佐藤康弘 赤城夕奈	R5. 7. 12 R5. 7. 19 R5. 7. 15	全国老人福祉施設協議会 さゆりの園相談室 (オンライン研修)
9	認知症介護基礎研修 eラーニング	1. 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方 2. 認知症の定義と原因疾患 3. 認知症の中核症状と行動 4. 認知症ケアの基礎技術	介護員	佐藤富士江	R5. 6. 22	社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修 仙台センター
10	令和5年度社会福祉法人事務長等研修	「社会福祉法人に求められる危機管理・ガバナンス強化」 ・取り巻く環境の変化と社会福祉法人に期待されること ・社会福祉法人で求められるガバナンス ・環境変化とリスクマネジメント ・演習「リスクの洗い出しと共有化」 ・身近なリスク(ハラスメント、不適切な支援) ・心理的安全と心理的な安心を育むマネジメント ・演習「現場でガバナンス強化をするために」等 講師 株式会社ビーコンラーニングサービス コンサルタント 笠井 伸彦 氏	施設長	伊勢亀久美子	R5. 9. 11	福島県社会福祉協議会 さゆりの園相談室 (オンライン研修)
11	令和5年度全会津介護支援専門員協会 第1回研修会	権利擁護と成年後見制度について～事例から考えてみよう～ 講師 特定非営利活動法人あいづ安心ネット 理事長 小池達哉氏 理事 菊地恵子氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R5. 8. 28	全会津介護支援専門員協会 会津アピオスペース
12	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯課程管理職員研修	1. 管理職員としてのキャリアデザインと環境整備 2. 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する 3. 人材アセスメント 4. 啓発科目の講義と演習 5. 行動指針の策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 株式会社エイデル研究所 経営支援部 主任コンサルタント 社会保険労務士 田中幹也 氏	事務係長 看護係長	齋藤恵子 登島純子	R5. 10. 12～ 10. 13	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
13	令和5年度人材育成ミーティング	人材育成の悩みや育成方法などを話し合い、情報を交換・共有し、解決の糸口を探る	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員  事務員	伊藤健治  山口裕太	R5.10.19	福島県老人福祉施設協議会 ビッグパレットふくしま
14	令和5年度キャリアパス制度における評価実務者研修	～正しい評価でキャリアパスを機能させ、職員モチベーション向上に寄与する～ 1. キャリアパスに評価が必要な意味を理解する 2. 様々な評価の仕組みと取り組み方のポイント 3. 目標管理運用のポイント 4. キャリアパス連携型評価制度を構築する 5. 評価結果の活用方法を考える 6. 人材育成を目的として面接のあり方を学ぶ 7. 職員のモチベーションを高める面接の実践 8. 正しい評価の手法を学び人材育成に活かす 9. 評価ケーススタディ 講師 株式会社エイデル研究所 経営支援部 コンサルタント 鷲木大輔氏	施設長  課長  事務課長  看護係長  介護係長  栄養係長	伊勢亀久美子  伊藤健治  津川修二  登島純子  江川正樹  石川美智子	R5.11.7～ 11.8	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
15	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修	1. チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 2. 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成 3. OJTの効果的促進 意図的・計画的職員指導・育成の展開 講師 福島県社会福祉協議会 事務局次長・総務企画課長 村島克典氏 金山町社会福祉協議会 事務局長 加藤ゆき氏 福島市社会福祉協議会 元 事務局長 遠藤潔氏 4. 啓発科目の講義と演習 5. 行動指針の策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉協議会 事務局次長・総務企画課長 村島克典氏 社会福祉法人つばさ福祉会 理事長 古川彰彦氏 生活介護事業所父の夢 サービス管理責任者 国分祐樹氏	介護リーダー  看護副係長  介護リーダー	佐藤康弘  齋藤恵美  三留江利子	R5.11.9～ 11.10  R5.11.16～ 11.17  R5.11.21～ 11.22	福島県社会福祉協議会  福島県総合 社会福祉センター
16	令和5年度喜多方地域定住自立圏認定調査員合同勉強会	1. 認定調査票 2. 模擬演習	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R5.11.17	喜多方圏域3市町村 さゆりの園会議室 (オンライン研修)

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
17	令和5年度生活相談員研修会	1. ソーシャルワーカーとしての基盤 2. 業務の見える化 3. 業務の関係づけ 4. 相談員に期待される7つの専門機能と活用場面 5. 相談員が持つべき9つの視点 6. ソーシャルワーク関係事例の検討 講師 生活と福祉マインド研究室 主宰 梅沢佳裕氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R5.12.5	福島県老人福祉施設協議会 ビッグパレットふくしま
18	令和5年度社会福祉施設栄養士研修	～糖尿病の食事の関わり方について～ ・糖尿病ってどんな病気？栄養士にできること ・糖尿病の栄養管理の基本と食事・おやつについて ・栄養指導の実際と食事改善の取り組み方 ・糖尿病の利用者さんの事例検討・意見交換 講師 福島学院大学 食物栄養学科 准教授 田村佳奈美氏	栄養係長	石川美智子	R5.12.13	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
19	令和5年度管理職員のための プリセプター運用研修 (第2回)	～仕事の仕方を決め急所を明らかにするマニュアル作り～ 1. 業務の標準化総論 2. 事業をきちんと進めるためのマニュアル 3. よりよいマニュアルづくり 講師 株式会社エイデル研究所 人材育成支援部 主幹 丹羽勝氏、川崎理代氏	介護リーダー	佐藤康弘	R6.1.25～ 1.26	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
20	令和5年度高齢者施設・事務所棟における高齢者虐待防止研修会	虐待防止委員会等で取り組める虐待防止の取組ポイント ～高齢者虐待の基本的知識と具体的な実践例・ツール紹介～ 講師 一般社団法人権利養護支援プロジェクトともす 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 社会福祉学科 大口達也氏	介護員	大島由樹	R6.1.30	福島県社会福祉会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
21	令和5年度キャリアパス制度課題別研修【第3回】	～人材育成に必要なコミュニケーションを事例から学ぼう～ ・コミュニケーションの基本とは ・職場や利用者・利用者の家族とのコミュニケーションの中での成功体験 ・「伝える・伝わる」「納得していただく」ためのポイント ・今、伝え方で悩んでいることを紐解く 講師 合同会社 ワークウエルネス研究所 代表 君嶋信子氏	看護副係長 介護副係長	齋藤恵美 鈴木由紀	R6.2.8～ 2.9	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)
22	令和5年度災害・リスク対策研修会	災害時における事業継続計画（BCP）とDWTとの関係 ～災害時施設相互応援協定を実効性のあるものに～ ・DWTを含めた災害時施設相互応援協定の仕組みと取り組みについて ・事業継続計画（BCP）との関連性と連続性について 講師 株式会社 福祉リスクマネジメント研究所 所長 一般財団法人鳥野財団 代表理事 鳥野猛氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員  事務課長	伊藤健治  津川修二	R6.2.16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園相談室 (オンライン研修)

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
23	取扱事業場向け【製造事業場以外】化学物質管理者講習に準ずる講習	第1章 関係法令 第2章 化学物質の危険性及び有害性並びに表示等 第3章 化学物質の危険性又は有害性等の調査 第4章 化学物質の危険性又は有害性等の調査の結果に基づく措置等その他必要な記録等 第5章 化学物質を原因とする災害発生時の対応	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R6. 2. 28	一般社団法人建築業教育協会  さゆりの園相談室 (eラーニング)
24	全国青年会 組織人材マネジメント委員会 オンラインセミナー(第2回)	上司、同僚、部下との向き合い方 ～明日から実践できるチームへのアプローチ方法を学ぼう～ 講師 株式会社カレントリンクス 代表取締役 折戸裕子氏	介護リーダー	三留江利子	R6. 2. 29	全国社会福祉法人 経営青年会  さゆりの園会議室 (オンライン研修)
25	西会津町認知症ケアスキルアップ研修会	認知症ケアの今とこれから 講師 NPO法人 地域生活サポートセンター 認知症介護研究・研修東京センター 客員研究員 小森由美子 氏	介護員  介護員	長谷川真哉  伊勢亀貴裕	R6. 3. 6	西会津町(福祉介護課)  道の駅よりっせ
26	社会福祉施設における防火研修会	1. 福祉施設の火災事例について 2. 福祉施設における防火管理について 3. 火災発生時の対策及び対応方法について 4. 消防用設備の使用方法等について	介護員	佐川寿美	R6. 3. 21	喜多方広域市町村圏組合  喜多方消防本部



## 2. 施設内研修状況

	研修内容	企画開催	参加職種	参加人数	開催日
1	消防設備の説明	防災管理委員会	新人職員・異動職員	3名	R5. 4. 10
2	普通救命講習会	ケア連携委員会・応急手当普及委員	介護職員	14名	R5. 5. 23 R5. 9. 28 R5. 9. 29 R6. 2. 23
3	防災訓練（机上）	防災管理委員会	当日勤務職員	5名	R5. 5. 25
4	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	10名	R5. 7. 10
5	食中毒の怖い話～芽胞菌とウエルシュ菌について 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	10名	R5. 7. 10
6	「除圧のための背抜き」	褥瘡予防対策委員会	ケアスタッフ会議メンバー	20名	R5. 7. 26 R5. 7. 27 R5. 7. 28
7	権利擁護の勉強会「高齢者施設における職業倫理・高齢者虐待防止編」	権利擁護・認知症ケア推進委員会	全職員	54名	R5. 8. 22 R5. 8. 23 R5. 8. 24
8	新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症について再確認	感染予防対策委員会	全職員	45名	R5. 8. 28 R5. 8. 29 R5. 8. 30 R5. 8. 31
9	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	9名	R5. 9. 11
10	ノロウイルスによる食中毒について 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	9名	R5. 9. 11
11	水消火器消火訓練	防災管理委員会	当日勤務職員	8名	R5. 9. 20
12	認定特定行為業務従事者の胃瘻による経管栄養・口腔内吸引の手技確認	ケア連携委員会・看護職員 (登島純子、斎藤恵美)	介護職員	10名	R5. 9. 22 R5. 9. 23 R6. 3. 21 R6. 3. 22

13	消火栓散水訓練	防災管理委員会	当日勤務職員	6名	R5. 10. 19
14	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	9名	R5. 11. 13
15	セレウス菌による食中毒について 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	9名	R5. 11. 13
16	「褥瘡の発生要因と褥瘡予防について」	褥瘡予防対策委員会	ケアスタッフ会 議メンバー	22名	R5. 12. 14 R5. 12. 15
17	①認知症の方の声掛けについて ②虐待の芽チェックリストの集計結果に基づくグループワーク	権利擁護・認知症ケア推進委員会	全職員	52名	R5. 12. 18 R5. 12. 19 R5. 12. 20
18	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	9名	R6. 1. 11
19	ソフト食の実施に向けて	栄養係調理技術向上係	管理栄養士 栄養士・調理員	9名	R6. 1. 11
20	危険予知訓練	事故予防対策委員会	ケアスタッフ会 議メンバー	14名	R6. 2. 2
21	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	8名	R6. 3. 11
22	令和5年度環境微生物検査結果とその改善点からの今後について 講師 福島衛生検査所 安達亨氏	栄養係	管理栄養士 栄養士・調理員	8名	R6. 3. 11
23	ソフト食の実施に向けて	栄養係調理技術向上係	管理栄養士 栄養士・調理員	9名	R6. 3. 11
24	新型コロナウイルス感染症発生時の初動対応、ゾーニング方法 についての勉強会及びシュミレーション	感染予防対策委員会	全職員	55名	R6. 3. 12 R6. 3. 15 R6. 3. 27
25	「リスクマネジメント」 ～転倒後の事故の捉え方と対策の立て方～	事故予防対策委員会 ※介護クリエイター来所	ケアスタッフ会 議メンバー	11名	R6. 3. 13
26	看取り介護に関する勉強会	看取り委員会 (瓜生彩香、伊藤健治)	ケアスタッフ会 議メンバー	19名	R6. 3. 19

令和5年度栄養実績報告

特別養護老人ホーム さゆりの園

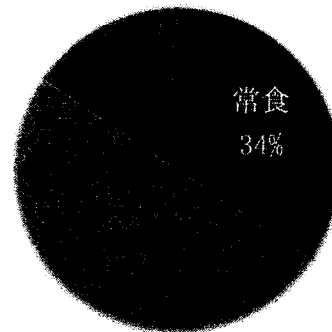
1, 給与栄養目標量および給与栄養量 (食種: 常食)

	給与栄養目標量	給与栄養量 (年平均)
エネルギー (kcal)	1400.0	1460.0
たんぱく質 (g)	60.0	58.7
脂質 (g)	35.0	35.1
炭水化物 (g)	170.0	210.5
食物繊維 (g)	18.0	13.4
βカロテン活性当量 (μgRAE)	650.0	577.8
ビタミンB1 (mg)	1.0	1.6
ビタミンB2 (mg)	1.0	1.3
ビタミンC (mg)	100.0	90.0
カルシウム (mg)	600.0	779.5
鉄 (mg)	7.0	10.4
食塩相当量 (g)	7.0	6.6

2, 食事形態 (R6.3.31 現在)

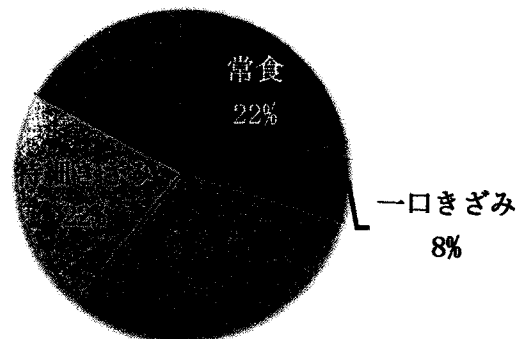
主食	入所	SS
常食	12	10
粥	28	4
ソフト粥	8	2
合計	48	16

主食形態割合



副食	入所	SS
常食	5	9
一口きざみ	4	1
きざみ	17	3
特細きざみ	13	1
ソフト	9	2
合計	48	16

副食形態割合



\*SS 定員 20 人

\*うち特別食

高血圧食 4 人 (SS : 1 人含) 心臓病食 2 人 (SS : 1 人含)

糖尿病食 1200kcal 1 人 1400kcal 2 人

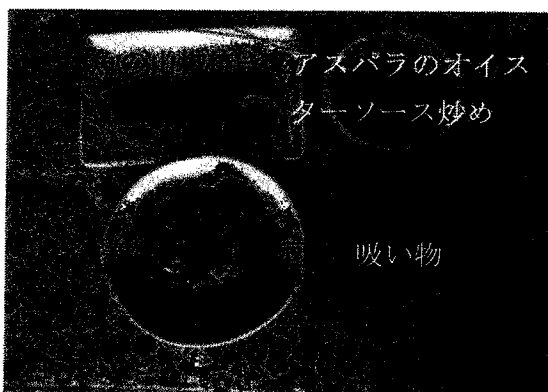
3. 給食実績

1回あたりの平均食数	給食材料費 (1日平均)
入所：49.8食 SS:15.1食	779.7円

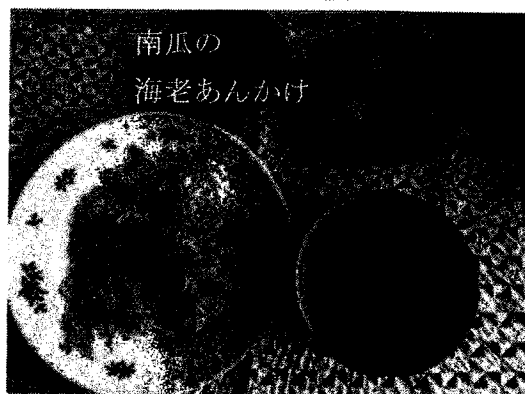
4. 行事食

4月	お花見御膳	10月	秋の味覚御膳
5月	お田植え御膳	11月	新そば御膳
6月	さなぶり御膳	12月	クリスマス御膳
7月	七夕御膳	1月	小正月御膳
8月	お盆入り御膳	2月	節分御膳
9月	秋彼岸御膳	3月	ひなまつり御膳

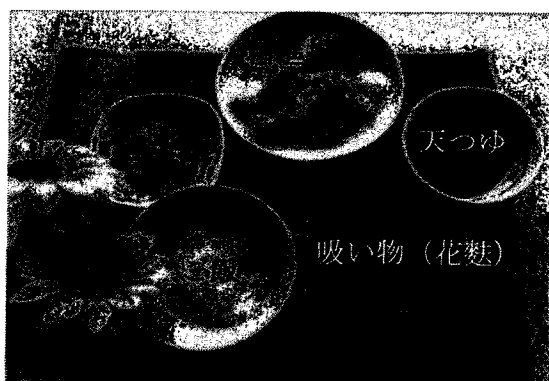
4月 お花見御膳



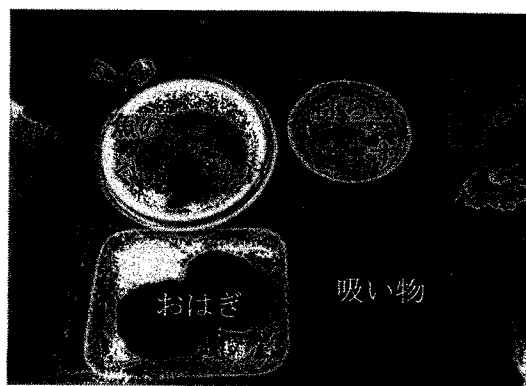
7月 七夕御膳



8月 お盆入り御膳



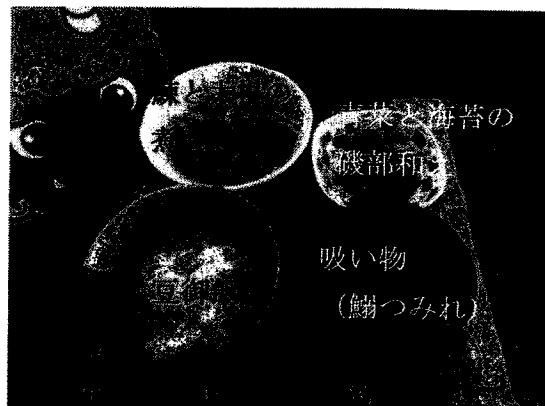
9月 秋彼岸御膳



11月 新そば御膳



2月 節分御膳



令和 5 年度

さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所及び

さゆりの園ショートステイ指定介護予防短期入所生活介護事業所事業報告

## 1. 基本方針の評価

令和 5 年度は、介護保険法及びさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規定に基づき、施設利用中も安心して、その方らしい生活を営むことが出来るように、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、担当介護支援専門員、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、居宅介護支援事業所等の開催するサービス担当者会議に積極的に参加することにより、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

また、新型コロナウイルスが感染症法上第 5 類に移行したことで、感染予防対策を講じながらも、利用者にとって大切な方と交流できる面会等の取り組みについて、工夫しながら行ってきた。そして、令和 5 年度は外部コンサルタントによる施設内実践研修も本格化し、さゆりの園の目指すビジョン「利用者の生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事出来るケア」の実現に向け、質の高い個別ケア実践に取り組んできた。

## 2. 重点目標

- (1) さゆりの園の目指すビジョン「利用者の生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事出来るケア」の実現

※特別養護老人ホームさゆりの園と同様のため省略

- (2) 「健康経営・健全経営」を重視した、心身の健康増進と質の高いケアの実現

※特別養護老人ホームさゆりの園と同様のため省略

令和5年度

さゆりの園ショートステイ障害福祉サービス短期入所生活介護事業所 事業報告

## 1. 基本方針の評価

令和5年度は、障害者総合支援法及びさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規程に基づき、身体障害者の方の身体状況とその有する能力に応じ、主体性と自立性を持ってその方らしい生活を営むことが出来るように、個々に合わせた介護の提供と、サービス内容の充実と向上を目指し、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、担当相談支援専門員、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

また、新型コロナウイルスが感染症法上第5類に移行したことで、感染予防対策を講じながらも、利用者にとって大切な方と交流できる面会等の取り組みについて、工夫しながら行ってきた。そして、令和5年度は外部コンサルタントによる施設内実践研修も本格化し、さゆりの園の目指すビジョン「利用者の生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事出来るケア」の実現に向け、質の高い個別ケア実践に取り組んできた。

## 2. 重点目標

- (1) さゆりの園の目指すビジョン「利用者の生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事出来るケア」の実現

※特別養護老人ホームさゆりの園と同様のため省略

- (2) 「健康経営・健全経営」を重視した、心身の健康増進と質の高いケアの実現

※特別養護老人ホームさゆりの園と同様のため省略

令和5年度 さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所及びさゆりの園ショートステイ指定介護予防短期入所生活介護事業所  
 及びさゆりの園ショートステイ障害福祉サービス短期入所生活介護事業所 重点目標に対する各係における実行計画年間評価

(1) さゆりの園の目指すビジョン「利用者も生活も豊かになり、スタッフも楽しんで仕事ができるケア」の実現

職種・係	実行計画内容
相談	<p>①～③                      ※特別養護老人ホームさゆりの園と同様のため省略</p> <p>④ショートステイ利用時のケアで完結せず、延長線上にある在宅生活を見据えたケアを提供し、自立支援を意識して各係と連携していく。                      ◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒による腰痛で独居生活が困難となり、緊急的にショートステイを利用された方が在宅に戻るにあたり、機能訓練係とともに自宅へ訪問し在宅環境の確認をしてきた。毎日歩行練習を行い、少しずつ長い距離を歩行できるようになった。腰痛に関しては、鎮痛薬を服用することで和らいでいたが、状態に応じて看護係から医師に報告する等疼痛管理を行った。また、食事摂取量が不安定で栄養状態の改善が必要だったため、栄養係とともに食べない要因を追究したり、しっかりと歩行を継続するには食事を食べて体力をつけることが重要であることも本人に説明した。その後、徐々に栄養状態や歩行状態も安定した。そして、自宅での動線環境も整ったことで退所後も転倒することなく生活できている。</li> <li>・自宅で転倒し骨折が判明した利用者は、骨折前は自宅玄関先にあるトイレまで歩行での移動ができていた。しかし、骨折を機に歩行も難しくなり、在宅でポータブルトイレを使い始めることとなった。ショートステイ利用中に、ポータブルトイレに慣れて頂くために声掛けしたり、職員介助で使用方法の練習をした。徐々にポータブルトイレの排泄にも慣れ、職員が介助することなく現在は1人で排泄動作を行えるようになっている。自宅でも家族見守りのもと、排泄動作は継続できている。</li> </ul> <p>上記2事例だけでなく、家族の介護力も含め、利用者が在宅での生活を継続できるような自立支援を意識して各係と連携した。</p>
看護 介護 機能訓練 栄養 事務	<p>※特別養護老人ホームさゆりの園と同様のため省略</p>

(2) 「健康経営・健全経営」を重視した、心身の健康増進と質の高いケアの実現  
 ※特別養護老人ホームさゆりの園と同様のため省略

令和5年度苦情受付・解決状況

事業所名：さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	1	0	1	0	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	1	0	0	0	0	2

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	1	0	0	0	0	0	1
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	1	0	0	0	0	0	1
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	0	0	0	0	2



令和5年度SS利用者要介護度別の実人数及び延べ人数

		要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	その他 (障害・自立支援)	合計
4月	実人数	0	1	9	11	9	6	4	3	43
	延べ人数	0	2	68	113	112	116	43	8	462
5月	実人数	0	1	9	11	9	5	6	2	43
	延べ人数	0	4	69	116	104	89	56	5	443
6月	実人数	0	0	9	9	12	4	6	3	43
	延べ人数	0	0	83	109	145	86	72	14	509
7月	実人数	0	0	7	9	12	5	6	3	42
	延べ人数	0	0	60	110	170	95	83	14	532
8月	実人数	0	0	10	7	12	4	7	2	42
	延べ人数	0	0	51	92	155	96	76	7	477
9月	実人数	1	0	12	7	12	6	6	3	47
	延べ人数	4	0	86	81	198	112	80	10	571
10月	実人数	0	0	14	10	13	5	4	4	50
	延べ人数	0	0	89	122	214	85	60	17	587
11月	実人数	1	0	13	10	14	2	3	3	46
	延べ人数	2	0	115	140	194	42	42	26	561
12月	実人数	0	0	15	9	13	2	2	4	45
	延べ人数	0	0	151	140	212	41	31	17	592
1月	実人数	0	0	13	10	13	4	3	0	43
	延べ人数	0	0	113	135	248	40	30	0	566
2月	実人数	0	0	14	6	15	2	4	3	44
	延べ人数	0	0	106	119	254	40	61	8	588
3月	実人数	0	0	14	6	14	3	4	2	43
	延べ人数	0	0	115	99	230	47	64	5	560
合計	実人数	2	2	139	105	148	48	55	32	531
	延べ人数	6	6	1106	1376	2236	889	698	131	6448

令和5年度さゆりの園ショートステイ市町村別利用状況

《予防給付》

月	西会津町		喜多方市						全体	
	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)
4月	0	0	1	2					1	2
5月	0	0	1	4					1	4
6月	0	0	0	0					0	0
7月	0	0	0	0					0	0
8月	0	0	0	0					0	0
9月	1	4	0	0					1	4
10月	0	0	0	0					0	0
11月	1	2	0	0					1	2
12月	0	0	0	0					0	0
1月	0	0	0	0					0	0
2月	0	0	0	0					0	0
3月	0	0	0	0					0	0
合計	2	6	2	6					4	12

《介護給付》

月	西会津町		喜多方市		阿賀町				全体	
	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)
4月	35	414	3	19	1	19			39	452
5月	34	385	5	31	1	18			40	434
6月	35	441	4	31	1	23			40	495
7月	34	463	4	35	1	20			39	518
8月	34	425	5	25	1	20			40	470
9月	38	496	4	42	1	19			43	557
10月	42	526	3	23	1	21			46	570
11月	38	486	3	23	1	24			42	533
12月	36	528	4	35	1	12			41	575
1月	38	538	2	8	1	20			41	566
2月	37	528	3	31	1	21			41	580
3月	37	502	3	32	1	21			41	555
合計	438	5732	43	335	12	238			493	6305

《障害福祉サービス》

月	西会津町		喜多方市						全体	
	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)
4月	3	8	0	0					3	8
5月	1	2	1	3					2	5
6月	2	8	1	6					3	14
7月	2	8	1	6					3	14
8月	2	7	0	0					2	7
9月	2	7	1	3					3	10
10月	3	11	1	6					4	17
11月	2	20	1	6					3	26
12月	3	11	1	6					4	17
1月	0	0	0	0					0	0
2月	2	5	1	3					3	8
3月	1	2	1	3					2	5
合計	23	89	9	42					32	131

令和5年度 さゆりの園ショートステイ利用状況

《予防給付》 利用市町村（西会津町・喜多方市）

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	1	2	0.1
5月	1	4	0.1
6月	0	0	0.0
7月	0	0	0.0
8月	0	0	0.0
9月	1	4	0.1
10月	0	0	0.0
11月	1	2	0.1
12月	0	0	0.0
1月	0	0	0.0
2月	0	0	0.0
3月	0	0	0.0
合計	4	12	年平均：0.1人

《介護給付》 利用市町村（西会津町・喜多方市・阿賀町）

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	39	452	15.1
5月	40	434	14.0
6月	40	495	16.5
7月	39	518	16.7
8月	40	470	15.2
9月	43	557	18.6
10月	46	570	18.4
11月	42	533	17.8
12月	41	575	18.5
1月	41	566	18.3
2月	41	580	20.7
3月	41	555	17.9
合計	493	6,305	年平均：17.8人

《障害福祉サービス》 利用状況（西会津町・喜多方市）

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	3	8	0.3
5月	2	5	0.2
6月	3	14	0.5
7月	3	14	0.5
8月	2	7	0.2
9月	3	10	0.3
10月	4	17	0.5
11月	3	26	0.9
12月	4	17	0.5
1月	0	0	0.0
2月	3	8	0.3
3月	2	5	0.2
合計	32	131	年平均：0.6

令和5年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護事業所事業報告及び

さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号通所事業所事業報告

## 1. 基本方針の評価

令和5年度は、介護保険法及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護運営規程、さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号通所事業所運営規程に則り事業を展開してきた。その中で、居宅サービス計画に基づき、利用者と家族のニーズにあった通所介護計画を作成し、その利用者が、可能な限り居宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、必要な日常生活上の援助及び機能訓練を行い、利用者の社会孤立感の解消及び心身機能の維持、並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図れるサービス提供をしてきた。

また、日常生活支援総合事業第一号通所事業サービスについては、軽度者の状態を踏まえつつ、自立支援の観点に立った効果的なサービス提供体制を確保し、サービス提供を行ってきた。しかし、令和5年8月に新型コロナウイルス感染症により、職員・利用者・利用者家族・他事業所を含め15名が罹患し、4日間の休館を余儀なくされた。その後利用者の人数制限を行いながらサービス提供を再開し10日後に通常提供となった。利用者、家族、他事業所へ多大なる迷惑と心配をかけてしまった。今回の経験を基にマニュアルの見直しを行い以降の感染予防対策に繋げている。

## 2. 重点目標

### (1) 利用者が楽しみを持ち、満足感が得られる通所サービスの提供

今年度は、今まで以上に楽しみを持って通所して頂けるように、サービス提供を目指し事業を展開してきた。施設内の装飾については、利用者の手形を落ち葉に見立て紅葉の木を作るなど利用者を巻き込み、毎月季節感を取り入れた色々な装飾を行った。季節ごとの行事の他、毎月イベントを企画し、その様子の写真を掲示したり、本人にお渡しすることで喜ばれた。また、利用者の個別性を重視し、得意とすることを披露する場所の提供や昔遊んだ遊びを取り入れたことで満足感につなげた。

集団のレクリエーションだけでなく、利用者の心身の状態に合わせたグループ分けを行い、グループレクリエーションや脳の活性化につながるテーブルレクリエーションを行った。入浴の待ち時間も、囲碁・パズル・塗り絵・編み物など個人で出来る物やDVD鑑賞を行ったり、交流が楽しめる利用者には席の配置の工夫を行い通所が楽しみになるように行ってきた。

食事については、嗜好の聞き取り内容によりメニューの改善を行い、選択食にて好みの物を選ぶ楽しみを提供できた。

利用者が楽しめる企画等に力を入れてきたが、利用者中心に楽しめる企画を更に考え、今後も楽しみや満足感ある通所サービス提供に繋がられるように中身を充実させていく。

## (2) 利用者の健康維持、在宅生活の質の向上に繋げる

集団体操の外部研修参加はできなかったが、法人内の他事業所2ヶ所に見学に行った。そこで学んだことを日々の集団体操に取り入れ、音楽や声かけの工夫で楽しく行うことができた。利用者の身体状況に合わせた体操を行う事で積極的に参加する方も増え利用者の健康維持に繋がった。

また、外部講師の専門的視点で歩行補助具や介護技術の指導を受け、家族やケアマネジメント機関・他サービス事業所と共有を図り在宅生活の質の向上に繋がった。外部講師の来所時に合わせ家族に来て頂き、自宅でのリハビリ状況の評価や直接指導を受けることで、家族の自宅での介護の自信に繋がったケースもあった。

ネイリストによるネイルケアと通常の爪切りを分け、月間計画を作成し計画的に行う事が出来た。本人・家族にも爪の状態や経過・注意点を報告し健康的な爪の維持・改善を行い、生活の質の向上に繋がった。

## (3) 「健康経営・健全経営」に基づく、職員の健康増進と持続性のある職場づくり

デイサービスでは、朝利用者と一緒にラジオ体操を行う事を日課にしている。職員が利用者の中に入ってラジオ体操を行う事で、利用者も積極的に行うようになった。また、健康づくりの一環として食生活の改善についてのポスターを休憩室に掲示し啓発を行い、栄養士より、減塩・カロリーについての勉強会を行い食生活について、それぞれが改善している傾向にある。

健康診断の結果を基にそれぞれが目標を立て、運動や食生活改善等取り組みを行っている。目標の達成度について個人差はあるが健康に対する意識は向上している。

西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用の取り組みとしては、現在全職員が活用しているため、今後も健康づくりの一環として継続していきたい。

令和5年度 さゆりの園デイサービスセンターⅡ  
 重点目標に対する各係における実行計画年間評価

(1) 利用者が楽しみを持ち、満足感が得られる通所サービスの提供

職種・係	実行計画内容
相談	<p>①利用者・家族から、昔遊びや、個人で行ってみたい事などを聞き取り、介護に情報提供を行いレクリエーションに反映させる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者より、昔遊んだ遊びの聞き取りを行い、子供の頃等昔良く遊んだ遊びのランク付けを掲示し、介護係と情報共有しレクリエーションに反映させることが出来た。</li> </ul> <p>②レクリエーション状況や利用中の様子を家族や介護支援専門員に伝え、具体的に共有することで、本人の楽しみややりがいに繋げられるようにする。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションの参加状況やサービス利用時の様子については、連絡ノートや送迎時に家族に伝えた。また、ケアマネジメント機関にも報告し情報共有ができた。</li> <li>・数人ではあるが本人の楽しみややりがいについて本人・家族からの聞き取りを行い、オルガンの演奏会や、コーヒーを入れるのが好きな利用者には、サイホンを持参しコーヒーを利用者に振る舞う機会を設けるなど、利用者の得意なことの活躍の場の提供ができた。次年度も引き続き行なっていきたい。</li> </ul>
看護	<p>嚥下・摂取状態・口腔内・入れ歯等の状況観察を行い、栄養士・専門職と食事形態等を相談し、食事の楽しみが続けられるようにする。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の状況に合わせた適切な食事の提供を行う為に、嚥下・摂取状態・口腔内・義歯等の状況観察に力をいれた。その結果を基に職員間で検討し食形態を変更したことで、口の中にため込みが無くなり、食事摂取量増や自力摂取につながる事ができた。デイサービスでの取り組みについて家族・ケアマネジメント機関・他サービス事業所にも報告し、食事を食べる楽しみに繋がった。</li> </ul>

介護	<p>①利用者に季節を感じてもらえるように、今年度は、装飾・音楽等に力を入れ計画・立案し実行する。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節ごとの装飾や行事の写真を展示し、季節感を味わってもらう事ができた。懐かしい歌のDVDをテレビで流し映像と共に聞いてもらい口ずさんでいる利用者も見られた。</li> </ul> <p>②昔遊びを取り入れ、なつかしさを感じてもらう。又、個別・グループでのレクリエーションを取り入れ、楽しみや満足が得られるようにする。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者より昔遊んだ遊びの聞き取り結果により、ランク上位のお手玉やあやとりをレクリエーションに取り入れ、昔を懐かしみ思い出しながら楽しむことができた。</li> <li>・テーブルごとに出来るバランスゲームを取り入れグループでの活動の幅を広げることができた。</li> </ul> <p>③季節行事だけでなく、楽しめるイベント(月1回程度)を計画・立案し実行する。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節行事(お花見・大山神社参拝・紅葉狩り・団子刺し・ひな祭りなど)の他に運動会・クリスマスなど毎月イベントを行い、その様子を写真撮影して施設内に掲示をした。また、利用者個人にも写真を配布することで家族にも喜ばれた。写真をスライドショーで上映することができ利用者に喜ばれた。</li> </ul>
栄養	<p>①配膳時などに利用者に関き取りを行い、メニューの改善に繋げる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嗜好の聞き取りを行い、例えば揚げ物のあんかけをソースに変更、キャベツにもソースを掛けるなど利用者の好みに合わせたメニューの改善を行なったことで残菜も少なくなった。</li> </ul> <p>②行事食の他、献立内容・盛り付け・食器の工夫を行い、季節感を取り入れ、視覚でも楽しめる食事の提供を行う。又、副菜の選択など食を通しての楽しみを持ってもらう。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彩りのある盛り付けを行い、色彩が単調であれば星型の人参・青物を入れるなど視覚でも楽しめるようにした。</li> <li>・選択食を実施し、利用者の好みの物を選ぶ楽しみに繋げることが出来た。</li> </ul>

(2) 利用者の健康維持、在宅生活の質の向上に繋げる

職種	実行計画内容
相談	<p>①利用者の身体状態・介護上の課題について把握し、定期的カンファレンス以外に適宜カンファレンスを行い、介護支援専門員に情報提供を行うと共に、専門職に相談し、助言・介護技術指導を受け、在宅での生活に繋げる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日夕方の申し送りの時に当日の利用者の気付きや新たな情報を共有し振り返りを行い、必要に応じてカンファレンスを行った。その内容について、外部講師が来所時に専門的視点でトランスファーの方法・歩行補助具選定など指導・助言をいただき実践してきた。また、家族に来所して頂き外部講師から直接助言や指導・評価を受けることで、家族の自宅での介護に対して安心や自信に繋げることができた。</li> <li>・外部講師からの指導内容については、家族・ケアマネジメント機関・サービス事業所・医療機関等に情報を提供し在宅生活に繋げることが出来た。</li> </ul> <p>②居宅サービス計画と通所サービス計画の連動性、通所計画に基づいたケース記録の記載方法について皆で再確認し、適宜必要時のカンファレンスが出来る仕組みを実践することで、効果的なPDCAサイクルに繋がられるようにする。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅サービス計画と通所サービス計画の連動性について再確認を行い、カンファレンス用紙、通所計画書の様式の見直しを行った結果居宅サービス計画と通所サービス計画の連動性が見やすくなった。</li> <li>・ケース記録について、11月よりPCシステムに入力しデジタル化することで各事業所との共有が図りやすくなった。</li> </ul>
看護	<p>施設内の感染予防対策の啓発と感染発生時の初動対応が出来るように、マニュアルの見直しを行い、年2回は職員に対して勉強会や実施訓練を行う事で、利用者の感染拡大を防ぎ利用者の健康を守る。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内の感染予防対策の啓発や発生時の初動訓練を行ってきたが、8月に新型コロナウイルス感染症の集団感染事故が発生してしまった。終息後は実践を基にマニュアルの見直し、勉強会を行い、再度周知を図った。</li> </ul>
介護	<p>①運動・体操に対して、専門職からの助言・指導を受け、外部研修等に参加し、職員の技術向上を図る。今年度は、リハビリ体操・作業療法などを取り入れ、楽しく運動・体操を行えるように工夫し健康維持に繋げる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修の機会はなかったが、法人内の他事業所のリハビリの集団体操を見学に行き、学習したことをデイサービスの集団体操に取り入れた。また、利用者の心身の状態に合わせた体操内容の工夫を行い、それぞれが楽しく運動出来ることに繋がった。</li> </ul>
	<p>②介護技術の勉強会を定期的(3ヶ月に1回)に行い、利用者に合わせて介護技術の質の向上を図る。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護技術の勉強会は「認知症に対する理解」の1回の実施となったが、若年認知症に対する理解が深まり、接遇やタッチング方法を学び、利用者もサービス利用中穏やかで過ごす時間が増えた。</li> </ul>
ネイルケア	<p>①爪切りのチェック表の見直しを図ると共に、再度ネイリストの介入が必要な利用者をアセスメントし周知を図る。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネイルケアが必要な利用者と、通常の爪切りで対応できる利用者を分ける為、爪切りのチェック表の見直しを行った。</li> <li>利用者のネイルケアの月間スケジュールを作成することで、計画的にネイルケアを行うことができた。</li> </ul>
	<p>②ネイルケアを実践している利用者及び家族等に、ネイルケアの経過や状況について定期的に共有・アドバイスし、自宅でも良い状態が維持できるようにする。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>爪の状態やネイルの経過・注意点を連絡ノートに記入し家族と共有した。</li> <li>家族より爪に関して「足の爪が切れない、歩くと痛みがある等」の相談があった時は、ニーズに合わせたネイルケアを行い、その後の自宅でのケアについて助言をした。その結果痛みの軽減に繋がった。</li> </ul>

(3) 職員の健康増進、持続性のある職場づくり

職種	実行計画内容
全職種	<p>①健康診断の結果を基に各自が目標を立て、西会津町こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、現在行っている利用者と一緒に体操を行うことの継続など運動する機会を作り、健康増進・改善に繋げる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西会津町こゆりちゃん健康ポイント手帳の活用率は、年度始め半数の職員だったが、年度後半には全員が活用出来ているの</li> </ul>

	<p>で維持していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と一緒にラジオ体操を職員全員が習慣となり、利用者も職員を見て積極的に行っている。</li> <li>・健康診断の結果を基に各自が目標を立て、散歩・プール等運動する機会を作り健康維持増進に繋げている。</li> </ul>
相談	<p>②職員に対し、食生活のアンケートを行い(年2回)その結果を基に、栄養士・看護師等と共に勉強会を行い食生活改善に繋げる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙面でのアンケートは行えなかったが、食生活について職員に聞き取りを行い、栄養士に繋いだ。</li> </ul>
看護	<p>③職員の健康づくりの一環として、相談に応じ助言を行い健康増進に繋げる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員より、健康相談は無かったが、食生活改善についてのポスターを休憩室に掲示し啓発を行い、糖質を減らし野菜を多く摂取する。</li> <li>・カップ麺を控えるなど食生活改善に繋がった。</li> </ul>
栄養	<p>④職員の健康づくりの一環として、栄養や調理方法など情報提供を定期的(3ヶ月毎)に行い食生活改善に繋げる。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に減塩について、10月にカロリーについての勉強会を行い、食生活改善に繋げることが出来た。</li> </ul>

令和5年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護利用状況

1. 利用者数（令和6年3月利用者）

男：24名 女：76名 計：100名

2. 介護度別利用状況（令和6年3月利用者）

	日常生活総合事業			介護度				
	事業対象者	要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
実人数	7	2	6	40	17	15	10	3

3. 年齢内訳（令和6年3月利用者）

年齢	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100～	110～	計
	49	59	69	79	89	99	109		
男	0	0	1	2	9	12	0	0	24
女	0	1	2	1	24	43	5	0	76
計	0	1	3	3	33	55	5	0	100

平均年齢：男86.7歳、女90.6歳 最高年齢：男93歳、女102歳

4. 利用実施状況

項目 月	開所 日数	利用 延べ人数	一日平均 利用者数	入浴介助 加算	同一建物 減算	送迎 減額	キャンセル	
							前日	当日
4月	21	469	22.3	383	1	3	18	14
5月	22	504	22.9	418	0	2	18	18
6月	22	515	23.4	433	0	3	11	14
7月	21	483	23.0	418	0	5	13	8
8月	22	480	21.8	426	0	18	9	11
9月	20	352	17.6	314	0	17	8	15
10月	21	451	21.4	396	0	15	6	13
11月	22	476	21.6	411	1	1	13	13
12月	22	458	20.8	399	1	20	17	15
1月	21	439	20.9	382	1	38	21	12
2月	21	413	19.6	356	1	42	10	9
3月	22	399	18.1	347	1	29	9	14
合計	257	5,439	21.2	4,683	6	193	153	156

※令和5年8月30日～9月8日

事業所内新型コロナウイルス感染対応の為、一時休館・利用人数制限

令和5年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ障害福祉サービス事業報告

## 1. 基本方針の評価

障害自立支援法、及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ身体障害者運営規程に基づき、障害者自己決定と自己選択を尊重し、地域社会において質の高い生活が継続できるように、創作的な活動機会の提供や機能訓練を行い、身体能力、日常生活能力の維持・向上を図れるサービス提供をしてきた。しかし、令和5年8月に新型コロナウイルス感染症により、職員・利用者・利用者家族他事業所を含め15名が罹患し、4日間の休館を余儀なくされた。その後利用者の人数制限を行いながらサービス提供を再開し10日後に通常提供となった。利用者、家族、他事業所へ多大なる迷惑と心配をかけてしまった。今回の経験を基にマニュアルの見直しを行い以降の感染予防対策に繋げている。

## 2. 重点目標

(1) 利用者が楽しみを持ち、満足感が得られる通所サービスの提供

※さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護事業所と同様のため省略

(2) 利用者の健康維持、在宅生活の質の向上に繋げる

※さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護事業所と同様のため省略

(3) 「健康経営・健全経営」に基づく、職員の健康増進と持続性のある職場づくり

※さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護事業所と同様のため省略

令和5年度

さよりの園デイサービスセンターⅡ障害福祉サービス利用登録状況

令和6年3月31日現在

1. 利用登録者数

男：2名 女：0名 合計：2名

2. 区分別内訳

	性別		区分					
	男	女	1	2	3	4	5	6
実人数	2	0	0	0	0	1	0	1

3. 年齢内訳

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	1	0	0	0	1	2
女	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	0	1	2

平均年齢：43.5歳

4. 利用実施状況

項目 月	開所 日数	利用 延べ人数	一日平均 利用者数	入浴介助	同一建物 減算	送迎 減額	キャンセル	
							前日	当日
4月	21	12	0.57	12	0	0	0	1
5月	22	13	0.59	13	0	0	0	0
6月	22	15	0.68	15	0	0	0	0
7月	21	14	0.66	14	0	0	0	0
8月	22	9	0.40	9	0	0	0	0
9月	20	6	0.30	6	0	0	0	0
10月	21	8	0.38	8	0	0	0	0
11月	22	8	0.36	8	0	0	1	0
12月	22	9	0.40	9	0	0	0	0
1月	21	6	0.28	6	0	0	0	0
2月	21	7	0.30	7	0	0	0	0
3月	22	5	0.22	5	0	0	0	0
合計	257	112	0.43	112	0	0	1	1

男性1名8月より介護保険に変更 女性1名1月より介護保険に変更

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	主任介護支援専門員更新研修(オンライン・Zoom)	1. 認知症に関する事例 2. 家族への支援の視点が必要な事例 3. 入退院時等における医療との連携に関する事例 4. リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例 5. 看取り等における看護サービスの活用に関する事例 6. 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例 7. 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例 8. 研修全体の振り返りと意見交換	看護係長兼生活相談員	赤城富美江	R5. 6. 21～ R5. 6. 23  R5. 8. 1～ R5. 8. 4	福島県保健福祉部 高齢福祉課  高齢者生活支援ハウス
2	令和5年度職場研修担当職員研修	講義・演習 「これからの福祉人材育成と職場研修」 「職場研修の考え方と推進方法①」 講義・演習 「職場研修の考え方と推進方法②」 「職場研修の推進実態の診断」 講義・演習 「OJT活性化施策の推進」 講義・演習 「意図的・計画的指導の推進」 「職場研修担当者の役割と課題」 講師 社会福祉法人けやきの村 理事長 舟山信悟 氏	介護リーダー兼生活相談員	小林幸介	R5. 6. 13～ R5. 6. 14	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
3	福島県認知症介護基礎研修	講義 「認知症および認知症の人を取り巻く我が国の現状、施策の基本」 「認知症の定義と原因疾患」 「認知症の中核症状と行動・心理症状の理解」 「認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方」 「認知症ケアの基礎技術」 演習Ⅰ 「認知症の人とのコミュニケーション」 演習Ⅱ 「行動の背景を理解したケアの工夫」 演習Ⅲ 「自事業所の状況や自身のこれまでのケアの振り返り」 講師 竹田健康財団 認知症専門デイサービス OASISI 室長 遠藤裕子 氏 きらり健康生活協同組合 あおぞらホームヘルプサービス 管理者 八巻美紀 氏 社会福祉法人心愛会 会津美里町地域包括支援センター 認知症地域支援推進員 齋藤光樹 氏 きらり健康生活協同組合 リハビリ部門 部門長 平野聖子 氏	介護員	五十嵐久美江	R5. 10. 18	福島県 郡山ユラックス熱海

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
4	令和5年度生活相談員研修	講義・演習・事例検討 ①ソーシャルワーカーとしての基盤 ②業務の「見える化」 ③業務の関係づけ ④相談員に期待される7つの専門機能と活用場面 ⑤相談員が持つべき9つの視点 ⑥ソーシャルワーク関係事例の検討 講師 生活と福祉マインド研究室 主宰 梅沢佳裕 氏	介護副係長兼 生活相談員	薄 三平	R5.12.5	福島県老人福祉施設協議会 ビッグパレットふくしま
5	令和5年度職場研修担当職員フォローアップ研修	講義・演習 「職場研修の考え方と推進方法」 講義・演習 「研修ニーズ分析と年度計画の策定」 講師 本宮市白沢地域包括支援センター 所長 佐藤直之 氏	介護リーダー 兼 生活相談員	小林幸介	R5.12.8	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
6	2024年度介護報酬改定がもたらすデイサービス経営・運営への影響（オンライン）	拡大する二極化・始まる大改革と淘汰 講師 全国介護事業者連盟 理事長 斉藤正行 氏	看護係長兼 生活相談員	赤城富美江	R6.2.28	株式会社Rehab for JAPAN 高齢者生活支援ハウス
7	稼働率70%以下でも黒字のデイがやっていること（オンライン）	デイサービスを取り巻く環境・70%の稼働率で適正利益を確保する秘訣 講師 日本経営グループ介護福祉事業部次長 本島傑 氏	看護係長兼 生活相談員	赤城富美江	R6.2.28	株式会社Rehab for JAPAN 高齢者生活支援ハウス

2. 施設内研修状況

	研修内容	発表者	参加職種	参加人数	開催日
1	苦情受付のプロセス再確認 個人情報の取り扱いについて	薄 三平 赤城富美江	全職員	6名	R5. 8. 9
2	新型コロナ感染の振り返りと今後について	赤城富美江	全職員	9名	R5. 9. 9
3	虐待・身体拘束について	赤城富美江	全職員	11名	R5. 9. 28
4	コロナ感染対応（利用時の対応について）共有	赤城富美江	全職員	9名	R5. 10. 18
5	認知症の病態と症状について （認知症の理解を深めるために）	小林幸介 五十嵐久美江	全職員	7名	R5. 10. 25
6	虐待する気持ちについて考える ～虐待するところとは～	ふくしまをリハビリで元気にする会 岡本宏二 氏	全職員	11名	R6. 1. 5 R6. 2. 2



令和5年度栄養実績報告

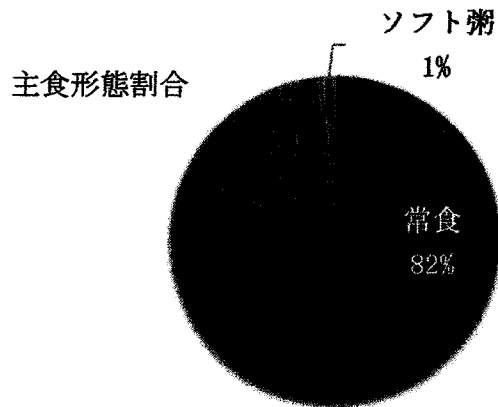
さゆりの園デイサービスセンターⅡ

1. 給与栄養目標量および給与栄養量（食種：常食）

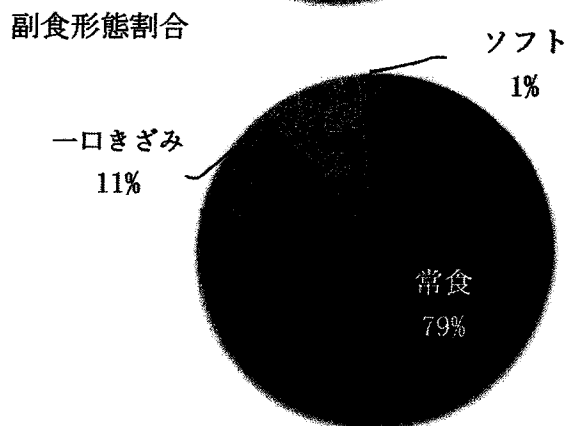
	給与栄養目標量	給与栄養量(年平均)
エネルギー (kcal)	580.0	600.0
たんぱく質 (g)	21.0	25.7
脂質 (g)	14.5	19.0
炭水化物 (g)	82.5	77.8
食物繊維 (g)	9.0	4.6
リノール活性当量 (μgRAE)	325.0	258.9
ビタミンB1 (mg)	0.48	0.56
ビタミンB2 (mg)	0.40	0.64
ビタミンC (mg)	40.0	33.3
カルシウム (mg)	240.0	394.8
鉄 (mg)	4.0	3.5
食塩相当量 (g)	3.2	2.6

2. 食事形態 (R6. 3/26～3/30)

主食	(人)
常食	57
粥	12
ソフト粥	1
合計	70



副食	(人)
常食	55
一口きざみ	8
きざみ	6
特細きざみ	0
ソフト	1
合計	70



3. 給食実績

1回あたりの平均食数	給食材料費 (1食平均)
23食	343円

#### 4, 行事食

	献立名	献立内容
4月	昭和の日献立	御飯、こづゆ、魚の煮つけ、クルミ和え
5月	みどりの日献立	春のちらし寿司、みそ汁、海鮮エビ餃子、ミモザサラダ
6月	入梅献立	ひじき御飯、みそ汁、魚の山椒焼き、おろし酢和え
7月	七夕献立	七夕そうめん、南瓜のエビあんかけ、七夕ポンチ
8月	お盆献立	御飯、吸い物、精進揚げ、ほうれん草と海苔の三杯酢
9月	彼岸入り献立	おはぎ、吸い物、魚のくずあんかけ、打ち豆なます
10月	秋の彩り献立	五目御飯、みそ汁、卵紅葉蒸し、マカロニサラダ
11月	文化の日献立	赤飯、こづゆ、魚の照り焼き、青菜のカニのお浸し
12月	クリスマス献立	カレーピラフ、南瓜スープ、ハンバーグ、ブロッコリーのおかか和え
1月	お正月献立	御飯、かしわ汁、ぶり照り焼き、いんげんとしらたきの炒め煮
2月	節分献立	大豆御飯、吸い物、ニシンと大根の煮つけ、青菜と海苔の磯辺和え
3月	ひな祭り献立	ひな祭り寿司、吸い物、海鮮エビ餃子、菜の花となめこのお浸し

#### 5, 選択食

	選択食 A	選択食 B
4月29日	ふりかけ (のりたま)	ふりかけ (ゆかり)
5月20日	胡麻ドレッシング	和風ドレッシング
6月6日	ふりかけ (のりたま)	ふりかけ (ゆかり)
7月26日	胡麻ドレッシング	和風ドレッシング
10月11日	ふりかけ (のりたま)	ふりかけ (ゆかり)
11月28日	大根のおかか煮	大根とゆずの和え物
12月29日	白菜とさつま揚げの煮物	白菜の塩昆布漬け
1月30日	ほうれん草のごま和え	ほうれん草の信田和え
2月28日	菜の花和え	菜の花とエビサラダ

食事提供の際に選んで頂くことで、目で見えて選ぶ楽しみや食欲増進、会話の広がりによるコミュニケーションの増加に繋げることができた。

\*11月～2月の副菜の選択食は常食のみ実施

令和5年度

西会津町訪問介護事業所 訪問介護事業 及び

介護予防・日常生活支援総合事業、障害福祉サービス事業 事業報告

## 1. 基本方針の評価

介護保険法と障害者総合支援法、及び西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、利用者の心身の状態に応じて適正な訪問介護サービスを提供し、自立支援の観点からその有する能力に応じ、可能な限り住み慣れた地域で安心して自立した日常生活が継続できるよう、入浴、排泄、食事、その他の生活全般を支援した。

## 2. 重点目標

### (1) サービスの質の向上

- ①サービス提供責任者は、登録ヘルパーからの訪問時の報告により、利用者の身体状況の変化等を適時把握できたので、各関係機関と連携し早めの対応をすることができた。
- ②登録ヘルパー研修会は11回開催。今年度の調理実習では各自の自主性を高めるため、グループ内で協議しメニューを決めて行ったことで登録ヘルパーの意欲向上につながった。また登録ヘルパーが外部研修(介護技術)で得た知識を、そのヘルパー自身から事業所内研修会で発表を行ったところ、他のヘルパーも今後外部研修に参加したいと意欲的な発言があつて大変良かった。
- ③利用者満足度調査を12月に「要介護」の認定である利用者79名を対象に実施し、回答率は53%だった。利用者、家族からは苦情や要望はなかったが、「サービスを利用できることで安心した生活が送れている」「気を遣わず何でもヘルパーに話せる」とコメントをいただき、接遇等の大切さを再確認する機会となった。

### (2) 職員の心身の健康維持

- ①職員一人一人が健康目標をかかげ、その目標に向かって取り組むことができた。事故報告では、登録ヘルパーが訪問の移動運転中に他の車と接触する事故が1件あった。それについては登録ヘルパー研修会内で原因を検証し、町中の危険個所についても共有し、個々でも十分車の運転について気を付けるように周知徹底した。
- ②登録ヘルパーには個々に合った(休日希望や年齢配慮、身体介護が難しいなど)訪問依頼書を作成し、無理なく活動を継続してもらうことができた。高齢の登録ヘルパーが多いため、今後も働きやすい環境を整え、それぞれが元気に活動できるように配慮していく。

### (3) 業務の効率化と事業継続計画

- ①訪問調整や事業所からの連絡はSNS(ライン・ショートメール)を利用しており、昨年の利用者は11人だったが、現在は16人のヘルパーと情報共有が可能となり、業務も効率的に行えるようになった。
- ②業務継続計画については、自然災害・感染まん延予防について完成した。今後は研修やシミュレーション訓練を計画的に行い、有事の際に活用できるように見直しをしていく。

訪問介護事業所利用状況

【令和5年度】

令和5年度実績

1.介護度別実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護 1	20	21	22	21	23	23	26	21	21	15	18	16
要介護 2	16	15	15	16	17	16	14	13	13	13	12	10
要介護 3	8	9	8	8	9	12	12	11	11	9	11	8
要介護 4	14	18	18	20	16	16	13	12	12	11	8	9
要介護 5	6	4	5	5	4	4	3	2	2	1	2	2
計	64	67	68	70	69	71	68	59	59	49	51	45
事業対象者	5	2	4	4	4	4	4	4	4	6	5	5
要支援 1	7	6	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3
要支援 2	13	14	16	16	16	16	16	16	15	17	18	17
計	25	22	24	24	24	24	24	24	23	26	26	25
障害者自立支援	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11
移動支援	1	1	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0
計	13	13	13	12	12	13	13	12	13	11	11	11
合計	102	102	105	106	105	108	105	95	95	86	88	81

2.延べ回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	1,101	1,162	1,091	1,150	1,148	1,109	1,005	918	817	686	659	678	11,524
総合事業	156	156	169	166	159	172	186	178	175	183	197	196	2,093
障害者自立支援	150	149	152	151	146	144	155	147	128	135	146	143	1,746
移動支援	9	6	9	0	0	1	4	0	3	0	0	0	32
合計	1,416	1,473	1,421	1,467	1,453	1,426	1,350	1,243	1,123	1,004	1,002	1,017	15,395

3.延べ時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	801:27	845:19	838:04	887:57	867:30	873:26	818:05	735:05	678:31	533:27	491:04	510:59	8880:54
総合事業	149:16	148:05	159:41	156:56	150:31	163:26	175:35	167:37	166:11	174:01	185:21	184:07	1980:47
障害者自立支援	138:30	132:00	143:00	133:00	139:00	130:00	151:30	137:00	124:05	128:00	136:05	132:05	1624:15
移動支援	4:30	3:00	5:00	0:00	0:00	1:00	2:00	0:00	2:00	0:00	0:00	0:00	17:30
合計	1093:43	1128:24	1145:45	1177:53	1157:01	1167:52	1147:10	1039:42	970:47	835:28	812:30	827:11	12503:26

#### 4. サービス提供責任者業務

	件数	時間		件数	時間
モニタリング(介護)	343	205:55	訪問介護計画書作成	103	84:25
モニタリング(総合)	71	49:05	個別援助計画書	67	51:55
モニタリング(障害)	27	22:20	サービス担当者会議	140	147:55
訪問	307	238:51	カンファレンス	3	3:00
同行訪問	126	107:29	訪問調整		259:35
実施報告書作成	271	103:35	その他		3944:10

#### 5. ヘルパー活動サービス内容別状況

活動人数	活動時間	訪問回数	全体 (100%)	介護保険 89%	介護 85%	身体 48%
常勤 3人	238:51	307回			総合事業 15%	身体生活 33%
登録 22人	12264:35	15,088回		障害 11%		生活支援 19%

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	高次脳機能障がい者に関する圏域別基礎研修会（会津南会津圏域）	「怒りっぽい」「すぐ忘れる」の原因を突き止めて解決しよう 講師：総合南東北病院 神経心理研究部門 言語聴覚士 臨床神経心理士 佐藤伊久生氏	管理者	鈴木あや子	R5.7.5	福島県保健福祉部障がい福祉課 道の駅あいづ 会議室
2	会津地域リハビリテーション実務者研修会	・介護される側の気持ち ・介助を行う際の基本、注意点 ・介助を行う際の触れ方、触れる部位 ・各動作の介助法をペアになり、実技を行いながら説明を受ける。寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗	登録ヘルパー 登録ヘルパー	嶋田純子 小路美智子	R5.8.7	会津地域リハビリテーション広域支援センター 竹田綜合病院 竹田ホール
3	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダー研修	・チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 ・福祉サービスの基本理念・倫理を推進する ・チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成 ・OJTの効果的促進 ・意図的・計画的職員指導・育成の展開 ・啓発科目の講義と演習 ・行動指針の策定 ・キャリアデザインとアクションプランの策定	事務員	伊藤智美	R5.11.9～10	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
4	令和5年度訪問介護テーマ別技術向上研修Ⅱ	緊急時の対応 ・感染症、持病等の普段から気を付けるべき視点等 ・職員のリスク、事故防止、ヒヤリハットの分析等 日本ホームヘルパー協会会長 千葉県ホームヘルパー協会会長 株式会社愛ネット代表 境野みね子氏	サービス提供者 責任者	佐藤千春	R5.11.14	福島県社会福祉協議会 介護センター（ZOOM）

5	訪問介護適正実施研修Ⅱ	<p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老計10号に基づいたサービス提供とは 介護保険・障がい福祉等の法令遵守、プロセス、アセスメント等</li> <li>・サービス提供の実践</li> </ul> <p>認知症・介護予防・障がい福祉等様々なサービスについて理解、対応を考えるグループワーク、事例に基づいたQ&amp;A等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの感染症対策・対応について</li> </ul> <p>さらに訪問介護に特化したシュミレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護のBCP（保存版）</li> </ul> <p>講師：日本ホームヘルパー協議会会長 千葉県ホームヘルパー協会会長 株式会社愛ネット 代表 境野みね子氏</p>	管理者	鈴木あや子	R5.12.11 ～12	<p>福島県社会福祉協議会</p> <p>さゆりの園会議室 (ZOOM)</p>
6	令和5年度 第2回福島県認知症対応型サービス事業管理者研修	<p>1日目【講義・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「介護保険の現状と指定基準」</li> <li>「権利擁護と地域密着型サービスの役割」</li> <li>「家族を含めた生活圏域の中で暮らす連携」</li> </ul> <p>2日目【講義・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「労働基準法に基づいた介護従事者の労務管理」</li> <li>「地域密着型サービスにおける人材育成」</li> <li>「地域密着型サービスの理念と実際の取り組み」</li> </ul>	副管理者	外島裕子	R6.2.1～2	<p>一般社団法人福島県認知症介護指導者連絡会</p> <p>介護センター（ZOOM）</p>

2. 施設内研修状況

	研修内容	企画開催	参加職種	参加人数	開催日
1	ヘルパー登録通知書交付 介護職の接遇マナーについて	訪問介護員	登録ヘルパー	17名	R5. 4. 22
2	在宅介護のための感染予防について	訪問介護員	登録ヘルパー	10名	R5. 5. 26
3	褥瘡をつくらない為のオムツ選びと装着の仕方 講師 花王郡山支社	訪問介護員	登録ヘルパー	10名	R5. 6. 19
4	食中毒防止と夏野菜を使った調理 講師 物永葉子氏	訪問介護員	登録ヘルパー	15名	R5. 7. 12
5	認知症について 講師 岡本宏二氏	訪問介護員	登録ヘルパー	16名	R5. 9. 1
6	高齢者虐待研修 研修復命	訪問介護員	登録ヘルパー	15名	R5. 10. 13
7	アイデアを生かした調理方法について 講師 物永葉子氏	訪問介護員	登録ヘルパー	15名	R5. 11. 17
8	緊急時の対応、感染症、持病等の普段から気をつけるべき視点等	訪問介護員	登録ヘルパー	13名	R5. 12. 12
9	感染マニュアルの再確認 ～濃厚接触者のシュミレーション～	訪問介護員	登録ヘルパー	14名	R6. 1. 19
10	虐待研修	訪問介護員	登録ヘルパー	18名	R6. 2. 22
11	今年度の振り返り アンケート調査の報告	訪問介護員	登録ヘルパー	21名	R6. 3. 29



令和5年度

## 西会津町居宅介護支援事業所事業報告

### 1. 基本方針の評価

にしあいづ福祉会の理念・指針のもと、公正中立の立場から、要介護者になってもその人らしい生活が維持できるよう、利用者のおかれている状況について情報収集を行い、利用者の能力を引き出し、利用者の意向に添った適切なサービス提供ができるよう、各関係機関との連携を密にし、自立支援を基本とした支援に努めた。

### 2. 重点目標

#### (1) 地域との連携強化

- ① ささえ愛支援会議、民生児童委員協議会地区会議へ参加することで、地域で行われている活動やそれぞれの地域にある課題を知ることができ、その内容について事業所内で共有することができた。地区担当民生児童委員のサービス担当者会議への参加については、認知症の問題や、独居世帯で家族支援が得られないことなど、地域での見守り支援の必要性を感じ、サービス担当者会議へ参加を促したが、利用者、家族より「知られたくない」「言わないで欲しい」など、個人情報観点から参加への理解が得られなかったことがあった。今後、地域で支援を行っていくためにも、民生児童委員との関わりについて、利用者、家族へ理解を得るための働きかけの必要性について課題が明確にできた。
- ② 成年後見制度、生活保護制度を利用している利用者においては、成年後見人等や保険者、会津保健福祉事務所など関係する方々にも、サービス担当者会議へ出席してもらい、利用者の状況について情報共有し協議することができた。また、独居、高齢者世帯などについて、近隣支援者を把握し、支援者との関わりを積極的に行った。困難ケースについては、地域包括支援センターへ相談し個別ケース会議となった際には、各関係機関と協力し課題を明確にして、支援の方向性や役割分担が図れ、一歩前進することができた。

#### (2) ケアマネジメントの向上

- ① 年間研修計画に基づき、介護保険制度の改定を踏まえたケアプラン作成について勉強会を行った。利用者の思いに沿った支援を行うため、丁寧な意向の聴き取りや課題分析の結果を踏まえた今後の支援の方向性について、ケアプランに記載するようになったことで、課題を明確にして具体的な支援内容に結びつけることが出来るようになってきた。課題整理総括表及び評価表の活用について全員が取り組み、作成後に評価を行い、利点や効果、作成方法などについて確認し合うことができた。
- ② ケアマネジメント研修会への参加や事例提供、事業所内カンファレンスを合計で年42回実施した。個別ケース会議において意見を出し合うことで、課題を掘り下げ、ケアマネジメントの新たな視点や支援方法に気づくことができた。さらに、支援方法の振り返りや参加者の意見を聞くことで、自身の利用者に対する関わり方を見直すことができた。
- ③ 介護支援専門員として必要な社会保障制度の基礎知識を身に付けるため、特別障害者手当・障害者福祉手当について、町役場担当職員に講師を依頼し、制度の内容や申請手続き

について詳しく学ぶことができた。

- ④相談援助職として信頼される介護支援専門員を目指すため、「接遇マナーの原則」「傾聴」についてロールプレイを含めた勉強会を実施した。昨年まで新型コロナウイルス感染対策のため他法人との勉強会が未開催であったが、今年度より柳津居宅介護支援事業所と合同勉強会を再開。介護支援専門員が日頃訪問先で悩んでいる接遇マナーについて、外部講師を迎え、相手の方に不快感を与えない言葉遣いや、電話での対応方法などを学ぶことができた。

### (3) 業務改善と事業継続計画

- ①毎月の居宅介護支援事業所月例会議において、日々の業務の中での気づきや課題点を出し改善に向けての検討、見直しを行ってきた。各サービス事業所へ提出するサービス提供票については、業務の効率化とペーパーレスを目的に、介護保険システムを有効に活用し、法人内事業所では書類の作成ではなく、介護保険システムの画面上でスケジュールの確認を行うこととなり、時間が短縮され効率化につながった。
- ②事業継続計画（自然災害発生時）、感染拡大防止についての指針、計画書について、介護センター内事業所と共有する部分の検討を行いながら計画書の作成を行い、年度内1回介護センター内で地震発生時におけるシミュレーションを実施した。

### (4) 健康づくり

- ①年間研修計画の中で、健康に関する勉強会の実施や、野菜を摂る為に野菜の特性や季節ごとの野菜を使ったレシピの情報提供等を行い、健康に関する知識を学んだ。西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳の活用により、毎日の野菜摂取状況や血圧などを自ら把握する機会がもて、健康に対する意識づけにつながった。
- ②事業所内でお互いに声掛けや相談・助言がしやすい職場の環境づくりを意識して行うことで、各々が仕事の悩みを抱え込まずに業務に取り組むことができた。また、メンタルヘルスの勉強会へ参加し、自身のメンタルの状態について認識する機会をもつことができた。

### 3、令和5年度月別活動実績状況

#### (1) 介護度別利用実人数 (人)

年月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	70	44	30	31	12	187
5月	72	45	29	30	12	188
6月	74	45	31	30	12	192
7月	79	47	29	32	13	200
8月	74	48	31	30	13	196
9月	76	46	32	33	10	197
10月	82	45	32	30	10	199
11月	76	48	33	24	10	191
12月	74	49	34	24	9	190
1月	70	51	33	25	10	189
2月	74	45	32	22	9	182
3月	71	43	29	23	9	175
令和5年度累計	892	556	375	334	129	2286
令和4年度累計	883	561	371	343	207	2365

#### (2) ケアマネジメント対応別件数(件)

年月	電話対応件数	来所対応件数	訪問件数	サービス事業所連絡	ケアプラン作成数	担当者会議件数	モニタリング件数	福祉用具購入		住宅改修
								(件)	(数)	
4月	274	12	251	393	41	26	210	2	2	1
5月	395	17	250	465	40	31	215	1	1	0
6月	328	18	272	543	42	38	236	1	2	1
7月	286	14	260	467	30	24	208	0	0	0
8月	362	12	268	474	34	24	218	0	0	0
9月	362	8	251	508	26	21	198	2	2	0
10月	356	13	267	523	39	34	281	1	1	1
11月	351	12	243	528	40	24	214	0	0	1
12月	313	14	262	424	30	19	226	2	2	2
1月	304	8	242	407	34	33	213	1	1	1
2月	307	13	252	421	37	31	210	1	1	3
3月	327	8	268	433	28	27	229	1	1	0
合計	3,965	149	3,086	5,586	421	332	2,658	12	13	10

## (3) 利用者の動向

(単位：人)

年月	新規契約	入院	入所	退院	退所	永眠	終了(内容)	
4月	6	2	2	0	0	3	1	非該当1
5月	4	5	2	3	1	3	0	
6月	12	3	0	1	0	0	1	GH1
7月	7	6	5	2	1	1	1	特養1
8月	8	5	2	4	0	3	4	GH1. 小規模1. 有料1. 包括1
9月	7	10	2	6	0	2	0	
10月	9	4	4	1	2	5	2	包括1. 特養1
11月	4	7	2	1	3	3	0	
12月	7	6	6	4	0	0	1	有料1
1月	8	8	2	1	0	4	1	有料1
2月	6	10	2	0	0	3	1	特養1
3月	5	7	0	3	4	1	2	小規模2
合計	83	73	29	26	11	28	14	

## (4) 認定調査・加算・住宅改修のみプラン作成

(単位：件)

年月	認定調査	初回加算 (3,000円)	入院・入所 連携加算 I (2,000円) II (1,000円)		退院・退所 連携加算 I (4,500円) II (6,000円)		住宅改修プラン ※住宅改修のみの サービス (4,000円)	減算 (1/2)
			(I)	(II)	(I)	(II)		
4月	0	12	1	1	0	0	0	0
5月	0	8	5	1	0	0	0	0
6月	0	10	3	0	0	0	1	0
7月	1	12	2	1	0	0	0	0
8月	0	13	4	0	0	0	0	0
9月	1	8	3	4	0	0	1	0
10月	0	11	1	1	0	0	0	0
11月	0	9	5	2	0	0	0	0
12月	0	6	2	0	0	0	0	0
1月	0	15	6	1	0	0	0	0
2月	0	13	5	2	0	0	0	0
3月	1	7	5	1	0	0	0	0
合計	3	124	42	14	0	0	2	0

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	令和5年度全会津介護支援専門員協会総会・記念講演	<p>1. 総会 2. 記念講演「会津若松市における医療と福祉の連携について」 講師：会津若松市在宅医療・介護連携センター長 新井田有耕氏 支援員 大堀晃寛氏</p>	<p>管理者兼主任 介護支援専門員 副管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員</p>	<p>一登ユミ子 佐藤小百合 青津千恵 薄君子 高津麦子 平野保子</p>	R5. 4. 17	<p>全会津介護支援専門員協会 さゆりの園会議室 (オンライン)</p>
2	令和5年度難病患者地域サポート勉強会	<p>1. 新型コロナウイルス感染症を体験し、支援体制・支援方法の工夫等の報告と情報交換 (1) 関係機関(関係者)より説明・報告及び情報交換 ・会津地域でのオンライン診療の現状 ・介護保険・福祉サービスでの対応の工夫や変化の報告等 ・会津ASLの会オンライン交流会の開催結果と課題 (2) 情報提供 ・新型コロナウイルス感染症及びその他感染症の現状について ・「難病患者に対する医療費等に関する法律」の一部改正について ・指定難病医療費受給者証の更新申請について</p>	<p>介護支援専門員</p>	<p>薄君子</p>	R5. 7. 12	<p>福島県会津保健福祉事務所 介護センター相談室 (オンライン)</p>

3	令和5年度福島県小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修(第1回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目</li> <li>講義・演習「ケアマネジメント論」</li> <li>講師：認知症介護指導者養成研修修了者 高橋英明氏</li> <li>講義・演習「地域生活支援とチームアプローチ」</li> <li>講師：認知症介護指導者養成研修修了者 橋本好博氏</li> <li>・2日目</li> <li>講義・演習「ケアマネジメントと居宅介護支援計画作成の実際」</li> <li>講師：認知症介護指導者養成研修修了者 青木智子氏</li> </ul>	介護支援専門員	高津麦子	R5.8.8～ R5.8.9	<p>一般社団法人福島県認知症介護指導者連絡会</p> <p>1日目：ZOOMにて実施 2日目：福島県男女共生センター</p>
4	令和5年度全会津介護支援専門員協会 第1回研修	<p>演題：「権利擁護と成年後見制度について」事例から考えてみよう</p> <p>講師：特定非営利法人あいづ安心ネット</p> <p>理事長 小池達哉氏 理事 菊地恵子氏</p>	<p>管理者兼主任介護支援専門員</p> <p>主任介護支援専門員</p> <p>介護支援専門員</p> <p>介護支援専門員</p>	<p>一登ユミ子</p> <p>青津千恵</p> <p>高津麦子</p> <p>平野保子</p>	R5.8.28	<p>全会津介護支援専門員協会</p> <p>会津アピオスペース</p>
5	令和5年度主任介護支援専門員更新研修	<p>通信学習・Zoom演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向</li> <li>2. リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例</li> <li>3. 認知症に関する事例</li> <li>4. 看取り等における医療との連携に関する事例</li> <li>5. 入退院時等における医療との連携に関する事例</li> <li>6. 家族への支援が必要な事例</li> <li>7. 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例</li> <li>8. 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例</li> </ol>	副管理者兼主任介護支援専門員	佐藤小百合	R5.6.16～ R5.8.30	<p>福島県会津介護支援専門員協会</p> <p>介護センター（ZOOM）</p>

6	令和5年度ケアマネのためのテーマ別研修	<p>第1回：「令和6年度介護保険改正の動向（ケアマネジメントを中心に）」 講師：介護の未来 阿部充宏氏</p> <p>第2回：「令和6年度介護保険改正の動向・ケアマネージャーへの期待」 講師：介護の未来 阿部充宏氏</p>	<p>管理者兼主任 介護支援専門員 副管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援 専門員 介護支援専門 員 介護支援専門 員 介護支援専門 員</p>	<p>一登ユミ子 佐藤小百合 青津千恵 （第2回の み） 高津麦子 薄君子 （第1回の み） 平野保子</p>	<p>R5. 10. 18 R5. 10. 25</p>	<p>福島県高齢福祉課 介護センター（オンラ イン）</p>
7	令和5年度第2回全会津介護支援専門員協会研修会	<p>演題「8050問題、周囲に何ができるのか、地域に求められる対応や支援とは」 講師：KHJ全国ひきこもり家族会連合会 副理事長 池上正樹氏</p>	<p>管理者兼主任 介護支援専門員 副管理者兼主任 介護支援専門員 介護支援専門 員 介護支援専門 員 介護支援専門 員</p>	<p>一登ユミ子 佐藤小百合 高津麦子 薄君子 平野保子</p>	<p>R5. 11. 28</p>	<p>全会津介護支援専門員 協会 会津若松ワシントンホ テル</p>
8	令和5年度会津・南会津圏域における若年性認知症（相談者関係者）ネットワーク意見交換会	<p>I 若年性認知症支援コーディネーター事業について II 「若年性認知症の理解を深める」 III 認知症疾患医療センターからの実績報告</p> <p>IV 「会津・南会津圏域におけるアンケート調査の実態把握と課題」 福島県若年性認知症支援コーディネーター 原正幸氏</p> <p>V 会津・南会津圏域における若年性認知症本人と家族の現状と効果的な支援をする上での取り組み ①地域包括支援センターからの事例報告 ②居宅介護支援事業所からの事例報告</p> <p>VI. グループワーク</p>	<p>管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援 専門員 介護支援専門 員 介護支援専門 員 介護支援専門 員</p>	<p>一登ユミ子 青津千恵 薄君子 高津麦子 平野保子</p>	<p>R5. 11. 30</p>	<p>福島県高齢福祉課 介護センター （オンライン）</p>

9	福島県主催 ケアマネ テーマ別研修	<p>「難病を抱える利用者とその家族の支援 担当ケアマネの支援」～ケアマネに求めること～ 講師 福島県難病相談支援センター センター長 福島県難病団体連絡協議会 会長 日本ALS協会福島県支部事務局長 特定非営利活動法人いわき自立生活センター 理事長 長谷川秀雄氏</p>	<p>管理者兼主任 介護支援専門員 副管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援 専門員 介護支援専門 員 介護支援専門 員 介護支援専門 員</p>	<p>一登ユミ子 佐藤小百合 青津千恵 高津麦子 薄君子 平野保子</p>	R5. 12. 20	<p>福島県高齢福祉課 介護センター (オンライン)</p>
10	令和5年度福島県介護支 援専門員研修Ⅱ (現 任)	<p>○『介護支援専門員現任研修テキスト第2巻 専門研修課程Ⅱ 第3版』記載の事例に添った演習 ・認知症に関する事例 ・家族への支援の視点が必要な事例 ・入退院時等における医療との連携に関する事例 ・看取り等における看護サービスの活用に関する事例 ・社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例 ・状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例</p>	介護支援専門員	高津麦子	R6. 1. 23 ~ 24	<p>一般社団法人福島県介 護支援専門員協会 ZOOMオンライン</p>
11	令和5年度ケアマネのた めのテーマ別研修③	<p>講義テーマ 「仕事と介護の両立支援」 講師：一般社団法人福島県介護支援専門員協会 相談役 (前会長) 菊地健治氏</p>	<p>副管理者兼主 任介護支援專 門員 介護支援専門 員 介護支援専門 員</p>	<p>佐藤小百合 高津麦子 薄君子</p>	R6. 1. 26	<p>福島県高齢福祉課 ZOOMオンライン</p>



12	令和5年度ケアマネのためのテーマ別研修④	<p>テーマ「高齢者の権利擁護支援」 ～身寄りのない方。判断力の低下している方を中心に～</p> <p>講師：谷川社会福祉士事務所 谷川ひとみ氏</p>	<p>副管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員</p>	<p>佐藤小百合 青津千恵 高津麦子 薄君子 平野保子</p>	R6. 2. 8	<p>福島県高齢福祉課 ZOOMオンライン</p>
13	令和5年度柳津町居宅介護支援事業所 西会津町居宅介護支援事業所 合同勉強会	<p>「基本的な業務マナー」について</p> <p>講師：(株)ハッピーケア 営業推進室 室長 渡部正幸氏</p>	<p>管理者兼主任介護支援専門員 副管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員</p>	<p>一登ユミ子 佐藤小百合 青津千恵 薄君子 高津麦子 平野保子</p>	R6. 2. 15	<p>柳津町居宅介護支援事業所 柳津町高齢者福祉センター</p>

令和5年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町居宅介護支援事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	2	0	0	0	0	0	2
	家族	1	1	0	0	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	3	0	0	0	0	0	4

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	1	0	0	0	0	0	1
職員の態度(接遇)	3	0	0	0	0	0	3
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	0	0	0	0	0	4

令和5年度

## にしあいづ地域包括支援センター事業報告

### 1. 基本方針の評価

西会津町の業務委託実施方針のもと、地域包括ケアシステムの深化・推進を担う中核機関として、地域住民一人ひとりに対する個別支援や地域におけるネットワーク構築等、地域の高齢者に関する様々なニーズに応えることのできる地域に密着したワンストップの総合相談拠点として事業を展開してきた。

新型コロナウイルス感染症の影響は続いていたが、認知症サポーターステップアップ講座では、高齢者が中学生と実際に会場で会話をする新しい試みを行ったり、認知症カフェや出張相談会などで地域に出向く機会を持つなど、主要の個別事業について事業所内外と連携を図りながら活動してきた。また、社会福祉援助技術実習として1名の実習生を受け入れた。

### 2. 重点目標

#### (1) 介護予防ケアマネジメント

①その人らしい自立した生活ができるよう、介護予防の視点にたったケアプランを作成している。本人や家族の意向を確認しながら、その人が望む生活を視野にアセスメントし、必要なサービスの利用に心がけた。また地域活動への積極的参加を継続し、地域での生活が継続できるように、サロンへの参加や近隣支援者との交流も確認しながらケアマネジメントを行なった。

②ミニデイサービスでは6名の新規利用があった。定期的に検討会を開催したり、社会福祉協議会と連携を密にし、利用状況の把握や情報共有を図りサービスの向上に努めた。また、介護保険サービスへの移行時など引継ぎ等をスムーズに行いサービスが途切れないように努めた。

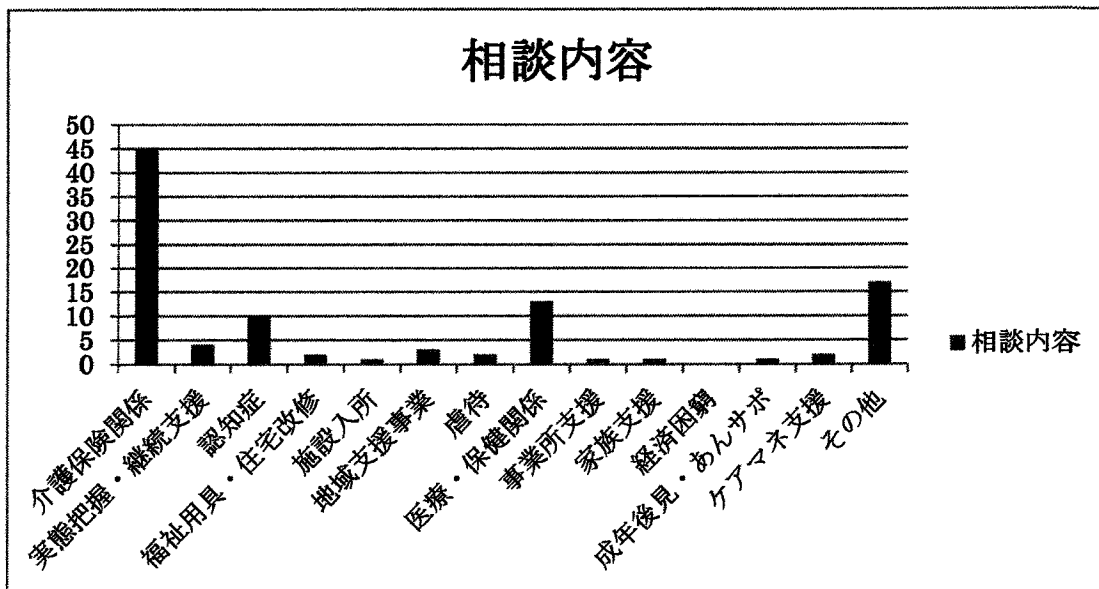
今年度も理学療法士による棒体操やストレッチを安全に実施するための注意点や、効果的な実施方法、支援員への介助方法など助言指導を受けた。

③訪問型生活援助事業は継続で2名の利用があった。シルバー人材センターと利用者の意向を確認し、モニタリングや報告書で利用者の状況等を評価し、利用者の生活機能の維持・向上に努めた。1名は永眠にて終了し、現在は1名が利用中である。

#### (2) 総合相談支援業務

①「地域包括支援センター」が高齢者の相談窓口であることを地域住民に浸透するために、関係機関の会議に参加した時や認知症サポーター養成講座・各団体等での講話の際、また家庭訪問時に、地域包括支援センターの役割を説明しパンフレットを配り周知に努めた。センターが主催する認知症カフェや出張相談会は、事前に町広報誌、ケーブルテレビ、西会津診療所の電光掲示板を活用し、広く宣伝を行った。

②相談内容（令和5年4月～令和6年3月）をおおまかに分類すると、下記のようになった。



昨年度実績と比べると、相談件数・相談実人数ともに減少した。相談対象の年代は85歳以上が多く、世帯は高齢者同居世帯（65歳以下の家族が同居）が最も多く、次いで高齢者単身、高齢者のみの世帯であった。相談内容（受け付けた際の主となる内容）を分類すると、昨年度と同様で介護保険関係（認定申請やサービス利用）、次に医療・保健関係（受診支援や服薬管理についての相談、医療機関から受診時の様子で心配なことの相談、難病患者（ALS）の支援等）、認知症（ひとり歩き、妄想、サービス利用拒否、対応の仕方についての相談等）という順位結果になっている。

相談を受け付け後は、3職種で共有協議し適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローし、必要に応じてセンター自らの各業務として対応していった。

さらに相談内容を分析すると下記のような課題が把握されたため、毎月の月次報告で町と共有してきた。

#### 【認知症】

- ・認知症高齢者への対応（ひとり歩き、強い妄想、幻視、受診拒否、理解や接し方）
- ・地域との関わり

#### 【介護・医療に関わること】

- ・介護サービス拒否
- ・男性介護者について（介護力不足、他との交流の場）
- ・服薬管理が難しい
- ・難病（ALS・パーキンソン病）患者支援
- ・独居高齢者の入院・受診支援、服薬管理
- ・医療機関受診中断や拒否、健診未受診
- ・医療と介護の連携

<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護と仕事の両立についての家族支援</li> <li>・介護者の入院による生活支援</li> </ul>
<p>【複合的な課題を抱えるケース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老老介護、認認介護</li> <li>・高齢者と、その家族（障がい、ひきこもり、アルコール依存、家計管理が困難、家族関係不和、家族の介護力不足、多頭飼育、ゴミ屋敷）も含めた支援</li> <li>・8050問題、9060問題</li> <li>・ネグレクト</li> <li>・生活困窮</li> </ul>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営住宅の階段昇降困難者に対する外出支援</li> <li>・支援者に関すること（近隣支援者がいない又は減少、地域関係希薄、離れて暮らす子供が地域まかせ）</li> <li>・水の出ない生活環境</li> <li>・災害時の情報共有のルール</li> <li>・障がいサービスから介護保険サービス移行時の利用料増</li> <li>・在宅で医療行為（インシュリン注射）が必要な方の支援</li> </ul>

③介護・福祉・健康などに関して、より身近な場所で相談できるように昨年度から開始した出張相談会は、奥川支所で2回、野沢体育館で1回開催した。奥川では診療所の診察日に合わせて行い、相談目的での来所はなかったが、通院してきた患者の中で服薬支援の相談から介護申請につながったケースが1件あった。また、生活の様子を聞いたり包括のチラシで相談についての案内をした。野沢体育館では、休日のコロナワクチン接種日に合わせて開催した。ワクチン会場の一角をお借りして包括の案内ができ、実際に自宅で介護をしている方から、どこに相談していいかわからなかったのがよかったとの声があり、包括のPRの機会となった。

### (3) 権利擁護業務

①成年後見制度等に関わる相談は4件あり、1件は前年度からの継続ケースが、成年後見制度首長申立の結果司法書士が後見人に選任されたため、親族立ち合いの下でこれまでの経過や今後の方向性について後見人と情報共有し引継ぎを行った。また、他3件は居宅介護支援事業所で関わっている首長申立のケースであったため、行政（中核機関）と申立準備の役割分担を確認し、本人情報シート作成のためのケアマネ支援を行った。

②高齢者虐待対応事例は6件あり、それぞれ世帯の抱える課題には、経済的問題・家族関係不和・老老介護・精神疾患を抱える介護者等により、経済的虐待・身体的虐待・心理的虐待・介護放任が把握された。内1件は緊急保護が必要であったため、福祉施設への措置入所となった。複合的な課題を抱えた世帯が増加しているため、町・親族・関係機関等と連携しながら対応にあたった。

③消費者被害に関わる相談事例はなかったが、日頃から消費者被害の未然防止と早期発見に努

め、権利擁護に関する相談があった際には、速やかに関係機関と連携しながら対応できるよう心掛けてきた。

#### (4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ①町内の介護支援専門員や関係機関等から相談の実件数は14件であった。相談内容は、認知症高齢者への家族の対応、自宅での介護状況が心配される方、家族関係不和により介護に影響を及ぼしていることや、併せて金銭面の課題もある等、複合的な課題を抱える世帯に関するものが多かった。事例により、カンファレンスや地域ケア個別会議で今後の支援を協議したり、ケアマネと包括が一緒に訪問して事実確認を行う等、継続的に情報共有し後方支援を行った。
- ②地域ケア個別会議を主催し地域支援ネットワーク構築を目指したことに加えて、包括もそのネットワークの一員として、民生児童委員協議会定例会、須川ふれあいネットワーク、西会津町生活支援体制整備事業ささえ愛支援会議・3者協議、サロン交流会、啓和会運営推進会議、グループホームのぞみ運営推進会議、高陽の里運営推進会議、福島県生活困窮者自立相談支援事業会議に参加した。新型コロナウイルス感染症の影響は続いていたが、さまざまな分野と連携し、個々の支援については途切れることがないように必要な関係者間で協働した。

#### (5) 地域ケア会議

- ①地域ケア個別会議には、高齢者サービス調整会議、チームアプローチ研修会、ケアマネジメント研修会、個別ケース会議の4つを位置付けている。新型コロナウイルス感染症対応では3密を避ける必要があり、異なる団体から大勢の者が一つの場所に集まり協議する形をとっているチームアプローチ研修は、引き続き今年度も開催を見合わせた。他の3つの会議・研修会は必要性に応じ資料配布のみとしたり、集まる環境や時間を工夫することで開催してきた。
- ②高齢者サービス調整会議は月1回サービス利用の情報共有が主な内容であり、3回は集合型で開催し、9回は資料の配布のみとした。地域の対応力アップを目的としているケアマネジメント研修会は、感染症対応を徹底し実施した。事例検討後は参加者が自身のケアマネジメントに活かし、地域課題については意見交換し町に報告した。個別ケース会議は6名の対象者について7回開催し関係者間で協議し、その後の支援につなげた。
- ③「自立支援型地域ケア会議」は1回開催した。薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士より、具体的な助言をもらい新たな知識を得ることができた。介護予防に向けて、高齢者やその家族が自ら行動変容することにつながるように、その助言を活かし支援に努めた。

#### (6) 認知症総合支援業務

- ①認知症カフェ（オレンジカフェいいで愛）は、感染拡大により1回は中止となったが、住民キャラバンメイトの協力もあり、3回開催し20名の参加があった。7月は音楽バンドによる演奏会を実施し、参加者が生演奏で歌う体験ができた。広報としてケーブルテレビ

に取材を依頼し、事業の目的と当日の様子を紹介した番組が町内で放映された。また、家族介護者のつどい・相談会を2回開催し、6名が参加。1回目は女性介護者、2回目は男性介護者を対象に行った。介護者同士がお互い顔なじみになり、在宅介護で抱える悩みや情報交換ができるよう、家族介護者の支援の場を設けた。

- ②認知症支援ガイド（認知症ケアパス）は、認知症介護の相談時や、出張相談会・サロンでの講話等で紹介・配布し、当事者の症状から認知症の進行状態や社会資源の説明に活用した。
- ③「チームオレンジ」の立ち上げ準備に向け、町内にあるサービス事業所や関係機関の協力を得ながら当事者の声を確認したり、認知症サポーターステップアップ講座の実施に向け、認知症ケアスキルアップ研修で依頼した外部講師に助言を受けながら講座の企画を行った。また、4年ぶりに外部講師を招いて専門職を対象にした認知症ケアスキルアップ研修を開催し、「認知症ケアの今とこれから」について講義をいただき、参加者間で意見交換をした。
- ④認知症サポーター養成講座は、小学6年生・高校3年生を対象に実施し、キャラバンメイトも班編成になり、当日は住民キャラバンメイトが中心となり講座を進めることができた。また、今年度は昨年度講座を受講した中学3年生と民生児童委員、西会津町あんしん見守りネットワーク事業者を対象に、認知症サポーターステップアップ講座を実施した。
- ⑤認知症初期集中支援チームへの相談対応ケースはなかったが、支援につながっていない認知症の相談があったケースや若年性認知症等については、チーム員を構成する町・西会津診療所と情報共有してきた。また、今年度は西会津診療所の医師がサポート医研修を修了したため、今後チーム員会議の開催を予定している。
- ⑥認知症高齢者の見守り体制の整備では、検索システム（GPS端末）の活用について、ケアマネを通じて紹介したケースはあったが、家族が受信機となるスマートフォンを所有していなかったため、貸与にはつながらなかった。被害妄想やひとり歩き・家族の対応に課題がある等、地域の中で見守りが必要なケースについては、町や警察と情報共有するなど、関係機関と連携しながら対応してきた。

#### （7）センター運営

- ①災害発生時や感染症が流行した場合であっても、必要な業務を継続できるための業務継続計画を作成した。
- ②年間研修計画に基づき積極的に研修を受講し、さらに他の職員に復命することで事業所全体のスキルアップを図ってきた。感染対応や虐待対応については、介護センター4事業所で共同し、計画的に職員会議内で勉強会を実施した。
- ③健康づくりを習慣化するために、「西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳」を活用し、健康行動を習慣化できるようにした。また、日頃の職場環境が快適で働きやすいものになっているかを、随時確認しながら業務にあたってきた。

# にしあいつ地域包括支援センター実績報告書 令和5年4月～令和6年3月

※( )は前年度4月～3月

## 1.相談件数(延べ件数)

	来所	電話	訪問	メール・文書	会議	その他	総計
日中	62	1486	387	12	17	276	2240(2418)
夜間	0	5	0	0	1	0	6(3)
総計	62(90)	1491(1752)	387(353)	12(31)	18(14)	276(181)	2246(2421)
新規(再掲)	21(29)	244(256)	36(28)	1(3)	1(0)	46(26)	349(342)

## 2.相談実人数 前年度( )

	男性	女性	不明	総計
継続	115	240	1	356(306)
新規	103	173	3	279(284)
総計	218(215)	413(374)	4(1)	635(590)

## 3.年代別(延べ件数) 前年度( )

	65歳未満	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明	総計
相談者年齢	23(73)	396(376)	722(669)	1096(1295)	9(8)	2246(2421)

## 4.世帯構成(延べ件数) 前年度( )

	高齢者単身	高齢者世帯	高齢者同居	その他・不明	総計
世帯構成	796(996)	621(756)	809(607)	20(62)	2246(2421)

## 5.相談者(延べ件数)

家族	本人	458(406)	近隣 地域関係	近隣住民	16(12)	
	配偶者	167(161)		親戚・知人	18(31)	
	子供	434(464)		自治会・老人クラブ	0(4)	
	子の配偶者	61(68)		商店・コンビニ	2(5)	
	兄弟姉妹	38(62)		金融機関	0(5)	
	親	0(3)		新聞店	0(0)	
	甥姪	24(48)		宅配・交通機関	1(6)	
	その他(家族)	24(14)		飲食店	0(0)	
関係機関等	地域包括	7(3)	行政関係	その他(近隣)	0(1)	
	ケアマネ	160(90)		福祉担当	137(107)	
	サービス事業所	211(229)		介護保険担当	142(287)	
	福祉施設	5(17)		障害者担当	3(3)	
	社会福祉協議会	10(16)		健康増進課	85(108)	
	シルバー人材センター	5(6)		初期集中支援チーム	0(0)	
	家庭裁判所	0(0)		その他	警察・消防	4(3)
	医療機関	447(476)			NPO・団体	1(0)
	薬局	10(13)			ケース会議	5(0)
	民生委員	36(74)			その他	1(0)
	成年後見人	1(1)			総計	
その他(関係機関)	14(20)		2527(2741)			



## 6.相談内容(延べ件数)

前年度( )

	件数		件数
1.日常生活相談	64(129)	14.生活保護・経済的困窮に関する事	7(19)
2.介護一般の相談	44(41)	15.成年後見制度に関する事	16(24)
3.介護保険サービスに関する事	368(431)	16.日常生活自立支援事業に関する事	0(6)
4.介護保険に関する事	512(549)	17.虐待に関する事	61(32)
5.保健・医療に関する事	373(284)	18.消費者被害に関する事	0(6)
6.介護予防事業に関する事	20(35)	19.情報提供・情報共有	597(609)
7.障害福祉に関する事	3(2)	20.継続観察・実態把握	86(96)
8.施設入所に関する事	45(55)	21.見守り相談	10(20)
9.家族間の問題に関する事	11(22)	22.安否確認	6(0)
10.住宅改修・福祉用具に関する事	68(68)	23.緊急対応	12(12)
11.認知症に関する事	143(115)	24.苦情	6(9)
12.精神疾患に関する事	21(9)	25.その他	34(53)
13.アルコール問題に関する事	14(4)	総計	2521(2623)

## 7. 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント(延べ件数)

## ○予防給付管理

	介護予防支援	総合事業予防ケアマネジメント
直営プラン	610(524)	313(344)
委託プラン	0(0)	0(0)

## ○介護予防ケアマネジメント

ミニデイ・訪問型生活援助	201(173)
--------------	----------

## 8.包括的・継続的ケアマネジメント支援(延べ件数)

前年度( )

	ケアマネージャー	サービス事業所	その他
相談・助言	17	8	10
サービス調整	2	0	4
関係機関調整	1	0	0
同行訪問等	4	0	1
医療機関等への同行	0	0	0
担当者会議参加	1	0	0
会議開催支援	1	2	0
連絡・報告	20	11	11
その他	1	1	2
合計	47(17)	22(25)	28(23)

## ○介護支援専門員や事業所等からの相談内容(実件数)

	ケアマネージャー	サービス事業所等
支援困難ケースについて	2(2)	3(2)
ケアマネジメントについて	2(1)	0(0)
認知症高齢者への対応	1(2)	0(0)
利用者や家族からの苦情	1(0)	0(0)
医療・介護の連携	0(0)	0(0)
生活困窮・金銭管理	2(0)	0(0)
その他	3(2)	0(0)
合計	11(7)	3(2)

令和5年度 にしあいつ地域包括支援センター 事業実績

事業内容	事業概要	回数・件数
高齢者サービス調整会議	地域の関係機関が集まり、地域のサービス利用状況や各事業所が抱える課題等の情報を共有し、解決に向けた連絡調整や役割分担を図り、必要な地域づくり・資源開発と政策形成につなげる。	12回 通常開催：3回 書面開催：9回
個別ケース会議（困難事例）	解決すべき課題や多問題を抱えた困難事例のケースについて各専門職、団体や関係機関と連携を図り、個別支援及び地域課題を意識しながら迅速な課題解決に向けての支援につなげる。	7回 対象者：6名
ケアマネジメント研修会	個別の事例の検討を通じ、個々のニーズに応じて必要とされるサービスを適切に結び付け調整を図りつつ包括的かつ継続的にサービス供給を確保できるように、地域の対応のスキルアップを目指す。	6回
高齢者虐待対応事例	高齢者虐待事例への対応	6件 会議開催：6回
成年後見相談事例	成年後見相談事例への対応	1件
西会津町地域包括支援センター連絡会	西会津町における地域包括ケアの構築のため、にしあいつ地域包括支援センターの業務が円滑に運営できるように連絡会を行う。	12回
講話や活動発表（各種団体）	各種団体へ出向き、講話や活動発表を行う。	4回
講話や活動発表（サロン）	各地域のサロンへ出向き、講話や活動発表を行う。	3回
認知症サポーター養成講座	西会津小学校6学年と西会津高校3学年を対象に、認知症サポーター養成講座を実施。	2回
認知症サポーターステップアップ講座	西会津中学校3学年や西会津民生児童委員等に向け、認知症サポーターステップアップ講座を実施。	3回
認知症カフェ（オレンジカフェいいで愛）	認知症カフェを実施。	3回
認知症等家族介護者のつどい・相談会	在宅で介護をしている介護者を対象に実施	2回

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	令和5年度全会津介護支援専門員協会総会・記念講演	<p>1. 総会 2. 記念講演「会津若松市における医療と福祉の連携について」 講師：会津若松市在宅医療・介護連携センターセンター長 新井田有耕氏 支援員 大堀晃寛氏</p>	<p>管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援専門員 社会福祉士兼 認知症地域支援推進員</p>	<p>加藤美世子 秦千香子 鈴木朋美</p>	R5. 4. 17	<p>全会津介護支援専門員協会  さゆりの園会議室 (オンライン) アピオスペース (鈴木)</p>
2	令和5年度市町村等職員向けチームオレンジ研修会	<p>1. 認知症施策の動向～制度上の位置づけと財源等～ 講師：福島県高齢福祉課 副主査 高山詩織氏 2. チームオレンジの理解 (1) チームオレンジの概要 講師：オレンジ・チューター 齋藤光樹氏 (会津美里町地域包括支援センター) (2) ステップアップ講座の開催 講師：オレンジ・チューター 石井利幸氏 (介護老人保健施設ひもろぎの園)</p>	<p>社会福祉士兼 認知症地域支援推進員</p>	鈴木朋美	R5. 6. 21	<p>福島県高齢福祉課  オンライン研修</p>
3	地域包括ケアシステム構築に係る研修～認知症対策及び生活支援体制整備事業から見る連動性～	<p>講演「本人の声を起点に、部署の垣根を超えたダイナミックな認知症施策と支援体制づくり～これまでの振り返りと今後に向けて～」 講師：和歌山市御坊市 認知症地域支援推進員 谷口泰之氏  グループワーク</p>	<p>社会福祉士兼 認知症地域支援推進員</p>	鈴木朋美	R5. 6. 26	<p>福島県会津保健福祉事務所  会津坂下町健康管理センター</p>
4	令和5年度キャラバンメイト養成研修	<p>1. 認知症サポーターキャラバン 2. 認知症の基礎知識 3. 認知症の人を地域で支えるチームオレンジについて 4. 認知症サポーター養成講座の運営方法 (講義) 5. グループワーク (演習) 「認知症サポーター養成講座の企画を作成してみよう」</p>	<p>保健師</p>	倉橋直美	R5. 6. 8	<p>福島県男女共生センター</p>

5	自立支援型地域ケア会議基礎研修	<p>1. 開会  2. 行政説明「福島県自立支援型地域ケア会議の定着支援」について  説明：福島県健康づくり推進課  3. 講義①「自立支援型地域ケア会議とは」～目的、会議の実際、充実させるために～  4. 講義②「自立支援型地域ケア会議を効果的な会議とするために」～助言者の視点から～  5. 講義③「自立支援型地域ケア会議を有効活用するために」～事例提供者の視点から～  6. 質疑応答 7. 閉会</p>	管理者兼主任 介護支援専門員	加藤美世子	R5. 6. 30	福島県保健福祉部健康 づくり推進課  介護センター（ZOOM）
6	令和5年度チームオレンジ情報交換会	<p>○グループワーク  ①立ち上げのプロセス  ②ステップアップ講座  ③運営面・人材確保  講師：高橋英明氏（福島県高齢福祉課）橋本好博氏（グループホームすずらんあかり）石井利幸氏（介護老人保健施設ひもろぎの園）齋藤光樹氏（会津美里町地域包括支援センター）</p>	社会福祉士兼 認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R5. 8. 25	福島県高齢福祉課  西会津町役場（オンライン）
7	令和5年度全会津介護支援専門員協会 第1回研修	<p>演題：「権利擁護と成年後見制度について」事例から考えてみよう  講師：特定非営利法人あいづ安心ネット  理事長 小池達哉氏  理事 菊地恵子氏</p>	管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援専門員 社会福祉士兼 認知症地域支援推進員	加藤美世子 秦千香子 鈴木朋美	R5. 8. 28	全会津介護支援専門員協会  会津アピオスペース
8	令和5年度主任介護支援専門員更新研修	<p>通信学習・Zoom演習  1. 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向  2. リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例  3. 認知症に関する事例  4. 看取り等における医療との連携に関する事例  5. 入退院時等における医療との連携に関する事例  6. 家族への支援が必要な事例  7. 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例  8. 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例</p>	主任介護支援専門員	秦千香子	R5. 6. 16～ R5. 8. 30	福島県会津介護支援専門員協会  オンライン（ZOOM）

9	令和5年度第2回会津地域認知症地域支援推進員連絡会	I 第2回連絡会の趣旨 II 「本人の何気ないひとことシート」を活用してグループワーク III 意見交換 ①グループワーク発表 ②全体	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R5. 9. 15	福島県会津保健福祉事務所 会津若松市生涯学習総合センター
10	社会福祉士実習指導者フォローアップ講習会	講義「新カリキュラムにおける実習プログラミング」 演習：実習プログラミングの実際 講師：日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 添田正揮氏	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R5. 10. 7	福島県社会福祉士会 介護センター（ZOOM）
11	家族アセスメント力を向上させよう～家族の理解とアプローチ方法について学ぶ～	1. 講義「家族の特徴を構造的に理解するキーワード」とミニワーク 2. 講義「家族理解に役立つツールの使い方」とミニワーク 3. 事例を通して家族アセスメントを体験する	管理者兼主任介護支援専門員	加藤美世子	R5. 10. 5	福島県社会福祉士会 介護センター（ZOOM）
12	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員研修	1. 管理職員としてのキャリアデザインと環境整備 2. ・福祉サービスの基本理念・倫理を推進する ・組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成 3. 人材アセスメント 4. 啓発科目の講義と演習 5. 行動指針の策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師：株式会社エイデル研究所 田中幹也氏	管理者兼主任介護支援専門員	加藤美世子	R5. 10. 12 ～13	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
13	令和5年度主任介護支援専門員研修	【講義・演習】 ・ケアマネジメントに必要な医療連携及び多職種協働の実現 講師：福島市在宅医療・介護連携支援センター 田中嘉章氏 ・地域援助技術 講師：ケアプランゆめ 菊地恵子氏 ・対人援助者監督指導 講師：郡山ソーシャルワーカーズオフィス 吉田光子氏 ・個別事例を通じた指導・支援の展開 講師：福島県社会福祉士会会長 松本喜一氏	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R5. 10. 11 ～13 R5. 10. 23 ～24	福島県介護支援専門員協会 ZOOMオンライン

14	令和5年度地域包括・在介協議会会津支部研修会「高齢分野・障がい分野連携基礎研修」	講義と意見交換 テーマ「領域ごとの違いってなに？介護保険と障がい福祉の基礎知識について学ぶ」 講師：会津若松市在宅医療・介護連携支援センター 長谷川多鶴氏 会津若松市障がい者支援センターカムカム 平賀智弥氏	管理者兼主任 介護支援専門員	秦千香子	R5. 10. 24	地域包括・在介協議会 会津支部 会津坂下町立中央公民館
15	令和5年度ケアマネのためのテーマ別研修	第1回：「令和6年度介護保険改正の動向（ケアマネジメントを中心に）」 講師：介護の未来 阿部充宏氏 第2回：「令和6年度介護保険改正の動向・ケアマネージャーへの期待」 講師：介護の未来 阿部充宏氏	社会福祉士兼 認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R5. 10. 18 R5. 10. 25	福島県高齢福祉課 介護センター(ZOOM)
16	令和5年度東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター職員研修会	○基調報告 全国地域包括・在宅介護支援センター協議会の取組 講師：社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長 青木佳之氏 ○行政報告 地域包括・在宅支援センターの動向について 講師：厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室 地域包括ケア推進間 延育子氏 ○講演 地域包括ケアシステムの更なる深化・推進に向けた 講師：東北福祉総合マネジメント学部 准教授 森明人氏 ○パネルディスカッション「アフターコロナ下での地域とのつながり、地域における支え合い活動について」	管理者兼主任 介護支援専門員  保健師  社会福祉士兼 認知症地域支援推進員	加藤美世子 倉橋直美 鈴木朋美	R5. 11. 14	福島県社会福祉協議会 地域包括・在宅介護支援センター協議会  介護センター (ZOOM)
17	令和5年度第2回全会津介護支援専門員協会研修会	演題「8050問題、周囲に何ができるのか、地域に求められる対応や支援とは」 講師：KHJ全国ひきこもり家族会連合会 副理事長 池上正樹氏	管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援専門員 社会福祉士兼 認知症地域支援推進員	加藤美世子 秦千香子 鈴木朋美	R5. 11. 28	全会津介護支援専門員協会 会津若松ワシントンホテル

18	令和5年度生活支援体制整備事業情報交換会	事例発表 ①下郷町「高齢化集落における支え合いの体制づくり」 ②秋田県羽後町「本人の声を踏まえた移動支援や有償ボランティアへの取り組み」 グループワーク	保健師	倉橋直美	R5. 12. 5	福島県会津保健福祉事務所 福島県会津保健福祉事務所会議室
19	ケアマネのためのテーマ別研修（難病について）	「難病を抱える利用者とその家族の支援 担当ケアマネの支援」～ケアマネに求めること～ 講師 福島県難病相談支援センター センター長 福島県難病団体連絡協議会 会長 日本ALS協会福島県支部事務局長 特定非営利活動法人いわき自立生活センター 理事長 長谷川秀雄氏	管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 保健師	加藤美世子 秦千香子 倉橋直美	R5. 12. 20	福島県高齢福祉課 介護センター(ZOOM)
20	チームオレンジコーディネーター養成研修（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の認知症施策の動向</li> <li>チームオレンジとは</li> <li>ステップアップ講座のポイント</li> <li>チームオレンジの立ち上げに向けた準備①</li> <li>会津美里町におけるチームオレンジ立ち上げと現在までの活動について</li> <li>チームオレンジの立ち上げに向けた準備②（演習）</li> <li>コーディネーターとしての計画行動（演習）</li> </ul>	主任介護支援専門員	秦千香子	R6. 1. 19	福島県高齢福祉課長 介護センター（オンライン）
21	福島県「令和5年度ケアマネのためのテーマ別研修③」	講義テーマ 「仕事と介護の両立支援」 講師：一般社団法人福島県介護支援専門員協会 相談役（前会長） 菊地健治氏	管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症地域支援推進員 保健師	加藤美世子 秦千香子 鈴木朋美 倉橋直美	R6. 1. 26	福島県高齢福祉課 ZOOMオンライン

22	福島県「令和6年度ケアマネのためのテーマ別研修④」	<p>テーマ「高齢者の権利擁護支援」 ～身寄りのない方・判断力の低下している方を中心に～</p> <p>講師：谷川社会福祉士事務所 谷川ひとみ氏</p>	<p>管理者兼主任 介護支援専門員 主任介護支援 専門員 社会福祉士兼 認知症地域支 援推進員</p>	<p>加藤美世子 秦千香子 鈴木朋美</p>	R6. 2. 8	<p>福島県高齢福祉課 ZOOMオンライン</p>
23	令和5年度第2回チームオレンジ情報交換会	<p>テーマ・共有 ①チームの立ち上げ ②実態把握と活動内容</p> <p>講師 オレンジチューター 高橋英明氏・石井利幸氏・橋本好博氏・齋藤光樹氏・長谷川正江氏・遠藤丈志氏</p>	<p>社会福祉士兼 認知症地域支 援推進員</p>	鈴木朋美	R6. 2. 26	<p>福島県高齢福祉課 ZOOMオンライン</p>



令和5年度

障がい相談事業所にしあいづ事業報告

## 1. 基本方針の評価

運営規程及び西会津町障がい相談支援事業所委託契約に基づき、以下の重点目標を基本として事業を展開してきた。

昨年度まで1名の相談支援専門員で実働していたが、今年度は4名（全員、他の事業所と兼務）だったので、所内で適時相談し合える環境があり、日々職員同士で情報共有しながら業務を進めることができた。

障害者本人やそれを支える家族も高齢化、発達障害の児童の増加（微増ではあるが）はあるが、住み慣れた地域で暮らし続けるために、さらに町内外の関係者・機関と連携強化し支援していく必要性を感じた1年間であった。

## 2. 重点目標

### (1) 連携強化の取り組み

障害者・児の家族親族、町内外の障がい福祉サービス、行政機関、医療機関、地域のサロン等と日常的に情報共有し、個々のニーズに対応するために連携を強化した。不安定な症状が強くなった精神疾患をもつ利用者の場合では、関係者や機関でケース会議を開き、関わり方や具体的な支援を協議し次につなげた。ADHD（注意欠如・多動症）の児童の支援ではスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、担任教師も交えて主治医に現状を伝えることで医療面での調整が行われ、現在は落ちついた生活ができていいる。また、子育て支援センターの保健師とも適宜連絡を取り合うことで保護者情報等を共有し世帯の変化に対応することができた。

### (2) 意思決定支援

第一に本人の意思を尊重した支援を心がけたが、健康に配慮した食事や清潔な衣服の選択等生活習慣の場面、住まいを自宅からグループホーム等に移す場面などで、本人自身が一般的な社会生活を送るのに適切な選択が難しい場合は、本人をよく知る関係者で少しずつ修正を加えながら意思決定支援を進めてきた。それにより、トイレに行く習慣がなかった利用者が排泄面で自立した方もいた。

### (3) 心身の変化に合わせたサービス利用支援

計画相談支援及び障害児相談支援事業所として、法令に基づきケアマネジメントを行ってきた。利用者は年間を通して約40名であり、新利用者は1名、終了者は5名（介護保険制度移行2名、県外転出1名、養護老人ホーム入所1名、永眠1名）であった。障害サービス受給者証において設定された時期にモニタリングを行った。老親との生活で糖尿病悪化した利用者や、共に障害者である夫婦世帯に居宅介護サービスを増やしたり、自身で自立できた部分についてはサービス利用量を減らしていくなど、本人に合わせたサービス変更をしてきた。

(4) 相談支援専門員の質の向上

会津圏域相談支援ワーキンググループのメンバーとして、他の事業所と共に研修会を企画運営し、同時につながりも作った。ダウン症の認知症、障害者の性など日頃の支援で課題となっている研修については西会津町授産場職員と共に受講するなど、他の関係者とともに知識の習得に努めた。また、今年度は職員1名が相談支援専門員の更新研修を受講した。

(5) 働きやすい環境と職員の健康

昨年度までは事業所職員が1人であったが、今年度は4人（全員、他の事業所と兼務）で実働していたので、支援困難と感じるケースについて相談し合うことができた。職員の健康維持については西会津町健康ポイント手帳を有効に活用することで、血圧、野菜摂取等意識して過ごすことができた。

令和5年度 障がい相談事業所にしあいづ 計画相談支援の利用実績の状況

(1)計画相談支援を利用した障害者・児 ※実人数

(令和5年4月 ~ 令和6年3月)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計		
	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者
身体障害	3	0	3	0	4	0	3	0	3	0	3	0	3	0	4	0	4	0	2	0	3	0	6	0	41	0	
重度心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知的障害	10	0	8	0	12	0	8	0	4	0	12	0	12	0	7	0	15	0	5	0	5	0	13	0	111	0	
精神障害	6	0	4	0	2	0	4	0	6	0	3	0	5	0	7	0	2	0	3	0	6	0	1	0	49	0	
発達障害	0	2	0	0	0	4	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	0	0	0	0	3	0	17
高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	19	2	15	0	18	4	15	1	13	2	18	0	20	1	18	0	21	1	10	3	14	0	20	3	201	17	

(2)計画作成月別状況 ※実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
障害者	4	4	1	3	1	2	8	4	3	2	1	5	38
障害児	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	5
計	6	4	1	4	1	2	8	4	4	3	1	5	43

(3)計画作成した障害者・児の障害福祉サービス利用状況 ※重複利用あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就労	3	4	1	2	1	2	5	3	2	2	1	4	30
居宅	1	1	0	2	0	2	3	1	1	0	0	2	13
生活介護	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
短期入所	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
施設入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
グループホーム	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	5
療育	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	5
計	7	6	2	7	1	5	9	5	6	4	1	7	60

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	相談支援事業に関するワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーキンググループ参加者及び市町村福祉行政担当者との顔合わせ</li> <li>各回担当者チームの結成</li> </ul>	管理者兼相談支援専門 相談支援専門員	秦千香子 佐藤千春	R5. 5. 16	会津障がい保健福祉圏域連合会 ZOOMにて
2	相談支援事業に関するワーキンググループ「教育関係者との情報共有」研修	講演「SSWの役割と視点について」 講師：スクールソーシャルワーカー 河住裕子氏	管理者兼相談支援専門 相談支援専門員	秦千香子 佐藤千春	R5. 9. 12	相談支援に関するワーキンググループ・会津支部 竹田総合病院・竹田ホール4
3	ダウン症支援セミナー「青年期・成人期・老年期を考える」	オンデマンド聴講 第1部 青年期・成人期を考える 「正しく知ろう急激退行のこと」 講師：菅野敦先生 (東京学芸大学名誉教授) 第2部 ダウン症のある人の高齢化を考える 「知的障害のある人の認知症の考え方と支援」 講師：木下大生先生 (武蔵野大学人間科学部教授)	管理者兼相談支援専門 相談支援専門員	秦千香子 佐藤千春	R5. 9. 25	公益財団法人ダウン症協会 オンラインによるオンデマンド聴講
4	令和5年度福島県医療観察制度地域連絡協議会	○医療保護制度の概要について 講師：福島保護観察所 統括社会復帰調整官 恒任英雄氏 ○指定入院医療機関の治療について 講師：福島県立ふくしま医療こころの杜 主任看護技師 橋本純一氏 主査 根本信幸氏 ○シンポジウム (1) 実践報告「会津地域における医療観察制度の運用について」	相談支援専門員	佐藤 千春	R5. 9. 28	福島県保護観察所 会津保健福祉事務所 竹田ホール

5	令和5年度地域包括・在介協議会会津支部研修会「高齢分野・障がい分野連携基礎研修」	<p>講義と意見交換          テーマ「領域ごとの違いってなに？介護保険と障がい福祉の基礎知識について学ぶ」          講師：会津若松市在宅医療・介護連携支援センター 長谷川多鶴氏 会津若松市障がい者支援センターカムカム 平賀智弥氏</p>	管理者兼相談支援専門員	秦千香子	R5.10.24	<p>地域包括・在介協議会会津支部          会津坂下町立中央公民館</p>
6	令和5年度福島県相談支援専門員協会会津支部研修	<p>事例検討          講師：日本福祉大学非常勤講師 精神保健福祉士 主任介護支援専門員 前山憲一氏</p> <p>事例提供者：障がい相談支援事業所にしあいつ 相談支援専門員 秦千香子</p>	相談支援専門員	佐藤千春	R5.11.9	<p>福島県相談支援専門員協会会津支部          ピカリンホール</p>
7	令和5年度福島県障がい者相談支援従事者現任研修	<p>10/5 講義          「法制度の現状」福島県相談支援専門員協会 渡邊中氏          「意思決定支援に着目した個別相談支援」みどりのかぜ 鈴木繁生氏          「チームアプローチ」会津若松市障がい者総合相談窓口 平賀智弥氏          「コミュニティワーク」伊達氏保原地域包括支援センター 森美樹氏</p> <p>10/6 演習          「ケースレポート・グループワークでケースを深める・アセスメントフォーマット作成」</p> <p>10/17 実地研修Ⅰ</p> <p>11/2 講義・演習          「スーパービジョン」相馬地方基幹相談支援センター 拓 須藤康宏氏          「GSV演習・企画書作成」</p> <p>11/16 実地研修Ⅱ</p> <p>11/29 演習          「GSV演習・全体発表・振り返り・自己チェック」</p>	相談支援専門員	佐藤千春	R5.10.5～6 R5.10.17 R5.11.2 R5.11.16 R5.11.29	<p>福島県・福島県相談支援専門員協会          郡山市総合福祉センター5階</p>

8	相談支援事業に資する ワーキンググループ研 修3月	(1) 会津圏域人材育成及び相談WG事務局構成の説明  (2) 今年度の活動の振り返り	管理者兼相談 支援専門員  相談支援専門 員	秦千香子  佐藤千春	R6. 3. 12	相談支援に関するワー キンググループ・会津 支部  介護センターオンライ ン
---	---------------------------------	---	------------------------------------	------------------	-----------	---

令和5年度

グループホームのぞみ事業報告

## 1. 基本方針の評価

にしあい福祉会の理念と指針のもと、共同生活住居において、相談、入浴、排泄又は食事の介護、その他の日常生活の場面において、入居者一人一人の具体的な援助支援方法を確立させ、個々に合わせた援助ができるよう支援した。

今年度は、入居者自身が生きがいを持ち、施設生活が送れるよう、個人の役割について検討し実践しながら取り組んだ。

## 2. 重点目標

### (1) 「安全・安心」・「笑顔の多い生活」・「利用したい施設」

季節の行事を企画する際、入居者に意見を促し、それを実行することで楽しんでいただけた。施設内の飾り付けを作成する際「できね、やんね」と話されるが、職員と一緒に作成することで徐々に興味を持ってもらえたことで参加する入居者が増えていった。

女性の入居者には、職員から洗濯物たたみや茶碗拭き等をお願いすることで役割を持った生活ができた。日々の声掛けを続けることで「やることあつか、あるならやるよ」と、入居者自身が自主的にやろうとする気持ちを持っていただけた。男性の入居者には役割を見付けることが難しかったが、自身の座席のテーブル拭きや、ロールカーテンの開け閉めを役割として勧めていき習慣化していった。また、男性職員が調理をしている時だけは、茶碗拭きをお願いすると拭いてくれることが分かったため、今後も継続していく。

### (2) 職員の専門性の向上

職員各々が食事を手際よく美味しく調理することやパソコン技術の向上等、自身の目標を掲げ、それに向けて実践していった。その経過や目標の達成状況をケア会議で発表し、他の職員から支持的意見等をもらうことでモチベーション向上につながった。

「身体拘束の弊害、身体拘束禁止、虐待の対象となる具体的な行為」の研修会を内部で実施し、日頃から身体拘束廃止・虐待防止の施設づくりに取り組んだ。

認知症実践者研修、苦情受付担当者研修、介護技術指導者向け研修会、ケアマネジメント研修会に参加し、職務に応じた自己研鑽ができた。

### (3) 健康経営・健全経営に関わる、業務改善と心身の健康増進への取り組み

職員からの業務改善の提案により、入居者の支援等について優先順位をつけて取り組んだことで時間に余裕ができ、入居者と関わる時間の確保や事務作業に充てる時間ができた。

施設設備の老朽化により、施設内の飾り木や手すりの一部が取れかかっていたが、入居者に危険のないよう早急に修繕した。経費面でも物価が高騰しているが、安売りの際に買い物し、また、ご厚意でいただいた野菜を有効活用しつつ美味しい食事提供を心掛けた。

職員の健康づくりで、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、職員各自が血圧測定や野菜の摂取等の取り組みを行い、健康維持に繋がった。

令和5年度 グループホームのぞみ実績報告

1. 利用状況 (実人数)

(単位：人)

	在籍者数			入退所		入退院	
	男性	女性	計	入所	退所	入院	退院
R5 4月	3	6	9	0	0	0	0
5月	3	6	9	0	0	0	0
6月	3	7	10	在) 1	施) 1	0	0
7月	3	6	9	0	在) 1	0	0
8月	3	7	10	在) 1	0	0	0
9月	3	6	9	0	0	0	0
10月	3	6	9	0	0	0	0
11月	3	6	9	0	0	0	0
12月	3	6	9	0	0	0	0
R6 1月	3	6	9	0	0	0	0
2月	4	6	10	在) 1	施) 1	0	0
3月	4	5	9	0	0	0	0

※ (在 → 在宅) (施 → 施設)

2. 延べ利用人数

(単位：人)

月	実人数	延べ人数
R5 4月	9	270
5月	9	279
6月	10	270
7月	9	265
8月	10	279
9月	9	270
10月	9	279
11月	9	270
12月	9	279
R6 1月	9	279
2月	10	261
3月	9	279
合計		3,280

R4年度延べ利用人数 3,277人 前年比3人増



3. 要介護度別実人数（毎月の月末）

（単位：人）

	要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
R5. 4月	0	0	1	1	0	0	2	2	0	1	0	2	3	6
5月	0	0	1	1	0	0	2	2	0	1	0	2	3	6
6月	0	0	1	1	0	0	2	3	0	0	0	2	3	6
7月	0	0	1	1	0	0	2	3	0	0	0	2	3	6
8月	0	0	1	1	0	1	2	2	0	0	0	2	3	6
9月	0	0	1	1	0	1	2	2	0	0	0	2	3	6
10月	0	0	1	1	0	1	2	2	0	0	0	2	3	6
11月	0	0	1	1	0	1	2	2	0	0	0	2	3	6
12月	0	0	1	1	0	1	2	2	0	0	0	2	3	6
R6. 1月	0	0	1	1	0	1	2	2	0	0	0	2	3	6
2月	0	0	1	1	1	1	2	2	0	0	0	1	4	5
3月	0	0	1	1	1	1	2	2	0	0	0	1	4	5

平均要介護度 要介護 2.89

4. 年齢別利用人数（毎月の月末）

	65～75歳	75～85歳	85歳～	合計	平均年齢
R5. 4月	1	2	6	9	87.3
5月	1	2	6	9	87.4
6月	1	3	5	9	85.6
7月	1	3	5	9	86.3
8月	1	2	6	9	86.4
9月	1	2	6	9	86.6
10月	1	2	6	9	86.7
11月	1	2	6	9	86.8
12月	1	2	6	9	87.0
R6. 1月	1	2	6	9	87.0
2月	2	2	5	9	84.0
3月	2	2	5	9	84.1

最高年齢 93歳 最低年齢 69歳 平均年齢 86.2歳

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	令和5年度 福島県認知症介護実践者研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険の現状と指定基準</li> <li>・労働基準法に基づいた介護従事者の労務管理</li> <li>・地域密着型サービスにおける人材育成</li> <li>・権利擁護と地域密着型サービスの役割</li> </ul>	介護員兼計画作成担当者	國分幸夫	R5. 7. 5 ~7. 6 R5. 7. 21 ~7. 22 R5. 8. 23	一般社団法人福島県認知症介護指導者連絡会 GHのぞみ (オンライン研修)
2	BCPセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B C P 作成方法</li> </ul>	管理者	渡部美穂子	R5. 8. 9	厚生労働省 介護センター (オンライン研修)
3	令和5年度苦情受付担当者研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情解決制度の仕組みと意義</li> <li>・福祉サービスの質の向上と権利擁護</li> <li>・事例から学ぶ苦情解決</li> </ul>	介護員兼計画作成担当者	國分幸夫	R5. 9. 28	福島県運営適正委員会 郡山ユラックス熱海
4	令和5年度後期甲種防火管理新規講習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火管理の意義と制度</li> <li>・防火管理の進め方と消防計画</li> <li>・火器管理</li> <li>・危険物安全管理</li> <li>・施設設備の維持管理</li> <li>・自衛消防</li> </ul>	管理者	渡部美穂子	R5. 10. 23 ~10. 24	喜多方地方広域市町村圏消防本部

令和5年度

西会津町こゆりこども園事業報告

## 1. 基本方針の評価

養護と教育を一体的に行い、安心できる環境の中で子どもたちが生きる力の基礎を培うことを目標として保育を行ってきた。

祖父母と同居の家庭も世帯で就労や核家族化などによる延長保育、または未就園児の一時預かり保育と地域のニーズに応えた保育を行い、保護者が安心して子どもを預けられるような運営を心がけてきた。

## 2. 重点目標

### (1) SDGsを取り入れた保育

SDGsの「できることをやる」を子どもでも達成できる目標として「5. ジェンダー平等を実現しよう。」を選び、男児は青色で女児はピンク色など色分けで性別の区分けをしないなど、固定概念を持たないような保育を実践した。

### (2) 小学校との連携

幼児教育と小学校教育の育ち・学びをつなぐ「幼保小架け橋プログラム」でミネラル野菜作りを小学1年生と合同で行った。小学生や小学校教諭との交流が生まれたり、野菜作りを通して自然への興味・関心へとつながった。(※「架け橋プログラム」とは、幼児期の教育への円滑な接続を図るためのものである。)

また、幼児教育・保育アドバイザーが仲立ちとなり小学校との交流連携を強化することができ、授業見学、生活科体験・体験入学など小学生との交流が持てた。

### (3) 保護者との連携

コドモンを活用しながら、連絡帳・おたよりなどで園での様子を伝え、活動の配信をした。また、子どもの普段の様子を写真やコメントで記録したものを園内に掲示して保育の見える化に努め、園と保護者が子どもの育ちを共有して信頼関係が築かれることを心がけた。

コロナの感染症分類も5類となり、保護者会の積極的な協力を得て行事を運営することができた。

### (4) 職員の健康管理

法人の事業計画に基づき西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用しての体調管理や職員一人ひとりが健康目標を掲げ実行することにより、健康管理に対する意識を高めることができた。

### (5) 地域社会との交流

町の敬老会参加やリオンドール、食生活改善推進委員、ミネラル野菜普及会、コメ生産者、りんたろうみそなど地元の方々の協力による、食育体験に年長児が参加し少しずつ交流する

場が増えてきた。しかし、地域の方々との交流やボランティアの受け入れ等は感染予防の観点から積極的に受け入れることはできなかった。

#### (6) 職員の研修

保育士としてのスキルアップ、更には保育の充実を図るため各種外部研修には積極的に参加した。また保育力・保育の質の向上を目的として「園内研修」を実施したことにより職員間のコミュニケーションを活発にし、知識や情報の共有につなぐことができた。

### 3. 教育・保育目標

「保育所保育指針」に基づき、園全体の保育目標と年齢ごとの保育目標を照らし合わせて月のカリキュラムを作成し、より良い保育が行えるように心がけてきた。

### 4. 教育・保育内容

西会津町こゆりこども園が目指す保育内容として、全職員が資質・能力の3本柱を基本とし、年間のカリキュラムを作成し、さらに月のカリキュラムに反映させている。

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	リトミック春季特別講習会	リトミックとは何か。 リズム打ちをする。 保育ですぐに使えるリトミック。	保育士	佐藤沙羅	R5. 4. 30	リトミック研究センター ミュージカルがくと館
2	アンガーマネジメント研修	○アンガーマネジメントの基礎知識 ○怒りを上手にコントロールする ○相手の心情理解と対処法 講師：NPO法人 リバティーONE 坂本美奈子氏	保育係長 保育士	須藤博子 五十嵐美穂	R5. 5. 25	福島県社会福祉協議会 こども園（オンライン）
3	福祉職員キャリアパス対応 生涯研修課程 中堅研修	○キャリアデザインと自己管理 ○福祉サービスの基本理念・倫理の理解を深める ○フォロワーシップの醸成 ○チームケアと問題解決—遭遇要因分析 ○啓発科目の講義・演習 ○行動指針マップの策定 ○キャリアデザインとアクションプランの策定	保育士	佐藤沙羅	R5. 6. 29～ 6. 30	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
4	作って遊べるおもちゃ！	○作って遊べるおもちゃ！ ○この形にピンときたら ○「めざす造形」と「さぐる造形」 講師：会津大学短期大学部 葉山亮三氏	保育士 保育士	五十嵐唯 渡部穂乃香	R5. 6. 17	福島県保育協議会会津支部 こども園（オンライン）
5	福島県保育協議会会津支部 研修会	子どもが主体の乳児保育を考える 講師：小倉北ふれあい保育所 酒井初恵氏	保育士 保育士	橋本まどか 五十嵐美穂	R5. 6. 22	福島県保育協議会会津支部 こども園（オンライン）
6	第1回会津若松市保育士会研 修会	○気になる子への関わり方 ～保護者対応と保育士メンタルケア～ 講師：あいづ心理臨床センターCodyu 安部郁子氏	保育士 保育士	長谷川紀子 薄上マリン	R5. 7. 8	会津若松市保育士会 こども園（オンライン）
7	リスクマネジメント研修	～「知らなかった」「そんなつもりじゃなかった」をなくす パワハラ対策～ 講師：キャリアフォーカス 棚多里美氏	保育士	五十嵐津奈子	R5. 7. 13	福島県社会福祉協議会 こども園（オンライン）
8	幼児教育実践研修会	○幼児期の遊びと環境構成 ○子どもの虐待予防と児童相談所の役割 ○幼児期の遊びを小学校につなぐ ○学びをつなぐ幼保小架け橋期のカリキュラム	保育士	伊藤洋子	R5. 7. 27	福島県教育委員会 湯川村公民館
9	福島県保育所等安全対策推 進研修	○事故及び発生時の対応 ○事故再発防止 ○安全確保事故防止（園外活動） ○安全確保事故防止（バス送迎等） ○虐待・不適切な保育 ○安全計画 ○新型コロナウイルスを含む感染症対策 ○心肺蘇生法	保育士 保育士 保育士 保育士	石川育子 五十嵐美穂 長谷川紀子 三留望	R5. 7. 18～ 8. 21 R5. 9. 1～ 9. 29	福島県保育所等安全対策推進 研修 事務局 こども園（オンライン）
10	地域包括センターあいづ特 別支援教育研修会	発達に特性のある子への支援のあり方～自己肯定感や自尊心を育むSSTで子供が変わる～ 講師：発達支援室 ひだまり 齋藤忍氏	保育士	伊藤麻衣子	R5. 8. 8	福島県会津支援学校 福島県会津支援学校

11	配慮が必要な幼児・児童の支援の在り方を考える研修	○子どもの特性理解を積極的に想定するために ○早期発見、早期支援が大事と言われているが、何を発見し、支援するのか ○特性仮説構築のための基本特性 ○適切な指導及び必要な支援 ○特性の想定 ○自己肯定感について ○褒めるためのポイント	保育士	橋本まどか	R5. 8. 31 R5. 9. 22	福島学院大学 福島学院大学
12	保育指導管理者研修	「適切な保育を続けていくために」 ○不適切保育が生じる要因と関係性 ○そうなる前の小さな報告から見つけるポイントヒヤリハットの活用等 ○適切な保育を続けていくために 講師：(株)こども保育環境研究所 斎木里奈氏	保育副係長	渡部千佳子	R5. 9. 12	福島県社会福祉協議会 こども園（オンライン）
13	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員研修	○キャリアデザインと環境整備 ○福祉サービスの基本理念・倫理を推進する ○組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成 ○人材アセスメント ○啓発科目の講義・演習 ○行動指針マップの策定 ○キャリアデザインとアクションプランの策定 講師：エイデル研究所 田中幹也氏	保育係長	須藤博子 五十嵐美穂	R5. 10. 12 ～10. 13	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
14	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 リームリーダー研修	1日目 講師：村島克典氏 ○キャリアデザインと自己管理 ○福祉サービスの基本理念・倫理を推進する ○フォロワーシップの醸成 ○OJTの効果的推進 ○意図的・計画的職員指導・育成の展開 2日目 講師：八巻正男氏 ○業務課題の解決と実践研究 ○チームアプローチと多職種連携・地域協働 ○組織運営管理	保育士	三留望	R5. 11. 9～ 11. 10	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
15	第2回会津若松市保育士会研修会	愛着障害と発達障害の理解と支援 講師：和歌山大学教育学部 米澤好史氏	保育士 保育士 保育士	長谷川紀子 五十嵐美穂 田崎須美	R5. 11. 11	会津若松市保育士会 こども園（オンライン）
16	保育士等キャリアアップ研修 幼児教育	29日 講師：桜の聖母大学 庄子佳吾氏 「幼児教育の意義」「幼児教育の環境」「幼児の発達に応じた保育内容」 30日 講師：郡山女子大学短期大学部 安部高太郎氏 「幼児の発達に応じた保育内容」「幼児教育の指導計画、記録及び評価」「小学校との連携」	保育士 保育士	五十嵐津奈子 塚原由紀	R5. 9. 29～ 9. 30	福島県 郡山市労働福祉会館
17	保育士等キャリアアップ研修 マネジメント	「マネジメントの理解」「リーダーシップ」「人材育成」「組織目標の設定」「働きやすい環境づくり」	保育士	伊藤洋子	R5. 10. 14 ～10. 15	福島県 郡山市労働福祉会館
18	保育士等キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	「栄養に関する基礎知識」「食育計画の作成と活用」「保育所における食事の提供ガイドライン」「アレルギー疾患と保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「食物アレルギーのある子どもへの対応」	保育士	三留望	R5. 10. 22 ～10. 23	福島県 郡山市労働福祉会館

19	保育士等キャリアアップ研修 障害児保育	「障害の理解」「障害児の発達の援助①②」「障害児保育の指導計画・記録及び評価」 講師：仙台白百合女子大学 三浦主博氏 「障害児の発達の援助③」「障害児保育の環境①②」「家庭及び関係機関との連携」 講師：郡山女子大学 小林徹氏	保育係長	須藤博子	R5. 10. 20 ～10. 21	福島県 とうほうみんなの文化センター
20	保育士等キャリアアップ研修 保健衛生・安全対策	1日目 講師：星総合病院 佐久間弘子氏 「保育所における感染症対策」「小児の感染症とワクチン」 「子どもの事故について」「子どもの事故：事故発生時・救急疾患への対応」 2日目 講師：桜の聖母短期大学 山下敦子氏 「保育所における感染症対策ガイドライン」「保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン」「応急処置および救命蘇生法」「保育計画の作成と活用」「からだの権利教育」	保育副係長	渡部千佳子	R5. 11. 16 ～11. 17	福島県 福島県青少年会館
21	保育士等キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	○保護者支援・子育て支援の意義 ○関係機関との連携、地域資源の活用 ○地域における子育て支援 ○虐待予防 ○保護者に対する相談援助	保育士	石川育子	R6. 2. 20～ 2. 27	福島県 こども園（オンライン）
22	保育士等キャリアアップ研修 幼児教育	「幼児の発達に応じた保育内容①②」「諸学校教育との接続①②」「幼児教育の環境①②」「幼児教育の指導計画、記録及び評価①②」 講師：郡山女子大学短期大学部 安部高太郎先生	保育係長 保育副係長	須藤博子 渡部千佳子	R6. 1. 5～ 1. 26	福島県 こども園（オンライン）
23	保育士等キャリアアップ研修 マネジメント	「マネジメントの理解」「リーダーシップ」「リーダーシップ」「人材育成」「組織目標の設定」 講師：東海大学 綿引清勝氏 「働きやすい環境づくり」講師：福島大学 齋藤美智子氏	保育士	長谷川紀子	R6. 1. 16、 1. 30	福島県 こども園（オンライン）
24	保育士等キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	「栄養に関する基礎知識」「食育計画の作成と活用」「保育所における食事の提供ガイドライン」「アレルギー疾患と保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」	保育士 保育士	五十嵐津奈子 塚原由紀	R6. 1. 17～ 2. 17	福島県 こども園（オンライン）
25	第3回会津若松市保育士会研修会	未就学児施設における深刻な事故と事態の予防：新年度を前に 講師：心理学博士 掛札逸美氏	保育士 保育士	五十嵐唯 佐藤沙羅	R6. 2. 10	会津若松市保育士会 こども園（オンライン）

2. 施設内研修状況

	研修内容	発表者	参加職種	参加人数	開催日
1	「コミュニケーション」「保育指針」について	須藤博子	保育士	16名	R5. 4. 26
2	プール遊び・水遊び中の事故防止について	伊藤麻衣子	保育士	17名	R5. 6. 12
3	熱中症・脱水症について	橋本まどか	保育士	18名	R5. 7. 25
4	感染症について	田部みさき	保育士	13名	R5. 10. 18
5	巧技台の使い方・柔軟体操と体幹について	三留望	保育士	12名	R5. 11. 17
6	1年間の反省・振り返り	石川育子	保育士	13名	R6. 3. 25



(別紙1)

令和5年度 月別保育児童数

(基準日 毎月末日現在) (単位 人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
116	116	117	117	117	118	119	118	116	116	115	116
(41)	(42)	(53)	(54)	(52)	(65)	(64)	(35)	(48)	(41)	(40)	(42)

( )は、延長保育人数

【内訳】 ※令和6年3月31日現在

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男児	3	9	9	11	6	15	53
女児	4	10	7	12	16	14	63
合計	7	19	16	23	22	29	116

令和5年度 月別保育業務内容

(別紙2)

西会津町こゆりこども園

月 日	保 育 業 務 内 容	月 日	保 育 業 務 内 容
4月 4日	入園式	15日	身体計測
13日	身体計測	16日	誕生会
14日	新入児歓迎会	19日	サッカー教室(5歳児)
19日	健康診断(4、5歳児)	20日	お話の会(4歳児)
20日	健康診断(0～3歳児)	30日	避難訓練
21日	誕生会	7月 3日～10日	個別懇談
26日	避難訓練	11日	お話の会(3歳児)
27日	歯科検診(0～5歳児)	12日	英語教室(5歳児)
5月 1日	こいのぼり集会	13日	運動教室(4歳児)
9日	交通安全教室(3～5歳児)	14日	音楽教室(3歳児)、身体計測
10日	英語教室(5歳児)	18日	お話の会(2歳児)
11日	野外保育	22日	夕涼み会
12日	体位計測	24日	健康教室
16日	食育体験	25日	食育体験
19日	誕生会	28日	総合訓練
25日	野外保育	8月 1日	すいかわり
26日	引き渡し訓練	2日	ダンス教室(5歳児)
27日	保育参観	4日	音楽教室(3歳児)
6月 1日	運動教室(4歳児)	7日	音楽鑑賞会、身体計測
2日	音楽教室	8日	学校探検(5歳児)
6日	お話の会(5歳児)	9日	英語教室(4歳児)
7日	ダンス教室	10日	英語教室(4歳児)
13日	プール開き	23日	誕生会
14日	英語教室(4歳児)	29日	お話の会(5歳児)

月 日	保 育 業 務 内 容	月 日	
31日	避難訓練	2日	運動教室（4歳児）
9月 2日～ 3日	敬老会	7日	食育体験
5日	お話の会（4歳児）	8日	英語教室（4歳児）
6日	ダンス教室（5歳児）	9日	総合訓練
7日	運動教室（4歳児）	10日	遠足、音楽教室（3歳児）
8日	音楽教室（3歳児）	17日	誕生会
12日	運動会予行練習	20日	発表会予行練習（2、3歳児）
14日	体位計測	25日	発表会（2、3歳児）
16日	運動会	29日	発表会予行練習（4、5歳児）
21日	誕生会	30日	避難訓練
26日	お話の会（3歳児）	12月 2日	発表会（4、5歳児）
29日	避難訓練	5日	お話の会（5歳児）
10月 3日	野外保育	6日	ダンス教室（5歳児）
4日	ダンス教室（5歳児）	7日	観劇会（2～5歳児）
5日	運動教室（4歳児）	8日	音楽教室（3歳児）
10日	野外保育	11日～12日	個別懇談（5歳児）
11日	英語教室（5歳児）	13日	英語教室（5歳児）
12日	歯科検診（0～5歳児）	14日	身体計測
13日	音楽教室（3歳児）、身体計測	19日	お話の会（4歳児）
18日	健康診断（3、4歳児）	22日	クリスマス誕生会
19日	健康診断（0～2歳児）、マラソンごっこ	25日	避難訓練
20日	誕生会	1月 5日	音楽教室（3歳児）
24日	野外保育	10日	ダンス教室（5歳児）
25日	祖父母交流会	11日	運動教室（4歳児）
31日	避難訓練、非常食体験	12日	だんごさし
11月 1日	ダンス教室（5歳児）	15日	身体計測

月 日	保 育 業 務 内 容
16日	お話の会 (3歳児)
19日	誕生会
23日	お話の会 (2歳児)
31日	避難訓練
2月 2日	豆まき
5日～ 9日	個別懇談 (0～4歳児)
7日	ダンス教室 (5歳児)
8日	運動教室 (4歳児)
9日	音楽教室 (3歳児)
14日	入園説明会
15日	身体計測
19日	お店やさんごっこ
20日	お話の会 (1歳児)
21日	食育体験
22日	誕生会
28日	英語教室 (5歳児)
29日	避難訓練
3月 1日	ひなまつり誕生会
6日	ダンス教室 (5歳児)
7日	運動教室 (4歳児)
8日	音楽教室 (3歳児)
12日	お別れ会、お話の会 (0歳児)
14日	身体計測
19日	卒園式予行練習
21日	避難訓練
25日	卒園式

(別紙3)

令和5年度 子育て支援事業報告

西会津町こゆりこども園

【子育てサークル】

開所日時:毎週水曜日 10:00~12:00

開所場所:こゆりこども園内 子育て支援室

(利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用延べ人数(組)	12	19	19	17	15	23	6	11	10	13	10	17	172

【健診サポート】

(赤ちゃん栄養教室)

(1歳6ヶ月・3歳健診)

月 日	開催場所	担当者
4月5日	こゆりこども園 子育て支援室	鈴木房
5月27日		
8月8日		
12月26日		
2月27日		

月 日	開催場所	担当者
5月18日	こゆりこども園 子育て支援室	鈴木房
7月6日		
9月28日		
11月16日		
1月18日		
3月21日		

【放課後児童健全育成事業(ひだまり子どもクラブ)】

開所場所:西会津小学校内 みんなの広場

(開所日数・利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	21	21	23	21	22	21	22	21	21	20	20	21	254
利用延べ人数	573	608	705	623	498	531	585	467	407	430	466	431	6,324

(特別活動内容)

月 日	内 容	参加人数
8月1日	食のイメージアップ講演会	32
8月17日	サイエンスカフェ 1日目	17
8月18日	サイエンスカフェ 2日目	25
2月14日	「豚玉お好み焼き」おやつ作り	31

【一時保育】

実施場所:こゆりこども園

利用期間	延べ人数	満年齢	理由
4月13日～4月28日	5	1	仕事の為・通院の為・引越しの為
5月11日～5月22日	3	1	通院の為・リフレッシュの為
6月8日～6月30日	8	1	仕事の為・通院の為・リフレッシュの為
7月3日～7月31日	9	1	通院の為・リフレッシュの為
8月7日～8月31日	17	1	就職活動の為・通院の為・リフレッシュの為・健診の為
9月1日～9月29日	14	1	就職活動の為・通院の為・リフレッシュの為・出産の為・1ヶ月健診のため
10月2日～10月20日	13	1	葬儀出席の為・通院の為・体調不良の為
11月1日～11月9日	5	1	通院の為・リフレッシュの為・仕事の為
12月6日～12月12日	3	1	リフレッシュの為・仕事の為
1月10日～1月31日	7	1	仕事の為・検診の為
2月1日～2月29日	9	1	仕事の為・用足しの為・通院、出産の為
3月5日～3月28日	11	1	仕事の為・通院の為・卒業式の為

令和5年度 苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町こゆりこども園

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	0	0	0	1

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	1	0	0	0	0	0	1
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	0	0	1

令和5年度

西会津町小規模多機能型居宅介護施設 高陽の里 事業報告

## 1. 基本方針の評価

利用者が住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、通いを中心に泊り、訪問の一体的な形態でサービス提供し日々の暮らしの支援を行ってきた。昨年度と比べると、月末在籍者数は1割強の増加で経過した。

メイン事業である通いでは、季節の移ろいを感じて頂けるようにお花見や大山まつりに外出したり、奥川地区で開催されたイベントにも参加し地区の方々等と交流できた。特に「第38回西会津の文化と産業祭」西会津ふるさとまつりでは「健康福祉まつり部門」で利用者・職員でアイデアを出し合い協力して作成した作品「七福神」が大賞を受賞し、今後のレクリエーション活動において具体的な動機付けにつながった。

## 2. 重点目標

### (1) 利用者の生活の豊かさの実現

通いでは、他者との交流や入浴を目的での利用者が多いが、レクリエーション活動の充実についても力を入れ楽しく1日を過ごしていただけるようにした。体調変化や家族の都合で急遽サービス利用の依頼がきた際も可能なかぎり訪問や泊りにつなげられるよう調整した。

訪問サービスは、体調確認や灯油補充、寒暖に応じた暮らしぶりの確認が主であるが遠方に住む家族から「心配なので見てきてほしい」との依頼で、サービス計画外訪問ではあるが実際に伺い安否確認をし、家族に安心していただくこともあった。

医療面では、利用中の様子や体調に変化が見られた際には医療機関へ情報提供し必要に応じて受診援助等で対応する事により早期治療につなげる事ができた。看取りを行った利用者は年間で2名おり、家族、主治医と連携し臨機応変に自宅と施設を交互に行き来しながら家族の負担を軽減しつつ終末期を支える事ができた。

### (2) 地域への貢献活動

親睦会事業として地区内のゴミ拾い活動を年2回実施した。玄関前にプランターを設置し花を植え、施設周辺の除草を行い、地域密着型施設として地域の美化推進を心がけた。

運営推進会議委員からの案内やケーブルテレビで発信される地区行事の情報により、奥川分館主催の公民館出前講座で行われた「和太鼓演奏会」に参加し、利用者が太鼓の体験に挑戦し楽しまれた。他には、中町自治区の県サポート事業で行われた「やごうワークショップ」では、関東の大学生と交流し地区内に作成した作品を観てまわる事で、要介護状態により他者との交流が難しい利用者から「とても良い体験ができた」との声もいただくことができた。



(3) 健康・健全経営への取り組み

年度当初に月間計画していた施設内研修会は、日々の業務に追われ、計画していた内容の半分程度しか実施できなかった。

施設外研修では、現在の職位課程のキャリアパス研修会を受講しアクションプランを立てることにより、求められる役割の確認とモチベーションの向上につながった。

パソコンを有効活用し、配布された資料等のPDF化やエクセルを活用した書類作成を行ったことで、事務処理面で時間短縮になり職員の負担軽減となった。

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	令和5年度社会福祉施設看護等職員研修	<p>講義1 感染症全般の予防策・対応策について ・新型コロナ、ノロウイルス、インフルエンザ等の消毒範囲は？ ・嘔吐物等の処理の仕方</p> <p>講義2 最新の感染症の情報 ～今後の新興再興感染症との付き合い方～ ・国からのガイドライン ・AMR対策・感染対策での自治体の取り組み ・標準予防策（考え方）</p>	看護副係長	佐藤かつ子	R5.9.13	福島県社会福祉協議会 (オンライン研修)
2	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	<p>福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理の基礎を理解する 組織の一員としてのフォロワーシップの醸成 対人関係マナーとコミュニケーション 講師 社会福祉法人福島県社会福祉事業団 事業管理部長 安部 文枝 氏</p> <p>啓発科目の講義と演習 理解促進シート相互紹介 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 特別養護老人ホーム寿限無 施設長 石綿 聡 氏</p>	介護員	佐久間愛	R5.9.28～ 9.29	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
3	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理者研修	<p>【基軸科目の講義と演習】 管理職員としてのキャリアデザインと環境整備</p> <p>【基礎科目の講義と演習】 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する 組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成</p> <p>【重点科目の講義と演習】 人材アセスメント</p> <p>【啓発科目の講義と演習】 【行動指針の策定】 【キャリアデザインとアクションプランの策定】 講師 株式会社エイデル研究所 経営支援部 主幹/社会保険労務士 田中 幹也 氏</p>	管理者兼介護員	鈴木芳夫	R5.10.12 ～10.13	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
4	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修	<p>チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する チームリーダーとしてのフォローシップの醸成 チームリーダーとしての能力開発とOJTの推進 意図的・計画的職員指導・育成の展開 講師 金山町社会福祉協議会 事務局長 加藤 ゆき 氏</p> <p>啓発科目の講義と演習 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 社会福祉法人つばさ福祉会 理事長 古川 彰彦 氏</p>	介護支援専門員 兼介護員	岩原祐美	R5. 11. 16 ～11. 17	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター
5	介護支援専門員 専門研修Ⅱ (更新者)	<p>①1認知症に関する事例 2家族への支援の視点が必要な事例 3リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例 4入退院等における医療との連携に関する事例</p> <p>②1看取り等における看護サービスの活用に関する事例 2社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例 3状態に応じた多様なサービス活用に関する事例 4研修全体の振り返りと意見交換</p>	介護支援専門員 兼介護員	岩原祐美	R5. 12. 12 ～12. 13	介護支援専門員協会 (オンライン研修)

令和5年度 要介護度別実人数

	要支援2		要支援1		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	2	0	1	5	3	4	1	4	0	2	0	0	7	15	22
5月	0	0	2	0	2	5	3	4	1	4	0	1	0	0	8	14	22
6月	0	0	2	0	2	5	3	4	1	4	0	1	0	0	8	14	22
7月	0	0	2	0	2	5	3	2	1	4	0	2	0	0	8	13	21
8月	0	0	2	0	1	5	4	3	0	4	0	2	1	0	8	14	22
9月	0	0	2	0	1	5	4	3	0	4	0	2	1	0	8	14	22
10月	0	0	2	0	1	5	3	3	0	4	0	2	1	0	8	14	22
11月	0	0	1	0	1	7	2	2	0	4	0	2	1	0	7	14	21
12月	0	0	1	0	2	6	1	2	0	4	0	2	1	0	5	15	20
1月	0	0	1	0	3	6	1	3	0	3	0	1	1	0	5	13	18
2月	0	0	1	0	3	7	0	3	1	2	0	2	1	0	6	13	19
3月	0	0	1	0	2	8	2	3	1	1	0	1	1	0	7	13	20

令和5年度 要介護度別延べ人数

	要支援2		要支援1		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	7	0	0	24	58	26	13	61	0	41	0	0	78	152	230
5月	0	0	7	0	6	29	57	26	12	64	0	17	0	0	82	136	218
6月	0	0	9	0	18	39	64	31	14	66	0	22	0	0	105	158	263
7月	0	0	9	0	16	30	62	28	13	65	0	21	0	0	100	144	244
8月	0	0	14	0	17	35	60	28	17	41	0	29	0	0	108	133	241
9月	0	0	14	0	29	28	53	38	17	54	0	31	0	0	113	151	264
10月	0	0	15	0	20	27	29	35	16	46	0	27	0	0	80	135	215
11月	0	0	6	0	25	40	31	22	0	53	0	29	17	0	79	144	223
12月	0	0	9	0	19	71	30	13	0	54	0	29	16	0	74	167	241
1月	0	0	9	0	19	71	30	13	0	54	0	29	16	0	74	167	241
2月	0	0	8	0	26	71	20	42	24	29	0	18	21	0	99	160	259
3月	0	0	9	0	18	69	16	47	21	29	0	19	18	0	82	164	246
合計	0	0	116	0	213	534	510	349	147	616	0	312	88	0	1,074	1,811	2,885

令和5年度 年齢別利用人数

						(月末現在)	
	65~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	計	平均年齢
4月	1	4	6	7	4	22	87.60
5月	1	4	7	6	4	22	88.00
6月	1	4	7	6	4	22	88.00
7月	1	3	8	6	3	21	86.40
8月	1	4	8	6	3	22	85.80
9月	1	4	8	6	3	22	84.70
10月	1	4	8	5	3	21	84.70
11月	1	4	8	6	1	20	85.60
12月	1	4	6	6	1	18	86.30
1月	2	4	5	7	1	19	87.00
2月	2	4	6	7	1	20	86.90
3月	2	3	8	7	1	21	87.50

令和5年度 苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町小規模多機能型居宅介護施設 高陽の里

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨						合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0
	家族	1	0	1	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	1	0	0	0	2

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	1	0	0	0	0	0	1
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	1	0	0	0	0	0	1
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	0	0	0	0	2

令和5年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」事業報告

## 1. 基本方針の評価

運営規程及び平成27年1月に、西会津町とにしあいつ福祉会が協働し共同公表した介護老人保健施設「憩の森」基本方針およびにしあいつ福祉会事業計画基本方針に基づき、以下の重点目標を掲げ事業を展開した。具体的な報告は、別紙の「実施報告」のとおりである。

新型コロナウイルス感染症予防対策の下、サービス提供を行っていたところであったが、令和5年10月に施設内で新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し結果的に入所者と職員を合わせて17名が罹患した。施設内の感染拡大予防対策や会津保健福祉事務所、西会津診療所、各関係機関からの指導や支援もあり、令和5年11月に終息に至った。今回の感染事故の経験を基に、施設内において感染対策の見直しを行い改善に繋げた。

また、外部コンサルタントによる介護3.0実践研修については、各プロジェクトが本格的に動き出し、意識改革や技術向上の取り組みを行ってきたところである。

## 2. 重点目標

### (1) 健康経営・健全経営への取り組み

にしあいつ福祉会事業計画基本方針「1) 健康経営・健全経営」に基づき、職員が健康で長く働けることが施設の成長と活性化につながることを踏まえ、SDGsにおける「3 健康と福祉」、「8 労働と経済成長」の分野に取り組んできた。

健康経営への主な取り組みとしては、全ての係・部門にて西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用した健康づくりの啓発を行い、令和6年3月には92%の職員が手帳を活用するに至った。さらに、各係・部門において1日2回のラジオ体操の実施、腰痛予防のためのストレッチ体操の導入、「運動だより」の配布による啓蒙活動も実施した。職員への新型コロナウイルス感染症予防対策においても、感染予防ワクチンの接種を実施していくと共に、定期および臨時の就業前抗原検査に取り組んだ。また、ワークライフバランスに配慮した休暇取得の促進においては、新たに創設された産後パパ育休制度を利用して該当職員が休暇を取得出来るように支援すると共に、休暇取得計画表を活用し、計画的な取得を推進した。

健全経営の取り組みとしては、介護報酬改定等の情報や労務に関わる法令や制度改正等の把握を行い、各係・部門との共有を進めた。介護報酬の適正な運用を在宅復帰・在宅療養支援等指標においては、新型コロナウイルス感染症によるクラスターの影響もあったが、在宅復帰率73.3%、ベッド回転率7.3%、重度者割合（要介護4・5の割合）56.1%で経過し、加算型介護報酬の取得体制を維持できた。また、科学的介護推進体制加算等（LIFE加算）の各種加算報酬の取得体制も継続するに至っている。

## (2) 職員の接遇と専門性の向上

にしあいづ福祉事業計画基本方針「3) 笑顔と質の高いサービス」に基づき、SDGsにおける「4 教育」、「9 産業と技術」、「10 人権」、「12 責任」を意識し、職員の接遇と専門性の向上に取り組んできた。

接遇向上における取り組みとしては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、苦情解決第三者委員会ヒヤリング評価は未実施となったが、「若松人権擁護委員協議会」から頂いた権利擁護に関するパンフレットを配布して接遇啓発を行い、接遇チェックシート等を用いた点検や研修も実施してきた。

専門性向上の取り組みとしては、キャリアパスに則った職員教育を実施していくと共に、介護3.0理論によるプロジェクトチーム（排泄、入浴、食事、接遇）を多職種協働で立ち上げ個別ケアを推進した。さらに、自己啓発支援制度（SDS）による研修も実施してきた。また、看取りケアについては、新型コロナウイルス感染症予防対策下であったが、看取りケアを11件実施することができた。加えて、施設で最期を迎える利用者とその家族が安心して過ごすことができるように、新たに看取りパンフレットを作成した。次年度には本格的に活用していく。

## (3) 地域に信頼される施設づくり

にしあいづ福祉事業計画基本方針「2) 清潔で安心・安全な施設」に基づき、SDGsにおける「8 労働と経済成長」、「11 環境」を意識し、利用したい働きたい地域に信頼される施設づくりに取り組む在宅生活・在宅療養の支援と連携強化を行ってきた。

在宅復帰・在宅療養への支援の取り組みとしては、タブレット等のデジタル機器を積極的に活用することで、生活環境や身体状況等を多職種で共有し、在宅生活に即した目標設定やマネジメントが実施できる体制を強化した。在宅での生活が安心して過ごせるように家族指導を行い、服薬方法等の在宅療養上の留意点を共有できる体制も整備してきた。

新型コロナウイルス感染症対策の取り組みとしては、感染症蔓延防止のため、ベッド周り・床頭台・ポータブルトイレ・リハビリ機器等を適宜アルコール消毒し、清潔な環境整備を整えた。尚、リハビリ機器は入所とデイケアそれぞれ共通する物品を使用するため、入所・デイケアで使用物品を分ける等の工夫を行った。一方では新型コロナウイルス感染症が5類感染症相当になったことで、季節行事や外出する機会を設け、花見や大山参拝等の外出支援を実施した。加えて、施設内においても季節感を感じて頂くために、四季にあわせた装飾も行ってきた。しかし、令和5年10月～11月に施設内クラスターが発生し、担当医と各係・部門が連携し対応に尽力したが、終息まで約1ヶ月間を要し入所者、家族、関係機関等に多大な心配とご迷惑をおかけしてしまった。終息後には職員で振り返りを行い感染対策の改善に繋がった。清潔で安心で安全な環境づくりの取り組みとしては、3S（整理・整頓・清掃）を実践し、適宜アルコール消毒や掃除を実施した。事故予防対策としては、利用者の身体機能に合わせて適宜、車椅子のブレーキやキャスターの調整、座面等の点検を実施した。また、栄養係においては、環境微生物検査の結果をもとに、清掃方法の見直しや点検を行ったことで、衛生管理が不十分だった箇所が改善される成果を出せた。



(1)健康経営・健全経営への取り組み

職種・係	実行計画内容
相談	<p>①個々で健康目標を設定し健康作りに取り組むことで、病欠等により相談体制が休止しない体制を目指す。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・健全経営への取り組みとして、毎日の血圧や体温測定と適度な運動の機会や食事内容に留意した生活に心がけ、病欠等による相談機能が途切れないような体制を維持することができた。</p> <p>②在宅復帰・在宅療養支援等指標における加算型の運用を継続する。また、部門内で定期的に会議を設け、入退所の管理やマネジメント方針について協議していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・在宅復帰・在宅療養支援等指標は、在宅復帰率 73.3%(内訳：在宅 25 名, 永眠 14 名, その他 3 名, 延べ 41 名)、ベッド回転率 7.3%、重度者割合(要介護 4・5 の割合)56.1%となり、加算型の体制を維持している。相談係内で、適宜入退所管理や待機者の状況、マネジメント目標を共有する機会を設けながら連携・調整した。</p>
医療・看護	<p>①職員が健康で長く働き続けられるために、1日1回はラジオ体操に参加し、運動の習慣化に取り組んでいく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・職員同士声掛けしながらラジオ体操に取り組んだことで、業務内での腰痛による病欠者を予防することにつながった。</p> <p>②職員が感染症に罹患せず勤務を続けられるように、感染症予防の啓発を行い、感染予防ワクチンの接種や感染症検査を円滑実施できる体制を整備する。  <u>◇評価（具体的な実行計画内容と成果）</u>                      ・コロナワクチンを職員・利用者に対し、接種を実施した。毎月 1～2 回定期就業前抗原検査で年間 4 件の陽性者を早期に発見し、施設内への持ち込みを未然に防ぐことができた。</p> <p>③医療対応が受けられる施設として入所者・家族が安心して利用できるように、体調変化や重症化予防への医療提供体制を継続していくことで健全経営に取り組む。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・異常の早期発見により施設で適切な医療処置が行えたことで、出来る限り町外の医療機関へ入院せずとも施設で対応できるような医療提供体制を継続できた。これにより、チューブ栄養が必要な利用者に対して、本人・家族と支援の方針を確認しながら、施設看取りまで対応したケースがあった。</p>

介護	<p>①1日2回(午前、午後)のラジオ体操を実施することで、心身の状態を良好に保ち、労働災害を予防していく。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日2回(朝、レク活動時)のラジオ体操を実施したことで、療養室や食堂で体操に参加する職員や利用者が増え、全体的な運動する機会を増やすことができた。</li> </ul> <p>②健全な経営を図るため、各係と連携し科学的介護推進体制加算等の取得体制を継続していく。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉見聞録の評価表や毎月のモニタリング、サービス担当者会議等で、加算に必要な情報を各係へ伝達し共有することができ科学的介護推進体制加算(LIFE加算)等の取得体制を継続できた。</li> </ul>
リハビリテーション	<p>①職員の運動啓発を図るために、ラジオ体操を実施し、職員会議時には「運動だより」を配布し運動を促していく。またスタッフの健康づくりを推進していくために、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用して体調を管理し、運動や食生活の改善への取り組みを継続していく。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ係中心で運動啓発のための朝のラジオ体操を継続したことや「運動だより」を毎月配布したことで職員の運動啓発を行い、健康管理に留意した生活作りを推進した。</li> <li>・西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用したことで、スタッフの運動機会の増加や食生活の改善への動機付けを行うことができた。</li> </ul> <p>②老健加算型介護報酬を取得し健全な経営を行っていくために、在宅復帰・在宅療養支援機能指標によるリハビリ職員配置点数と入所退所前後訪問指導割合点数を確保できる弾力的な勤務体制を整備する。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務体制を毎月の実績に応じて柔軟に調整することにより、在宅復帰・在宅療養支援機能指標によるリハビリ職員配置時間、入所退所前後訪問指導割合の点数を確保することができ、加算型報酬取得の要件を満たすことができた。</li> </ul> <p>③加算取得している科学的介護推進体制と連動していくために、リハビリ計画書等の各種書類の様式を改訂する。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的介護推進体制(LIFE)と連動していくために、リハビリ計画書の様式改定を進めたが、福祉見聞録システムが対応していなかったため運用はできなかった。次年度は、表計算ソフト等を用いて自分たちで様式改訂を進め運用していく予定である。</li> </ul>
栄養・給食	<p>①健康で働き続けるため、西会津町こゆりちゃん健康手帳を活用した健康増進に取り組む。また、長時間の立ち仕事による腰痛予防と気分のリフレッシュを図るため、ストレッチ体操の実施を継続して取り組んでいく。</p> <p>◇評価(具体的な実行内容と成果)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳は、毎月初めに係内で配布を行い活用の促進を進めた。年度初めは 13%だった参加率が 94%まで増加することができた。</li> <li>・ストレッチ体操については、内容を理学療法士からの助言を元に見直し、より取り組みやすいものを作成した。また、実施を促すポスターを作成し厨房内に掲示を行った。</li> </ul>
事務	<p>①健康診断結果を元に、職員一人ひとりが自身の健康状態を把握し、健康への関心を高められるよう、こゆりちゃん健康ポイント手帳の活用とラジオ体操の取り組みを働きかける。また、職員が健康で安全に働ける環境整備とワークライフバランスを保てるよう、労働時間、年休取得状況を把握し速やかな報告・連絡を図り法令を遵守した休暇取得を促進する。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康維持への働きかけとして、職員全体に西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳の内容を丁寧に説明し、気軽に取り組めることを理解してもらえた。参加率が年度初めでは 35%だったが、令和 6 年 3 月には 92%に達した。</li> <li>・産後パパ育休制度が創設されたことにより、制度説明や周知等雇用環境整備のサポートを行った。その結果、各係の協力もあり、男性職員 2 名が休暇取得をすることができた。</li> <li>・労働時間、年休取得状況を把握し速やかな報告・連絡を図り作成した計画表を活用することで法令を遵守した休暇取得を促した。次年度も職員が健康で安全に働ける環境整備とワークライフバランスがとれた職場環境づくりを促進していく。</li> </ul>

## (2) 職員の接遇と専門性の向上

係・部門	実行計画内容
相談	<p>①苦情解決第三者委員会へヒヤリング評価を依頼し、施設での取り組みが人権へ配慮できているか確認をしていく。内部評価においては、全職員を対象に虐待の芽チェックリスト(東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成)を年 2 回実施し、分析結果から課題解決へ介入していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情解決第三者委員会ヒヤリング評価については、新型コロナウイルス感染症対策のため実施できなかったが、権利擁護活動として、「若松人権擁護委員協議会」のパンフレットを全職員に配布・周知を行った。</li> <li>・内部評価においては、全職員を対象にした「虐待の芽チェックリスト」アンケートの分析結果を職員に伝えることで、施設全体の権利擁護意識向上につなげた。</li> </ul> <p>②「介護 3.0」理論における個別ケアの実践のため、利用者のニーズを把握し、多職種と連携して生活目標を設定していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護 3.0 実践研修におけるプロジェクトチームの一員として、定期的にモニタリング・面接を実施し、利用者ニーズを把握することで、個別ケアの実践（排泄・入浴・接遇・食事）につなげた。</li> <li>・施設で最期を迎える方とそのご家族が安心して過ごすことができるよう、看取りに関するパンフレットを作成した。</li> </ul>

<p>医療・看護</p>	<p>①看取り対応の技術向上を図るために、外部研修の看取り研修会へ参加し、係内で伝達研修を開催する。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・10月31日オンラインでの研修に参加した。相談係と連携して看取りパンフレットを完成する事ができた。次年度の業務に活かせる様に係内手順書に取り入れていく。令和5年度短期入所看取り件数3件である。</p> <p>②医療目的の入所への提供体制を充実させていくために、高圧滅菌機器等を用い、処置用具の整備・消毒・滅菌を行い、さらに清潔な医療環境を整え、在宅酸素療法や褥瘡、脱水等の治療に速やかに対応できるサービス提供体制を強化する。また、「介護3.0」理論による個別ケア体制との連携を図る。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・高圧滅菌器具を入れ替えたことにより清潔な医療環境を維持する事ができた。また、疾患により低酸素となった利用者に対し、酸素機械を使用し継続した医療が提供できた。          ・「介護3.0」理論による処置・栄養・清潔等チームで検討し合い、状態が改善していたケースが7件あった。</p> <p>③感染症に対する予防対策等を看護係から発信できるように、研修会へ参加し、常に新しい情報を収集し係内にて共有できる場を設け研鑽に努めていく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・研修会へは定員超過のため参加出来なかったが、コロナワクチンの接種方法や感染予防対策についての知識や情報を収集した。          ・末期乳癌利用者への出血・臭気・疼痛に対するアプローチである「紫雲膏・亜鉛華デンプン・メトロニタゾール療法」等の処置方法など新しい知識や技術を収集し共有した。</p>
<p>介護</p>	<p>①「介護3.0」理論に基づいた個別ケアを実践していくため、2ユニット制の導入を推進していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・「介護3.0」理論に基づいた個別ケアを実践するための2ユニット制を導入することができた。それにより、排泄・入浴プロジェクト等を立ち上げることができた。</p> <p>②接遇の向上を推進していくため、外部研修会に参加し、その内容を係内会議にて共有し実践していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・接遇向上についての外部研修会には参加出来なかったが、接遇プロジェクトを立ち上げ、メンバーを中心に目標を設定し取り組んだ。それにより、取り組んだ結果から新たな課題等を抽出し、接遇向上に活かすことができた。</p> <p>③キャリアパスに則った職員教育を実施するため、リーダーを中心に介護手順書、勤務形態別業務手順書を更新していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーを中心に介護手順書、勤務形態別業務手順書を更新できたことで理解しやすい内容となり、職員教育に活かすことができた。</li> </ul>
<p>リハビリテーション</p>	<p>①利用者への接遇の向上を図るため、接遇チェックシートを活用し、係員同士にて定期的に接遇のチェックをし合う。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・接遇チェックシートによる接遇向上の取り組みを係全体で実施することができたが、定期的な取り組みには至らなかった。</p> <p>②リハビリ技術の向上と業務に関連する資格取得を推進していくため、SDS（自己啓発支援制度）に基づく勉強会の開催や業務上の配慮を行える支援体制を整備する。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・業務上の配慮を行える支援体制を整備したことで、月1～2回、症例検討会や勉強会を実施し、資格を3件（介護予防推進リーダー、地域ケア会議推進リーダー、理学療法士実習指導者）取得できた。          ・SDS（自己啓発支援制度）に基づき、14件の職業団体主催の研修会に参加できたが、研修会で学んだ内容を基に勉強会を開催するには至らなかった。</p> <p>③医学的根拠に基づいたリハビリを実施していくため、福祉見聞録を利用して栄養状態を把握し、リハビリの介入方法・負荷量を検討する。また、医学的根拠のもと運動と栄養のエビデンスに基づいたリハビリを実施すると共に、「介護3.0」理論によるケア体制との連携を図っていく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・福祉見聞録の記録から利用者の栄養状態を把握し、医学的根拠の基、リハビリ介入時の負荷量を調整することができた。          ・「介護3.0」理論によるケア体制との連携については、入浴プロジェクトにおける個浴に関する取り組みに参画できた。</p>
<p>栄養・給食</p>	<p>①個別性のある食事ケアの実践のため、多職種と食事環境や生活の状況（精神面・活動量等）を含めた食事に関する評価・検討ができる体制を整備する。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・個別性のある食事ケア実践のため、多職種（栄養・看護・介護・リハビリ・相談）で構成した食事プロジェクトチームを立ち上げ、食事に関する評価・検討を行う体制を整備した。          ・ケアスタッフ会議内において食事プロジェクトの目的とカンファレンス内容について各係全体との共有を行い、次年度へ円滑につなげられるよう取り組んだ。</p> <p>②係全体で接遇の向上を継続的に取り組んでいくため、年間の目標を決め、厨房内に掲示を行う。また、業務開始時に目標の唱和を一人ひとりが行うことで、接遇を意識して業務に臨めるようにする。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p>

	<p>・係内で実施した接遇のアンケート結果を元に、年間目標を決定し、厨房入り口に掲示を行った。業務前の唱和までには至らなかったが、接遇に留意して業務に取り組むことができた。</p>
事務	<p>①会計業務や労務管理・制度改正など職場の現状に対する対応・対策を考え、職員全体に周知できるよう研修会に積極的に参加し、自身の知識向上に努める。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護報酬改定に伴い、福島県ホームページや動画共有サイトの解説動画を閲覧し、知識向上と事務処理円滑化に活かすと共に職員への周知を行った。</li> <li>・職責の理解ならびに人事考課に関する知識習得のためキャリアパス対応研修会へ参加した。</li> </ul> <p>②接遇マナーの基本 5 原則（挨拶、言葉遣い、表情、傾聴、身だしなみ）を踏まえ、相手に寄り添う対応を心掛け、より良いサービスを提供するスキルを身につけていく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇マナーの基本 5 原則を踏まえ、窓口対応や、電話対応の際など、傾聴と受容の姿勢を心掛け親切、丁寧に対応した。一人暮らしの方、同居されているがご家族が仕事等の都合で多忙な方など様々なケースが想定されるため、個別でのケース対応を行った。</li> </ul>

(3) 地域に信頼される施設づくり

係・部門	実行計画内容
相談	<p>①多職種での実態調査、入所前後訪問指導を実施し、在宅療養を想定したケアマネジメントを実践していく。また、療養上必要な ADL・IADL の拡大、環境設定、関係機関と協働により在宅復帰を支援する。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種での実態調査や入所前後訪問指導は、業務都合により実施できなかったが、代替としてタブレット端末を活用して住環境や身体状況を撮影し、入所検討会議・サービス担当者会議の場で多職種と共有した。</li> <li>・サービス担当者会議の結果から、退所に向けて施設内の多職種や居宅介護支援事業所等と連携しながら在宅復帰（25 名）につなげた。</li> </ul> <p>②町や診療所からの要請により、緊急入所が必要な場合の受け入れ先として対応していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的緊急入所の受け入れ先として対応していくために、要請があった場合には可能な限りベッドを調整し、受け入れることができる体制を整備した。また、町から在宅生活困難な状況になっている利用者の入所依頼が 1 件あり、調整を行い長期入所で受け入れた。</li> </ul>

医療・看護	<p>①施設内感染拡大を防ぐ施設づくりのため、施設内の感染予防対策の啓発と感染発生時の初動対応が出来る体制を整備する。また、職員と入所者における感染予防ワクチン接種や感染検査等を円滑に実施していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、職員共にコロナワクチン接種と抗原検査がスムーズにできるように係内で協力し実施した。抗原検査も月1回だけでなく、町内の感染状況に合わせて臨時で行なっていた。1年間の結果（短期含む）として、ワクチン接種は、職員73件、利用者74件、通所91件に実施した。抗原検査は、職員1258件、利用者862件、GH139件、臨時検査18件、利用者25件を実施した。</li> <li>・感染に対する研修会では看護係として、初動対応時のPPE着脱方法を指導し、職員間で再確認できた。</li> </ul> <p>②在宅復帰・在宅療養継続の支援のため、療養上の留意点を各関係機関と共有できる体制を継続すると共に、その療養上の留意点を家族が理解し実施できるような指導を実施していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅復帰・在宅療養継続支援のため、各関係機関と連携で必要な情報を共有し、家族への指導は解りやすい説明や話し方で介助方法を伝えることができた。</li> </ul>
介護	<p>①利用者に季節を感じて生活していただくため、季節ごとの行事や施設内の装飾を企画していく。また、音楽療法(インターネットの動画共有サイト)を活用し、季節感のある音楽やなじみの音楽を楽しめる環境を整備していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見、大山参拝、町のイベントへの参加、なじみの場所への訪問等を企画し実施した。また、施設内においては、見えやすい場所に四季を感じてもらえるように装飾と飾り付けを実施した。</li> <li>・音楽療法(インターネットの動画共有サイト)による回想法に取り組み、季節感があると共に利用者のリクエストを取り入れた選曲の曲を流すことで、利用者の年代に合わせたアプローチをすることができた。</li> </ul> <p>②感染症の蔓延防止のため、常に清潔な施設を保ち、3S（整理・整頓・清掃）活動の役割分担を継続していく。また、業務のしやすさや効率化が図れるよう、点検表を作成し運用できる体制を整備していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3S（整理・整頓・清掃）活動担当者がベッド周り・床頭台・ポータブルトイレ等の掃除や適宜アルコール消毒を実施したことで、清潔な環境整備を整え、感染症の蔓延防止に取り組んだ。</li> <li>・点検表については、作成することができたが、運用までには至らなかったため次年度に活用していく。</li> </ul> <p>③在宅復帰・療養支援のため、生活状況を的確に把握し、各関係機関と連携を図りながら介護サービスを展開していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで実施してきた介護方法の評価については、サービス担当者会議時に実施し、介護方法の改善を行った。その改善内</li> </ul>

	<p>容を、介護 3.0 実践研修により立ち上がった排泄や入浴ケアのプロジェクトにつなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴プロジェクトについては、中間浴を使用していた利用者の身体機能や ADL(日常生活動作)を看護係やリハビリ係と再評価したことで、入浴方法を4つのレベル(一般浴、個浴、中間浴、機械浴)に区分し、身体機能等にあった個浴入浴をすることができた。また、排泄プロジェクトについては、オムツを使用している利用者への ADL(日常生活動作)や身体機能を看護係やリハビリ係と再評価したことで、オムツ使用からトイレ誘導に排泄方法を変更できた利用者の例があった。</li> <li>・外出支援として自宅を見て頂くことやなかなか会えないご家族に会うことや退所時指導書に詳しく施設内での様子や介護方法を記入することにより療養支援を実施した。</li> </ul>
リハビリテーション	<p>①感染症予防対策のために、入所と通所にてリハビリ器具を分けて使用し、他係と連携した標準予防策を実施していく。また、施設内感染対応時には、入所と通所を分けた職員配置が出来るように体制を整備していく。</p> <p><u>◇評価(具体的な実行内容と成果)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防対策のため、リハビリ機器(セラバンド、重錘、ボール)は常時入所、通所で分けて使用した。その他、平行棒や階段等の手すり等についても使用後にアルコールでの消毒を実施できた。</li> <li>・施設内感染対応時には、通所・入所で担当職員を分けて配置し、業務出来るような体制とした。</li> </ul> <p>②車椅子・歩行器を安全に利用して頂くため、身体機能に合わせたブレーキやキャスターの調整、座面等の点検を定期的を実施する。</p> <p><u>◇評価(具体的な実行内容と成果)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故予防として利用者の身体機能に合わせて適宜、ブレーキやキャスターの調整、座面等の点検に加えて、車椅子のパンクやその他の修理等、必要に応じて部品の交換を実施した。</li> </ul> <p>③利用者の在宅生活や住環境について、映像を通して各職種と共有し、在宅を想定した効果的なリハビリや住環境の設定を実施していく。</p> <p><u>◇評価(具体的な実行内容と成果)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所前後訪問の際に利用者の在宅環境についてタブレットを利用して映像を撮影し、各係と情報共有できた。</li> </ul>



<p>栄養・給食</p>	<p>①栄養係全体で食事の質の向上を図るため、食べやすさに配慮した仕込みや調理・美味しさの伝わる盛り付けができるよう、作業手順書に調理技術に関する項目を追加し、調理技術の標準化を行う。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理技術の標準化については、介護食コーディネーターを取得した調理員の意見も参考にしながら「調理工程における留意点」をまとめ、係内会議において共有した。次年度以降も継続的に内容の更新を行なうことで標準化を進めていく。</li> </ul> <p>②食中毒などの感染症の発生を防ぐため、環境微生物検査結果（年 3 回実施）をもとに、清掃方法の点検及び見直しを行い、厨房内の衛生管理の徹底に努める。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境微生物検査の結果をもとに、係会議において清掃方法の見直しや点検を行い、6 月・10 月では衛生管理が不十分だった箇所も 2 月の検査では改善がみられた。</li> <li>特に、作業ごとの手洗いの徹底とアルコールでの消毒方法の見直しを行ったことが検査結果の改善につながった。</li> </ul>
<p>事務</p>	<p>①ご家族や地域との信頼関係を構築していくため、施設の窓口担当者として傾聴と受容の姿勢を持ち、ご家族や地域より安心の笑顔を頂けるような対応をしていく。また、事務分野だけでなく福祉に対しての理解を深め、仕事を通して日々自己研鑽し成長しながら、施設の運営を支える役割を担っていく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者やご家族へ傾聴する姿勢を忘れず、利用者一人ひとりの気持ちを尊重し思いやりある対応と、利用者やご家族が話しかけやすい表情や立ち振舞いを心掛けた。</li> </ul>

令和5年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」利用実績

①入所利用実績

	実人数						延べ日数
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
4月	3	1	10	11	7	32	910
5月	2	1	9	12	7	31	894
6月	2	1	7	15	6	31	866
7月	3	1	9	15	6	34	906
8月	4	2	10	14	6	36	1,044
9月	4	4	10	13	7	38	1,046
10月	3	4	11	16	7	41	1,033
11月	2	3	9	16	7	37	1,004
12月	5	2	8	15	8	38	1,035
1月	6	3	8	14	8	39	1,148
2月	6	2	8	14	7	37	1,061
3月	7	3	9	13	7	39	1,116
合計	47	27	108	168	83	433	12,063
前年度	(31)	(12)	(88)	(172)	(108)	(411)	(11,643)

②介護度年齢別状況

※()内は前年度実績

		～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男性	要介護1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	要介護2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	要介護3	0	0	0	0	2	4	2	2	0	10
	要介護4	0	0	0	0	1	2	2	0	0	5
	要介護5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	小計	0	0	0	1	4	6	6	2	0	19(17)
平均	0.0	0.0	0.0	1.0	3.8	3.3	3.0	3.0	0.0	3.1(3.1)	
女性	要介護1	0	0	0	0	0	2	4	1	0	7
	要介護2	0	0	0	0	0	0	4	2	0	6
	要介護3	0	0	0	0	1	3	1	1	0	6
	要介護4	0	0	1	0	1	3	6	1	1	13
	要介護5	1	0	0	0	1	2	4	3	0	11
	小計	1	1	1	0	3	10	19	8	1	43(47)
平均	5.0	4.0	4.0	0.0	4.0	3.3	3.1	3.4	4.0	3.3(3.9)	
合計	1	0	1	1	7	16	25	10	1	62(64)	
平均										3.2(3.75)	

男性平均 88.3歳 女性平均 89.8歳 全体平均 89.3歳 最高 101歳 最低 62歳

③入退所状況

	自宅		GH		小規模		有料等		老健		特養		病院		永眠	合計		
	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所		退所	入所	退所
4月	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	4	
5月	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	
6月	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	3	
7月	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	2	
8月	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	
9月	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	6	
10月	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9	6	
11月	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	7	
12月	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8	1	
1月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	3	
2月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	2	
3月	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	
合計	36	25	3	0	0	0	0	0	1	1	0	2	6	0	13	46	41	
前年度	(20)	(14)	(0)	(0)	(4)	(2)	(2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(6)	(8)	(3)	(14)	(35)	(39)	

④市町村別年間実人数

市町村名	男性	女性	計
西会津町	19	43	62
会津坂下町	0	0	0
柳津町	0	0	0
計	19	43	62

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	217	249	209	275	224	192	310	187	186	186	207	396
経管栄養者人数	88	90	87	87	93	90	85	85	82	73	58	60
PEG・Mチューブ交換	1	0	1	0	1	1	1	0	2	1	0	0
Hr.カテ挿入者人数	30	30	29	29	31	37	92	58	66	62	84	100
Hr.カテ交換	2	4	3	4	5	3	8	6	7	5	6	8
膀胱洗浄	3	4	5	3	4	6	2	1	5	4	5	9
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	4	5	8	3	8	4	2	5	2	0	3	3
臨時検査	9	8	6	1	7	5	163	137	6	195	9	16
点滴 Div	24	43	8	3	34	39	45	69	79	61	29	20
抗生剤 iv	1	14	0	0	18	1	13	18	38	32	20	17
インスリン	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	25	31
受診	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0

処置人数	2838件
経管栄養者人数	978件
PEG・Mチューブ交換	8件
Hr.カテ挿入者人数	648件
Hr.カテ交換	61件
看取り	11件

膀胱洗浄	51件
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	47件
臨時検査	562件
点滴 Div	454件
抗生剤 iv	172件
インスリン	57件
受診	5件

1. 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
1	令和5年度全会津介護支援専門員協会総会・記念講演	地域包括ケアシステム構築における在宅医療・介護連携推進事業の取組みについて 講師 会津若松市在宅医療・介護連携支援センター	介護支援専門員 兼 支援相談員	小林栄里	R5. 4. 17	全会津介護支援専門員協会  憩の森相談室 (オンライン研修)
2	令和5年度老人福祉施設職員研修 I	「認知症の方をよりよく理解するために ～パーソン・センタード・ケアを学ぶ～」 ・パーソン・センタード・ケアの理念と基本的視点 ・認知症をもつ人の立場に立つ ・映像を見た上でのグループ討議等 講師 NPO法人 パーソン・センター・ケアを考える会 代表 村田康子 氏	理学療法士  介護員	渡部広  山口百合子	R5. 6. 5	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会  憩の森相談室 (オンライン研修)
3	令和5年度前期甲種防火管理新規講習	1. 防火管理の意義及び制度 2. 管理の進め方と消防計画 3. 火気管理 4. 危険物の安全管理 5. 自衛消防 6. 地震対策 7. 施設設備の維持管理 8. 施設整備の維持管理 9. 消防用設備の操作要領 10. 避難訓練実技	介護リーダー	佐藤広也	R5. 6. 8～ 6. 9	喜多方広域市町村圏組合  喜多方地方広域市町村圏組合消防本部

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
4	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員研修	1. 中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 2. 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める 3. 中堅職員としてのフォローアップの醸成 4. チームケアと問題解決－遭遇要因分析－ 講師 福島県社会福祉協議会人材研修課 課長高岡寿哉氏 主幹 斉藤知道 氏 社会福祉法人愛星会 理事長 星光一郎 氏 白河学園 園長 鈴木栄一 氏 5. 啓発科目の講義と演習 6. 行動指針の策定 7. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県老人福祉施設協議会 事務局長 高木健 氏 特別養護老人ホーム聖・輝きの郷 園長 斎藤龍哉 氏 社会福祉法人誠心会 理事兼事務局長 谷平耀宗 氏 福島県社会福祉協議会 地域福祉課 主幹 大和田誠 氏	介護員 理学療法士兼 介護支援専門員 介護員 介護員 准看護師	齋藤良平 渡部嘉奈子 黒澤裕明 青津泰平 酒井剛	R5. 6. 22～ 6. 23 R5. 6. 29～ 6. 30 R5. 7. 20～ 7. 21 R5. 7. 27～ 7. 28	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター
5	令和5年度キャリアパス制度運用研修	1. キャリアパスを整理する 2. キャリアパス制度の「全体像」を確認にする (講義・演習) 3. キャリアパス構築の方法(講義・演習) 4. 機能するキャリアパスのポイント1(講義・演習) 5. 機能するキャリアパスのポイント2(講義・演習) 6. 機能するキャリアパスのポイント3(講義・演習) 7. キャリアパス制度の最終点検 講師 エイデル研究所 経営支援部 コンサルタント 鷹木大輔 氏	副施設長兼 理学療法士 看護課長兼 看護係長兼 介護支援専門員	横谷貴之 八幡一子	R5. 7. 25～ 7. 26	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 憩の森相談室 (オンライン研修)
6	令和5年度 福島県小規模多機能型 サービス等計画作成担当 者研修	総論・小規模多機能ケアの視点 ケアマネジメント論 地域生活支援とチームワークアプローチ ケアマネジメントと居宅介護支援計画作成の実際	介護支援専門員 兼 支援相談員	小林栄里	R5. 8. 8～ 8. 9	一般社団法人福島県 認知症介護指導連絡会 1日目 憩の森相談室 2日目福島県男女 共生センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
7	令和5年度 キャリアパス制度課題研 修「第1回」	1. 新任職員にとってのキャリアパスとは何か 2. 新規採用職員の幾志 3. 新規採用者育成計画からOJTチェックリストの作成を 考える 4. OJTチェックリストを作成する 5. 自法人に合わせたOJTチェックリストの作成	副施設長兼 理学療法士	横谷貴之	R5. 8. 29～ 8. 30	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会  憩の森相談室 (オンライン研修)
8	令和5年度 キャリアパス制度課題別 研修「第2回」	「社会福祉施設の組織における人材育成の考え方」 1. 組織の目的 2. (演習)階層の役割遂行に必要な知識、技術を設定する 3. 能力を身に付ける手法(育成の手法) 4. 育成スタイル(SDS)特徴と方法 5. (演習)各階層に求められる知識・技術・能力を身に着け るための研修を設定する 6. 人事育成計画作成の総仕上げ 他 講師 株式会社エイデル研究所 経営支援部 経営支援部 次長 鷹木大輔 氏 人材育成支援部 主任 増田直哉 氏	副施設長兼 理学療法士	横谷貴之	R5. 9. 25～ 9. 26	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会  憩の森相談室 (オンライン研修)
9	令和5年度 福祉職員キャリアパス 対応生涯課程 管理職員研修	1. 管理職員としてのキャリアデザインと環境整備 2. 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する 3. 人材アセスメント 4. 啓発科目の講義と演習 5. 行動指針の策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 株式会社エイデル研究所 経営支援部 主任コンサルタント 社会保険労務士 田中幹也 氏	介護係長	大田真紀	R5. 10. 12～ 10. 13	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会  福島県総合 社会福祉センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
10	令和5年度 後期甲種防火管理 新規講習	1. 防火管理の意義及び制度 2. 防火管理の進め方と消防計画 3. 火気管理 4. 危険物の安全管理 5. 施設整備の維持管理 6. 自衛消防 7. 地震対策 8. 消防用設備の操作要領 9. 避難訓練実技	副施設長兼 理学療法士  リハビリ係長兼 作業療法士	横谷貴之  長嶺耕一	R5. 10. 23～  10. 24	喜多方広域市町村圏組合  喜多方地方広域市町村圏組 合消防本部
11	令和5年度 看取り研修会	1. 地域包括ケアと看取り 講師 全老健 常務理事 折茂賢一郎 氏 2. 新型コロナウイルス感染症と看取り 講師 全老健 常務理事 大河内二郎 氏 3. アドバンスケアプランニング	准看護師	伊藤美和子	R5. 11. 9	全国老人保健施設協会  憩の森相談室 (オンライン研修)
12	令和5年度 キャリアパス制度に おける評価実務者研修	～正しい評価でキャリアパスを機能させ、職員モチベーショ ン向上に寄与する～ ・キャリアパスに評価が必要な意味を理解する ・様々な評価の仕組みと取り組み方のポイント ・目標管理運用のポイント ・キャリアパス連携型評価制度を構築する ・評価結果の活用方法を考える ・人材育成を目的として面接のあり方を学ぶ ・職員のモチベーションを高める面接の実践 ・正しい評価の手法を学び人材育成に活かす ・評価ケーススタディ 講師 株式会社エイデル研究所 経営支援部 コンサルタント 鷹大輔 氏	副施設長兼 理学療法士  介護係長  リハビリ係長兼 作業療法士	横谷貴之  大山俊  長嶺耕一	R5. 11. 7～  11. 8	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会  憩の森相談室 (オンライン研修)

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
13	令和5年度 福祉職員キャリアパス 対応生涯研修課程 チームリーダー研修	1. チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 2. 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成 3. OJTの効果的促進 意図的・計画的職員指導・育成の展開 講師 福島県社会福祉協議会 事務局次長・総務企画課長 村島克典 氏 金山町社会福祉協議会 事務局長 加藤ゆき 氏 福島市社会福祉協議会 元 事務局長 遠藤潔 氏 4. 啓発科目の講義と演習 5. 行動指針の策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉協議会 事務局次長・総務企画課長 村島克典 氏 社会福祉法人つばさ福祉会 理事長 古川彰彦 氏 生活介護事業所父の夢 サービス管理責任者 国分祐樹 氏	リハビリリーダー 兼理学療法士  事務リーダー  介護リーダー	渡部広  目黒はるか  佐藤広也	R5.11.9～ 11.10  R5.11.16～ 11.17  R5.11.21～ 11.22	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会  福島県総合 社会福祉センター
14	令和5年度 社会福祉施設栄養士研修	～糖尿病の食事の関わり方について～ ・糖尿病ってどんな病気？栄養士にできること ・糖尿病の栄養管理の基本と食事・おやつについて ・栄養指導の実際と食事改善の取り組み方 ・糖尿病の利用者さんの事例検討・意見交換 講師 福島学院大学 食物栄養学科 准教授 田村佳奈美 氏	栄養係副係長兼 管理栄養士	佐藤明日香	R5.12.13	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会  憩の森相談室
15	令和5年度 苦情解決者・第三者委員 研修	1. 権利擁護における意思決定支援について 2. 苦情解決制度の仕組みと意義について 3. 安全配慮義務違反の予防について 4. 具体的な事例を通しての事前予防	副施設長兼 理学療法士	横谷貴之	R5.12.15	福島県運営適正化 委員会  郡山ユラックス熱海



No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
16	令和5年度 現任認定調査員研修会	1. 福島県の介護保険制度の運営状況 2. 要介護認定業務分析 3. 認定調査員初任者研修ツールの解説等	看護課長兼 看護係長兼 介護支援専門員  介護支援専門員 兼 支援相談員	八幡一子  小林栄里	R5. 12. 19	福島県保健福祉部 高齢福祉課  憩の森相談室
17	令和5年 介護対応研修会	「認知症の人への口腔と食の支援 ～経過とともに伴走しながら～ 講師 東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム 研究員 枝広あや子 氏	介護員	江川友子	R6. 1. 26	福島県歯科医師会  憩の森相談室 (オンライン研修)
18	令和5年度 会津地区老人福祉施設 協議会研修会	介護現場での外国人労働者の受け入れについて各施設より報告 1. かねやまホーム 2. しょうぶ苑 3. 桐寿苑	副施設長兼 理学療法士	横谷貴之	R6. 1. 26	会津地区 老人保健施設協議会  憩の森相談室 (オンライン研修)
19	高齢者の権利擁護身体拘束廃止 ～身体拘束ゼロの真に目指すもの～	「虐待や身体拘束の防止に向けて」 ・虐待や身体拘束が起きる要因とは ・支援上の課題となることは何か 講師 特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー 理事・事務局長 鳥海 房枝 氏	准看護師	酒井剛	R6. 2. 2	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会  憩の森相談室 (オンライン研修)

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所
20	西会津町認知症ケアスキルアップ研修会	認知症ケアの今とこれから 講師 NPO法人 地域生活サポートセンター 認知症介護研究・研修東京センター 客員研究員 小森由美子 氏	介護員 介護員	黒澤裕明 神田春佳	R6. 3. 6	西会津町(福祉介護課) 道の駅よりっせ
21	社会福祉施設における防火研修会	1. 福祉施設の火災事例について 2. 福祉施設における防火管理について 3. 火災発生時の対策及び対応方法について 4. 消防用設備の使用方法等について	リハビリ係長兼 作業療法士 介護員	長嶺耕一 長谷川良三	R6. 3. 21	喜多方広域市町村圏組合 喜多方地方広域市町村圏組合消防本部

## 2. 施設内研修状況

	研修内容	企画開催	参加職種	参加人数	開催日
1	接遇向上研修会	施設内研修委員会	全職員	45名	R5. 5. 22 R5. 5. 26
2	消防設備の説明	防災管理委員会	新人職員・異動職員	2名	R5. 5. 29
3	感染予防対策研修会	感染対策委員会	全職員	45名	R5. 6. 23 R5. 6. 26
4	高齢者虐待防止に関する研修会	権利擁護委員会	全職員	49名	R5. 7. 24 R5. 7. 28
5	オムツの勉強会 オムツの選び方と正しい使い方 ～利用者と看護・介護者の健康と安全を守るために～	排泄ケアプロジェクト ユニ・チャーム株式会社	介護員	14名	R5. 8. 23
6	認知症ケア研修会	施設内研修委員会	職員会議参加者	30名	R5. 8. 25 R5. 8. 28
7	排泄ケア 実地指導	排泄ケアプロジェクト ユニ・チャーム株式会社	対象職員	2名	R5. 9. 19
8	介護施設における防災について 防災訓練（机上）	防災対策委員会	職員会議参加者	32名	R5. 9. 22 R5. 9. 25
9	事故防止対策研修会 褥瘡予防対策研修会	事故防止対策委員会 褥瘡予防対策委員会	職員会議参加者	32名	R5. 11. 20 R5. 11. 27
10	感染予防対策研修会	感染対策委員会	全職員	44名	R5. 12. 15 R5. 12. 18
11	身体拘束廃止研修会	権利擁護委員会	全職員	49名	R6. 1. 22 R6. 1. 26

12	転倒等の事故の捉え方と対策の立て方	事故防止対策委員会 ※介護クリエイター来所	職員会議参加者	30名	R6. 2. 9 R6. 2. 16
13	排泄ケア 実地指導 新人職員への排泄指導	排泄ケアプロジェクト ユニ・チャーム株式会社	対象職員	2名	R6. 2. 13
14	消防設備の説明	防災管理委員会	新人職員・異動 職員	2名	R6. 2. 16
15	福祉施設における災害対策について	防災対策委員会	職員会議参加者	27名	R6. 3. 18 R6. 3. 22
16	排泄ケア 実地指導 新人職員とベテラン職員への排泄指導	排泄ケアプロジェクト ユニ・チャーム株式会社	対象職員	2名	R6. 3. 26

### 3. 自己啓発支援制度（SDS）状況

	研修内容	企画開催	参加職種	参加人数	開催日
1	介護予防推進リーダーおよび地域ケア会議推進リーダー	日本理学療法士協会	理学療法士	1名	R5. 5. 21
2	令和5年度福島県介護支援専門員実務研修受講試験勉強会	リハビリ係他	受験予定者	5名	R5. 8～ R5. 10
3	令和5年度介護対応研修会	福島県歯科医師会	栄養副係長兼 管理栄養士	1名	R6. 1. 26
4					
5					
6					

令和5年度栄養実績報告

介護老人保健施設 憩の森

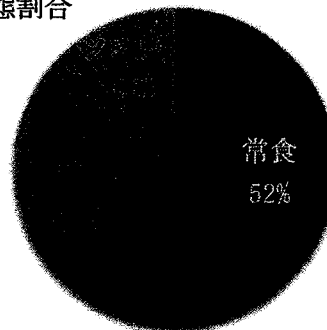
1. 給与栄養目標量および給与栄養量（食種：常食）

	給与栄養目標量	給与栄養量（年平均）
エネルギー (kcal)	1400.0	1460
たんぱく質 (g)	60.0	58.7
脂質 (g)	35.0	35.1
炭水化物 (g)	170.0	210.5
食物繊維 (g)	18.0	13.4
ポリフェノール活性当量 (μgRAE)	650.0	577.8
ビタミンB1 (mg)	1.0	1.6
ビタミンB2 (mg)	1.0	1.3
ビタミンC (mg)	100.0	90
カルシウム (mg)	600.0	779.5
鉄 (mg)	7.0	10.4
食塩相当量 (g)	7.0	6.6

2. 食事形態（R6.3.31現在）

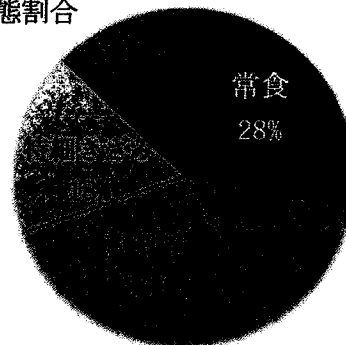
主食	(人)
常食	24
粥	17
ソフト粥	5
合計	46

主食形態割合



副食	(人)
常食	13
一口きざみ	6
きざみ	13
特細きざみ	8
ソフト	6
合計	46

副食形態割合



\*うち特別食  
・心臓病食1人  
・腎臓病食1人

3. 給食実績

食数（1食平均）	給食材料費（1日平均）
46.4食	795.6円

4. 行事食

※特別養護老人ホームさゆりの園と同様

令和5年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所（予防）療養介護事業所事業報告

1. 基本方針の評価

※「憩の森」と同様のため省略

2. 重点目標

(1) 健康経営・健全経営への取り組み

医療的緊急入所の受け入れ体制も維持した。

※「憩の森」と同様の箇所は省略

(2) 職員の接遇と専門性の向上

看取りケアを3件実施することができた。

※「憩の森」と同様の箇所は省略

(3) 地域に信頼される施設づくり

※「憩の森」と同様のため省略

令和5年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護 実施報告

(1) 健康経営・健全経営への取り組み

職種・係	実行計画内容
相談	※「憩の森」と同様のため省略
医療・看護	①～② ※「憩の森」と同様のため省略  ③医療対応が受けられる施設として入所者・家族が安心して利用できるように、体調変化や重症化予防への医療提供体制を継続していくことで健全経営に取り組む。 ◇評価（具体的な実行内容と成果） ・在宅での褥瘡、食事量の低下、脱水等ご利用時の状態観察異常の早期発見に努め、担当医と連絡・連携しながら必要な処置を行う事で、在宅復帰を推進していく体制が継続できた。
介護	① ※「憩の森」と同様のため省略  ②健全な経営を図るため、各係と連携し科学的介護推進体制加算等の取得体制を継続していく。 ◇評価（具体的な実行内容と成果） ・現在、短期入所利用者に関しては科学的介護推進体制加算（LIFE 加算）の取得要件とはなっていない。しかし、ショートステイの利用者が長期入所されることも多々あるため、福祉見聞録の記録、サービス担当者会議等での情報共有は実施している。さらに、多職種とのミーティングを再開したことでアセスメントやカンファレンス等、緻密な情報共有を継続できる体制を整えた。
リハビリテーション	※「憩の森」と同様のため省略
栄養・給食	※「憩の森」と同様のため省略
事務	※「憩の森」と同様のため省略

(2) 職員の接遇と専門性の向上

係・部門	実行計画内容
相談	※「憩の森」と同様のため省略
医療・看護	※「憩の森」と同様のため省略

介護	※「憩の森」と同様のため省略
リハビリテーション	※「憩の森」と同様のため省略
栄養・給食	※「憩の森」と同様のため省略
事務	※「憩の森」と同様のため省略

(3) 地域に信頼される施設づくり

係・部門	実行計画内容
相談	<p>① ※「憩の森」と同様のため省略</p> <p>② 町や診療所からの要請により、緊急入所が必要な場合の受入れ先として対応していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>  ・医療的緊急入所の受け入れ先として対応していくために、要請があった場合には可能な限りベッドを調整し、受入れることができる体制を整備した。</p>
医療・看護	※「憩の森」と同様のため省略
介護	<p>①～② ※「憩の森」と同様のため省略</p> <p>③ 在宅復帰・療養支援のため、生活状況を的確に把握し、各関係機関と連携を図りながら介護サービスを展開していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>  ・短期入所送迎時に家族との関わりから知りえた情報を相談員、看護係、リハビリ係など各関係機関に伝え、情報共有することができた。  ・訪問介護事業所との連携においては、施設内の様子など連絡帳等で情報伝達することができた。  ・ご自宅で転倒されトイレ自立だった利用者が利用された際は、在宅復帰を目指すために利用中に排泄動作の確認を行い、リハビリ係と連携し自立での排泄動作が出来るよう支援を行い、再度自宅で排泄できるような支援につながった。</p>
リハビリテーション	※「憩の森」と同様のため省略
栄養・給食	※「憩の森」と同様のため省略
事務	※「憩の森」と同様のため省略



令和5年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護 利用実績

①短期入所療養介護利用実績

	実人数								計	延べ日数
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5			
4月	0	0	7	3	12	12	5	39	508	
5月	0	1	8	5	13	12	5	44	589	
6月	0	1	10	5	13	12	4	45	574	
7月	0	2	9	5	11	14	4	45	603	
8月	0	1	8	3	11	13	5	41	499	
9月	0	1	9	3	11	13	3	40	444	
10月	0	1	10	3	11	13	3	41	492	
11月	0	1	7	1	9	10	4	32	348	
12月	0	2	6	3	12	12	4	39	499	
1月	0	2	3	4	9	11	3	32	388	
2月	0	2	4	5	8	10	3	32	383	
3月	0	2	7	4	9	8	3	33	431	
合計	0	16	88	44	129	140	46	463	5,758	
前年度	(0)	(14)	(93)	(74)	(95)	(152)	(78)	(506)	(5,970)	

②短期入所介護度年齢別状況

※()内は前年度実績

		～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男性	要介護1	0	0	0	0	2	2	3	0	0	7
	要介護2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	要介護3	0	0	1	1	0	1	1	0	0	4
	要介護4	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	要介護5	0	0	1	0	1	1	1	0	0	4
	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	小計	0	0	3	1	5	5	6	0	0	20(29)
平均	0.0	0.0	4.0	3.0	2.3	2.8	2.2	0.0	0.0	2.6(2.9)	
女性	要介護1	0	0	0	0	0	1	8	2	0	11
	要介護2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
	要介護3	0	0	0	0	1	5	2	2	1	11
	要介護4	0	1	1	1	0	1	6	3	3	16
	要介護5	0	0	0	0	2	1	2	2	0	7
	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	小計	0	2	1	2	5	8	19	9	4	50(53)
平均	0.0	3.0	4.0	4.0	3.7	3.1	2.6	3.3	3.7	3.1(3.3)	
合計	0	2	4	3	10	13	25	9	4	70(82)	
平均	0.0	3.0	4.0	3.5	3.0	2.8	2.4	3.3	3.7	2.9(3.1)	

③入所・短期入所療養介護合算実績

※()内は前年度実績

	ロング		ショート		計		平均	
4月	910	(1,021)	508	(466)	1,418	(1,487)	47.2	(49.5)
5月	894	(945)	589	(563)	1,483	(1,508)	47.8	(48.6)
6月	866	(941)	574	(538)	1,440	(1,479)	48.0	(49.3)
7月	906	(932)	603	(568)	1,509	(1,500)	48.6	(48.3)
8月	1,044	(956)	499	(561)	1,543	(1,517)	49.7	(48.9)
9月	1,046	(936)	444	(523)	1,490	(1,462)	49.6	(48.7)
10月	1,033	(890)	492	(590)	1,525	(1,480)	49.2	(47.7)
11月	1,004	(900)	348	(554)	1,352	(1,454)	45.0	(48.4)
12月	1,035	(1,064)	499	(275)	1,534	(1,339)	49.4	(43.2)
1月	1,148	(1,090)	388	(426)	1,536	(1,516)	49.5	(48.9)
2月	1,061	(946)	383	(431)	1,444	(1,377)	49.7	(49.1)
3月	1,116	(1,019)	431	(475)	1,547	(1,494)	49.9	(48.1)
合計	12,063	(11,643)	5,758	(5,970)	17,821	(17,613)	48.6	(48.2)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	150	182	191	151	181	178	293	117	185	268	197	145
経管栄養者人数	14	22	13	13	15	16	20	8	3	0	0	0
PEG・Mチューブ交換	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0
Hr.カテ挿入者人数	16	26	33	29	25	39	31	27	28	23	6	11
Hr.カテ交換	1	2	2	2	1	2	3	2	2	0	0	1
膀胱洗浄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0
臨時検査	1	7	2	7	7	4	120	43	1	46	3	1
点滴 Div	13	29	10	16	11	22	5	0	0	25	8	17
抗生剤 iv	8	25	4	0	0	10	6	0	0	16	5	12
インスリン	0	2	2	6	0	0	0	0	0	9	4	0
受診	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

処置人数	2238件
経管栄養者人数	124件
PEG・Mチューブ交換	5件
Hr.カテ挿入者人数	294件
Hr.カテ交換	18件
看取り	3件

膀胱洗浄	0件
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	5件
臨時検査	242件
点滴 Div	156件
抗生剤 iv	86件
インスリン	23件
受診	2件

令和5年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態 度 (接遇)	サービス の質(内 容)	サービス の量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	1	0	0	0	0	0	1

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	1	0	0	0	0	0	1
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	0	0	1

令和5年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所（介護予防）リハビリテーション事業報告

## 1. 基本方針の評価

新型コロナウイルス感染症予防対策の下、サービス提供を行ってきたところであったが、令和5年10～11月に施設内で新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生した。しかし、感染予防対策の下で通常営業を継続し、施設を利用できなかった方への受け入れを行ってきた。

※「憩の森」と同様の箇所は省略

## 2. 重点目標

### (1) 健康経営・健全経営への取り組み

各係において、30分ウォーキングの実施、ポスターを使用してのストレッチ体操の啓発、「運動だより」の配布による啓蒙活動にも取り組んできた。また、ワークライフバランスに配慮した休暇取得の促進においては、休暇取得計画表を活用することで計画的な休暇所得を推進してきた。

健全経営の取り組みとしては、口腔・栄養スクリーニング加算の取得を目指してきたが、利用者毎の評価タイミングが合わない等の問題が発生し算定には至らなかった。次年度には、算定要件がより緩和されている科学的介護推進体制加算（LIFE加算）の取得を目指していく。

※「憩の森」と同様の箇所は省略

### (2) 職員の接遇と専門性の向上

専門性向上に向けての取り組みとしては、デイケア係を中心に認知症利用者へのサービス提供体制を強化した。デュアルタスク（認知課題と運動課題）による運動プログラムの導入、馴染みのある胡桃の加工作業の体験や昔懐かしい音楽映像を用いたの回想法等を導入した。加えて、在宅リハビリテーションの専門性向上のため、自立支援地域ケア会議推進リーダーや介護予防推進リーダー等の養成を行った。また SDS（自己啓発支援制度）に基づき、症例検討会や専門分野の勉強会を開催してきた。

※「憩の森」と同様の箇所は省略

### (3) 地域に信頼される施設づくり

在宅生活・在宅療養支援の取り組みとしては、タブレット等の ICT（情報通信技術機器）を用いて、利用者の在宅生活や住環境を把握し、多職種や各関係機関との協働アセスメントや情報共有に活かした。加えて、利用者の転倒予防に留意した住宅環境整備や歩行補助具の選定を実施した。

新型コロナウイルス感染症対策の取り組みとしては、始・終業時にはデイケア室の備品や福祉機器等の消毒や換気と共に、送迎後の送迎車内の消毒を実施した。加えて、常時、リハビリ機器を入所者と通所リハビリ利用者で分けて使用するようにし、施設内でクラスターが

発生した場合には、リハビリ専門職を入所と通所リハビリで兼務させず別々に分かれて配置出来るように体制を整備した。それにより、令和5年10月～11月に、施設内クラスターが発生した際にも通常営業を継続でき、短期入所を利用できなかった方の受け入れを行った。一方で、新型コロナウイルス感染症が5類感染症相当になったことで、季節行事や外出する機会を設け、花見や大山参拝等の外出支援を実施した。尚、施設内においても季節感を感じて頂くために、四季にあわせた装飾も行ってきた。

3S（整理・整頓・清掃）活動やデジタル化推進による業務効率化の取り組みについては、定期的にデイケア室内の清掃や書類を整理整頓する時間を設け業務を効率的に実施できる環境を整えた。福祉見聞録（介護記録システム）の更なる活用により記録管理体制を充実させ、各事業所との情報共有や事務業務の効率化も進めた。

※「憩の森」と同様の箇所は省略

令和5年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所リハビリテーション 実施報告

(1) 健康経営・健全経営への取り組み

職種・係	実行計画内容
デイケア	<p>①職員が健康で長く働けるために、就業時に運動（ストレッチ体操等）を行い健康管理に留意していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・職員が健康で長く働けるために、デイケア事務室にストレッチ体操のポスターを掲示し腰痛予防に取り組んだ。また、職員が各々30分ウォーキング等運動を実施した。</p> <p>②介護報酬の安定運用のため、口腔・栄養スクリーニング加算を算定していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・口腔・栄養スクリーニング加算を算定するために、栄養係と連携し進めてきた。しかし、週1回通所される利用者の場合、算定要件である通所者の口腔データと栄養データを同時期に取得することが難しく、算定には至らなかった。                      ・次年度には、週1回通所される利用者においても、加算算定しやすい科学的介護推進体制加算の取得に方針を変えて取り組んでいく予定である。</p>
リハビリテーション	<p>① ※「憩の森」と同様のため省略</p> <p>②通所リハビリにおける基本介護報酬の安定運用のため、算定要件であるリハビリテーションマネジメント体制を継続していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・電子記録ソフトである福祉見聞録システムを活用したことで、リハビリテーションマネジメント体制を効率よく継続できた。通所リハビリにおける運営基準を満たせたことで介護報酬の安定運用につなげた。</p> <p>③介護予防利用者へのサービス向上のため、運動器機能向上加算における運動プログラムに認知機能向上の要素も加えた内容に改変する。それにより、プログラムへの参加を促し加算取得率の向上を目指す。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>                      ・介護予防利用者のサービス向上のため運動プログラムに「認知機能向上」メニューとして、デュアルタスク（認知課題・運動課題）を取り入れて運動を実施したが、加算取得率の向上にはつながらなかった。次年度においては、介護報酬の改定により、運動器機能向上加算の運動プログラムを介護予防利用者全員に提供していくことになるため円滑に運営できる体制を整備していく。</p>

<p>栄養・給食</p>	<p>① ※「憩の森」と同様のため省略</p> <p>②利用者の口腔機能低下・低栄養の早期発見のため、デイケア係と協働で口腔・栄養スクリーニング加算を算定していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・デイケア係と共同で算定に向けた記録方法の確認と必要なデータの入力作業を行った。しかし、利用者ごとに算定のタイミングが異なるため、現在の利用者数では入力作業が煩雑になりやすく管理が困難であるため算定には至らなかった。</p>
<p>事務</p>	<p>①健康診断結果を元に、職員一人ひとりが自身の健康状態を把握し、健康への関心を高められるよう、こゆりちゃん健康ポイント手帳の活用とラジオ体操の取り組みを働きかける。また、職員が健康で安全に働ける環境整備とワークライフバランスを保てるよう、労働時間、年休取得状況を把握し速やかな報告・連絡を図り法令を遵守した休暇取得を促進する。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>          ・健康維持への働きかけとして、職員全体に西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳の内容を丁寧に説明し、気軽に取り組めることを理解してもらえた。参加率が年度初めでは35%だったが、令和6年3月には92%に達した。          ・労働時間、年休取得状況を把握し速やかな報告・連絡を図り作成した計画表を活用することで法令を遵守した休暇取得を促した。          ・労働時間、年休取得状況を把握し速やかな報告・連絡を図り作成した計画表を活用することで法令を遵守した休暇取得を促した。次年度も職員が健康で安全に働ける環境整備とワークライフバランスがとれた職場環境づくりを促進していく。</p>

(2) 職員の接遇と専門性の向上

係・部門	実行計画内容
デイケア	<p>①接遇の向上を推進していくために、月1回接遇チェックシートを活用し点検を行っていく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>            ・接遇チェックシートの活用までは至らなかったが、終礼時に職員同士で当日の接遇について点検を行うことで意識づけを行った。</p> <p>②認知症利用者へのサービス提供を強化するため、要支援利用者向けに、認知機能維持に効果があるとされるデュアルタスクb（認知課題と運動課題を同時に行う）の要素を取り入れた集団体操を実施していく。また、要介護利用者向けに、パズル作業活動、映像や音楽を用いて回想法を実施していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>            ・認知症利用者へのサービス提供を強化するため、タブレットやテレビで昔懐かしい映像や利用者の年代に合わせた音楽を流す等、認知症予防に効果がある回想法を実施した。            ・デュアルタスク（認知課題と運動課題）の要素が入っている運動プログラムについては、テレビに映し集団体操に取り入れ実施した。さらに、作業療法で行っているペグボードを参考に爪楊枝に色を塗り、自作のこゆりちゃんパズルを利用者と共に作成したことや胡桃を食べるまでの一連の動作を実施したことで、認知症利用者へのサービス提供を強化した。</p> <p>③各関係機関との情報共有における事務効率性を高めるために、福祉見聞録システムを活用した記録管理体制を推進していく。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>            ・福祉見聞録システムを活用した記録管理体制を整備したことで、円滑に居宅介護支援事業所等との情報共有が共有でき、事務効率性を高めることができた。</p>
リハビリテーション	<p>①～② ※「憩の森」と同様のため省略</p> <p>③在宅リハビリテーションの専門性を高めるために、スタッフの専門職団体の自立支援型地域ケア会議推進リーダー、介護予防推進リーダー等の取得を推進する。  <u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u>            ・理学療法士協会の自立支援型地域ケア会議推進リーダー、介護予防推進リーダー研修に1名受講し取得することができた。</p>
栄養・給食	※「憩の森」と同様のため省略
事務	※「憩の森」と同様のため省略



(3) 地域に信頼される施設づくり

係・部門	実行計画内容
デイケア	<p>①利用者に四季を感じてもらうことで心身の活性化を図れるように、季節に合わせた装飾作りや音楽を流し、季節行事を企画し実施していく。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に四季を感じてもらう取り組みについては、花見や大山参拝等の季節行事を企画し実施した。デイケア室内においては、塗り絵や七夕飾りづくり等四季に合わせた装飾を実施した。</li> </ul> <p>②清潔感のある施設作りのために、3S（整理・整頓・清掃）活動に取り組む。また、感染症予防対策として、施設内や送迎車の換気、手が触れる箇所の消毒を徹底していく。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔感のある施設作りの取り組みについては、月に一回、書類などを整理整頓する機会を持ち、デイケア室内の3S（整理・整頓・清掃）活動を定期的に業務に入れ込み実施した。</li> <li>・始・終業時には事務所やデイケア室内の掃除、消毒、換気、送迎使用後の車内の消毒を徹底し、感染予防対策に取り組んだ。</li> </ul> <p>③各関係機関・専門職と在宅復帰・在宅療養を意識した協働アセスメントや情報共有を行うために、ICT（情報通信技術）を活用し、利用者の在宅生活や環境を映像等にて確認できるように取り組む。</p> <p><u>◇評価（具体的な実行内容と成果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントや情報共有のため、担当者会議などでタブレットを活用し、在宅生活にて困っている場面や環境を写真や画像にすることで、係内やリハビリ係で確認した。</li> </ul>

リハビリテーション	<p>①※「憩の森」と同様のため省略</p> <p>②憩の森「基本方針」に基づき、地域における介護予防・リハビリ体制を支援するために、町の事業である訪問看護事業所リハビリ、機能訓練事業、地域リハビリ活動支援事業等に参画し協力していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における介護予防・リハビリ体制を支援するために、町の事業である訪問看護事業所リハビリ、機能訓練事業、地域リハビリ活動支援事業等に参画し協力実施した。訪問看護リハビリでは職員2名配置し、休みの際等に柔軟に対応できる体制作りを実施し、機能訓練事業へは新たに職員1名配置した。</li> </ul> <p>③利用者の在宅生活や住環境について、映像を通して各職種と共有し、在宅を想定した効果的なリハビリや住環境の設定を実施していく。</p> <p>◇評価（具体的な実行内容と成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査の際に映像を通して利用者の在宅生活や住環境を確認することで、利用者の転倒予防に留意した住宅環境整備や歩行補助具の選定を実施した。</li> </ul>
栄養・給食	※「憩の森」と同様のため省略
事務	※「憩の森」と同様のため省略

令和5年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所(予防)リハビリテーション事業所 利用実績

①通所リハビリテーション利用実績 (令和6年3月31日現在)

項目 月	開所日数	実 績 人 員			実 人 数	1日平均 利用者人数
		男 性	女 性	合 計		
4月	24	145	236	381	90	15.9
5月	24	136	232	368	85	15.4
6月	26	150	251	401	88	15.5
7月	25	155	246	401	88	16.1
8月	26	136	243	379	88	14.6
9月	24	156	209	365	87	15.3
10月	25	173	241	414	89	16.6
11月	24	156	212	368	86	15.4
12月	24	150	194	344	85	14.4
1月	23	136	167	303	78	13.2
2月	25	143	172	315	75	12.6
3月	25	163	204	367	80	14.7
合 計	295	1799	2607	4406		
平 均						15

②介護度別利用状況 (令和6年3月31日現在)

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男	1	9	8	5	5	4	1	33
女	6	14	11	8	3	5	0	47
計	7	23	19	13	8	9	1	80

③通所リハビリテーション年齢内訳 (令和6年3月31日現在)

年 齢	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合 計
男性	4	8	2	8	3	5	30
女性	5	7	5	9	12	12	50
合計	9	15	7	17	15	17	80
比率(%)	11.2%	18.7%	8.7%	21.3%	18.8%	21.3%	100%

男 性	80 歳
女 性	84.2 歳
平 均	82.1 歳

最高 最低  
98歳 56歳

④通所リハビリテーション地区別年間通所者実人数 R5.4.1～R6.3.31

性 別	野 沢	尾 野 本	群 岡	新 郷	奥 川	合 計
男性	37	23	12	10	19	101
女性	45	64	24	10	15	158
合 計	82	87	36	20	34	259

令和5年度栄養実績報告

介護老人保健施設憩の森 通所リハビリテーション

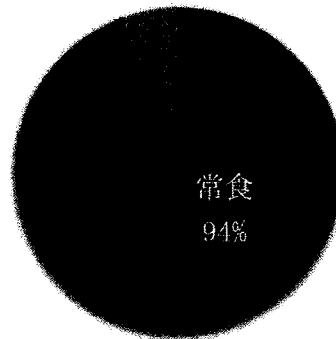
1. 給与栄養目標量および給与栄養量（食種：常食）

	給与栄養目標量	給与栄養量（年平均）
エネルギー（kcal）	1400.0	1460.0
たんぱく質（g）	60.0	58.7
脂質（g）	35.0	35.1
炭水化物（g）	170.0	210.5
食物繊維（g）	9.0	13.4
ポリフェノール活性当量（μgRAE）	325.0	577.8
ビタミンB1（mg）	1.0	1.6
ビタミンB2（mg）	1.0	1.3
ビタミンC（mg）	100.0	90.0
カルシウム（mg）	600.0	779.5
鉄（mg）	7.0	10.4
食塩相当量（g）	7.0	6.6

2. 食事形態（1週当り：R6.3/26～31）

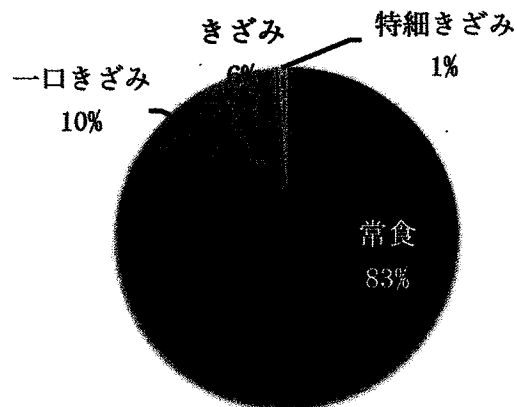
主食	（人）
常食	81
粥	5
合計	86

主食形態割合



副食	（人）
常食	71
一口きざみ	9
きざみ	5
特細きざみ	1
合計	86

副食形態割合



3. 給食実績

1回あたりの平均食数	給食材料費（1食平均）
16.6食	320.8円

4. 行事食

特別養護老人ホームさゆりの園と同様

令和5年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所リハビリテーション

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	0	0	0	1

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	1	0	0	0	0	0	1
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	0	0	1

## 1. 基本方針の評価

西会津町地域ふれあいセンター条例及び管理運営に関する規則に基づき、高齢のため、居宅において生活することに不安のある者に対し、介護支援機能や居宅機能及び、交流機能を総合的に提供し、利用者が安心して、健康で明るく自分らしく生活を送れるよう支援した。

## 2. 重点目標

### (1) 利用者の生活支援と身体機能維持

- ①冬期間、居宅において生活することが困難な高齢者に対し住居を提供し、利用者が快適に生活を営めるよう、また新規入居者においては、早期に日常生活が送れるよう、初めて使用する家電製品等の使用方法について随時説明するなどを行い、不安を解消する支援を行った。
- ②入居者の身体機能及び能力に応じ、買い物の支援や薬の管理等、自立支援を踏まえた適切な支援を意識して行った。また、介護サービスが必要である場合には、関係機関へ連絡し、適切なサービスが受けられるよう支援し、支障なく生活することに繋げた。
- ③利用者の身体機能維持のため、毎朝ラジオ体操及び棒体操を実施し、運動する機会を作るとともに、自宅に帰っても続けていただくよう運動の必要性・大切さを啓発した。

### (2) 異状の早期発見と緊急時の連絡体制の強化

- ①毎日朝と夕方の居室訪問の際には、入居者の検温の実施と健康状態の聞き取りを行い、異状があった場合には、介護支援専門員や家族等に連絡し、早期の受診に繋げる事ができた。
- ②普段から業務日誌や申し送りノートを活用し、入居者の状態について職員間で情報を共有し、有事に備えた。

### (3) 生活環境及び施設整備

- ①施設内の清掃や消毒、ごみの処分や整理整頓などを行い快適に過ごしていただけるようにした。感染症に関しては、職員全員で感染情報を把握・共有し、日頃より感染防止の配慮をし、入居者・職員共に感染はなかった。
- ②SDG s の取り組みとして、紙や封筒を再利用するなど、資源を有効に活用した。また、不要な照明の消灯や適切な室温管理により節電に努め、電気代金の削減に繋がった。

令和5年度 地域ふれあいセンター居住部門利用状況

1. 年齢内訳 【月初日現在】

単位：人

	男				小計	女				小計	合計
	81~ 85	86~ 90	91 ~95	96~		81~ 85	86~ 90	91 ~95	96~		
4月	2	1	0	0	3	1	5	1	1	8	11
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	1	1	0	0	2	1	1	2	1	5	7
1月	1	1	0	0	2	1	3	3	1	8	10
2月	1	1	0	0	2	1	3	3	1	8	10
3月	1	0	0	0	1	1	3	3	1	8	9
合計	6	4	0	0	10	5	15	12	5	37	47

月平均利用者数(前年度)：. 9. 0名(6. 2名)

2. 介護度別利用 【月初日現在】

単位：人

	男			小計	女					小計	計
	自立	要支援2	要介護2		自立	事業	要支援1	要支援2	要介護1		
4月	1	2	0	3	1	0	1	5	1	8	11
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	2	0	2	0	0	2	3	0	5	7
1月	0	2	0	2	1	1	2	4	0	8	10
2月	0	1	1	2	1	1	2	4	0	8	10
3月	0	1	0	1	1	1	2	4	0	8	9
合計	1	8	1	10	4	3	9	20	1	37	47

3. 入居の状況 【月初日現在】

単位：人

	~3ヶ月以内	4~6ヶ月以内	7~12ヶ月以内	1年以上	計
男	1		1	0	2
女	3		5	0	8
計	4		6	0	10

4. 退居状況 【月末現在】

単位：人

	男				小計	女				小計	計
	自宅	入院	死亡	その他		自宅	入院	死亡	その他		
4月	3	0	0	0	3	8	0	0	0	8	11
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
2月	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2
合計	4	0	1	0	5	10	0	0	0	10	15

令和5年度

西会津町地域ふれあいセンター事業報告

月	日	地域ふれあいセンター利用状況・事業報告
4	2 3 4 5 6 16 20 23 24 27 30	退居者1名 辞令交付式 サービス調整会議 サービス連携会議・職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 事務会議 退居者3名 サービス担当者会議 退居者1名 退居者2名 事務局会議 退居者4名
5	10 11 25 29	サービス連携会議・職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 事務会議 事務局会議 理事会
6	7 8 13 28	サービス連携会議・職員会議 事務会議 評議員会 事務局会議
7	3 5 6 12 21 27	辞令交付式 サービス連携会議 事務会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 合同防災訓練 事務局会議
8	1 3 8 9	事務会議 町担当者打ち合わせ サービス調整会議 サービス連携会議
9	19	事務会議
10	3 4 12 20 26	事務会議・サービス調整会議 サービス連携会議 職員会議 町担当者打ち合わせ 事務局会議
11	8 14 17 19 20 26 27 29 30	サービス連携会議 事務会議 支援ハウス職員オリエンテーション 入居者 3名 入居者 2名 入居者 1名 入居者 1名 サービス担当者会議 事務局会議



月	日	地域ふれあいセンター利用状況・事業報告
12	1 3 5 6 17 19 21 28	サービス担当者会議 入居者 2名 事務会議 サービス連携会議 入居者 1名 サービス担当者会議 理事会 事務局会議・仕事納め
1	4 5 9 10 11 25 29	仕事始め 入居者 1名 事務会議 サービス連携会議 職員会議 事務局会議 退居者 1名
2	7 16 22 25	サービス連携会議 サービス担当者会議 事務局会議 退居者 1名
3	5 6 10 25 26 27 28 31	理事会 サービス連携会議 退居者 1名 事務会議 職員会議 評議員会 事務局会議 退居者 1名

○利用者の買い物援助を毎週水曜日(2月からは月曜日)、受診援助は必要に応じて行った。  
[受診援助は西診の場合に限り]